



独立行政法人福祉医療機構  
社会福祉振興助成事業

独立行政法人福祉医療機構 2025(令和7)年度社会福祉振興助成事業

# 人間と動物の医療福祉を 豊かにするための研修事業 活動報告書



2026(令和8)年3月



公益社団法人  
全国国民健康保険診療施設協議会  
Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association

## はじめに

日常の活動の中でペットを飼育している患者・利用者に遭遇することがよくあります。動物を愛玩している風景はほほえましく、さまざまな面で健康の保持・増進に関わっていることが指摘されています。その一方で衛生環境の悪化やご近所とのトラブルを引き起こした事例があるのも事実です。医療を行っている中でもペット飼育を理由とした入院拒否や飼い主が亡くなった後のペットの処遇などが話題になることを多くの従事者が経験しています。

全国国民健康保険診療施設協議会(国診協)では令和6年度に在宅療養者におけるペットに関する諸問題とその対応方法についての調査研究を行いました。そこでもペット飼育は高齢者等の健康維持に寄与することが認識される一方で、ペット飼育に関するさまざまな問題を指摘されました。しかし問題の解決策や相談先について、「ない」「わからない」という回答が多くありました。課題解決には地域全体での協力が不可欠で、ペット飼育者に対する支援の強化や、行政や動物愛護関係者との協力体制の構築が望まれると結論付けられています。

そこで国診協は令和7年度、人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業を行うことになりました。市町村、地域包括支援センター、医療・介護施設をはじめ保健・医療・介護・福祉の専門職と動物愛護関係者の間で高齢者等のペット飼育に関する効果や課題を共有し相互理解を醸成すること、支援者の対応力の向上と高齢者等の健康やQOLの向上に資することを目的とするもので、全国8か所のモデル地域で動物愛護関係者を交えた研修会を開催する事業です。参加者の多くはこれまであまり関わってこなかった分野ではじめは戸惑いもあったようですが、実際に研修会を経験すると有意義だったとの感想を多くいただきました。

本冊子はその事業の過程を報告書としてまとめたものです。課題の重要性をご理解いただき、各地でこの研修会が開催されることを願っております。

事業の実施にあたり助成をいただきました独立行政法人福祉医療機構に深く感謝申し上げます。

# 目次

はじめに .....	3
------------	---

<b>第 1 章 活動概要</b>	<b>5</b>
-------------------	----------

<b>第 2 章 活動体制整備</b>	<b>8</b>
---------------------	----------

<b>第 3 章 実際の取り組み</b>	<b>12</b>
----------------------	-----------

<b>第 4 章 事業のまとめ</b>	<b>55</b>
---------------------	-----------

## 参考資料

1) アンケート調査 集計結果	
1. 地域診断アンケート .....	64
2. 地域診断アンケート【ケアマネジャー抽出版】 .....	73
3. 実務者研修会参加者アンケート .....	78
4. 各連携団体で実施した研修会参加者アンケート .....	79
2) 本事業で作成した各種教材等	
1. 研修会開催の手引き .....	81
2. 研修会プログラム .....	83
3. 研修会教材 .....	86
4. 解決に向けた参考資料 .....	103



# 第1章

# 活動概要



## 事業の概要

本事業は、地域包括ケアシステムにおいて構成される市町村、地域包括支援センター、医療・介護施設をはじめ保健・医療・介護・福祉の専門職と動物愛護関係者の間で高齢者等のペット飼育に関する効果や課題を共有し相互理解を醸成することを目的としています。あわせて、支援者の対応力の向上を図るとともに、高齢者等の健康やQOLの向上に資する地域連携モデルを構築することを目指す事業です。本事業においてモデル事業を実施する全国8カ所の連携団体を中心に地域内の多職種で実行チームを結成し、動物愛護関係者と保健・医療・介護・福祉の専門職が協働して研修会を実施することで、ペット飼育をめぐる効果と課題を共有し、地域における実践的な連携体制の構築を推進する事業です。

## (1)事業の背景と目的

我が国では高齢化の進展とともに、在宅療養者や独居高齢者が増加しています。一方で、犬約684万頭、猫約907万頭が飼育されている現状からも明らかなように、ペットは多くの家庭にとってかけがえのない存在となっています。とりわけ高齢者にとって、ペットは生活の張りや生きがいをもたらし、健康維持やQOL向上に寄与する重要なパートナーです。

しかしながら、令和6年度に実施した「在宅療養者におけるペットに関する諸問題とその対応方法についての調査研究」(公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会 調査研究委員会)において、飼い主の入院・施設入所・死亡時のペットの処遇、多頭飼育や衛生問題、入院拒否などの課題が全国的に顕在化していることが明らかとなりました。また、多くの医療・介護現場において「相談先が分からない」という実態も浮き彫りとなり、課題解決には地域全体での連携体制構築が不可欠であることが示されました。

これらの成果と課題を踏まえ、本事業「人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業」は、令和7年度独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の助成を受けて実施するものです。本事業は、地域包括ケアシステムを構成する市町村、地域包括支援センター、保健・医療・介護・福祉の専門職と、動物愛護関係者が相互に課題と効果を共有し、理解を深めることを目的としています。単なる実態把握にとどまらず、支援者の対応力向上と、高齢者等が安心してペットと暮らせる地域づくりに資する実践的な研修モデルの構築を目指しています。

## (2)事業内容

本事業は、以下の5つの柱に基づき実施しました。

## 柱立て1 委員会の設置

事業全体の企画・管理・連携団体との連絡・情報共有を行う場として、「人間と動物の医療福祉を豊かにするための検討委員会」を設置しました。地域の実情に応じつつ、全国的に応用可能な研修モデルの構築を視野に入れ、効果的な研修内容を検討し、運営方法を含めた基本プログラムを作成しました。

## 柱立て2 (連携団体：モデル事業実施地域) 実行チームの構築と現状把握

連携団体ごとに地域における行政、社会福祉協議会、動物愛護団体等の状況を把握し協力要請など準備を進め運営体制を整備しました。各地域の状況は柱立て1の検討委員会に集約し、研修会の企画運営を検討する際の基礎資料としました。各連携団体の地域において、行政(市町村)、医療従事者、地域包括支援センター、社会福祉協議会(市町村)等をメンバーとする実行チームを構築し、地域の実態把握を行いました。

実行チーム結成後は、事前学習及び情報収集を通じて地域の現状把握に努めました。具体的には、ペットに関する諸問題の発生事例の把握や、問題発生時の相談先の有無・機能状況について調査しました。また、動物愛護関係者との連携の発展段階を把握するために、以下の評価指標を用いました。

Zero：相談先不明で連携を模索している段階

A：相互に知り合う段階

B：相互理解が進む段階（相互に大事にしているところが理解される）

C：実際に協働できる段階

D：相互に相談しあうルートが確立する段階

その結果、多くの地域がZeroの段階にあることが明らかとなりました。このため、本年度はまず動物愛護関係者と知り合い相互理解を進めることを目標としました。一方で、既にC・Dの段階にある地域では、実行チームのメンバーを発展させ、行政(県)、社会福祉協議会(県)、動物愛護団体との協力関係を強化する取り組みもみられました。

## 柱立て3 研修会教材と手引き作成、実務者研修会開催

企画委員会で、研修プログラム及び教材を開発し、それを活用して各連携団体に向けた実務者研修会を開催しました。

研修プログラム及び教材は、

- ・地域の状況に合わせたプログラム立案の手法
- ・必要教材の作成(有識者の監修を受けて作成)
- ・研修会の準備および運営方法をまとめた手引書

以上を体系的に整理し、各地域で再現可能な内容としました。

実務者研修会は、現地開催とWEB開催を併用し、連携団体の実務担当者が参加しました。各地域において円滑に事業実施ができる体制を整備することを目的として実施しました。

## 柱立て4 (連携団体) 研修会の開催

各連携団体において、それぞれの地域特性を踏まえた内容で研修会を開催し、関係者間の相互

理解とネットワーク構築を図りました。

研修会は各連携団体の実行チームが主体となって実施しました。研修会の基本構成は以下のとおりです。

- 1) 事業趣旨および目的の説明
- 2) ペットに関する制度・地域の現状と課題の共有
- 3) 相互理解を深めるためのグループワーク
- 4) 関係者間で連絡体制構築(連絡先交換等)
- 5) 研修前後アンケートによる意識および理解度の変化の把握

研修会の開催回数は年間3回、参加者目標は各回20名、年間延べ60名と設定しました。

### 柱立て5「活動等の振り返り(ヒアリング等)」の開催

本モデル活動の成果と課題を整理し、横展開による普及推進を図ることを目的として、各連携団体において振り返りを実施しました。振り返りにおいては、他地域の連携団体関係者、検討委員会メンバー、アドバイザーも参加し、地域資源や環境違いを踏まえた情報交換等を行いました。これにより、各地域の工夫点や課題への対応策を共有し、モデル事業としての再現性と発展可能性を検証しました。

## (3) 実施体制(委員会設置・連携団体)

### 人間と動物の医療福祉を豊かにするための検討委員会

◎◆三枝智宏(静岡県・浜松市国民健康保険佐久間病院長)＊

◆松岡保史(青森県・三戸町国民健康保険三戸中央病院副院長)

◆佐藤幸浩(富山県・かみいち総合病院長)

◆廣瀬英生(岐阜県・県北西部地域医療センター国保白鳥病院長)

◆田辺大起(鳥取県・日南町国民健康保険日南病院リハビリテーション科長)＊

◆三上隆浩(島根県・飯南町立飯南病院副院長)＊

◆中津守人(香川県・三豊総合病院副院長)

◆三浦源太(大分県・姫島村国民健康保険診療所長)＊

守下 聖(静岡県・浜松市国民健康保険佐久間病院支援室保健師)

安部美保(大分県・国東市民病院訪問看護ステーション管理者)＊

(アドバイザー)

安田幸二(岐阜県・郡上市健康福祉部高齢福祉課地域包括支援センター主任介護支援専門員)

竹内嘉伸(富山県・南砺市地域包括医療ケア部地域包括支援センター長)

(オブザーバー)

大原昌樹(担当副会長 / 香川県・綾川町国民健康保険陶病院長)

◎：委員長 ◆：モデル事業実施団体責任者 ＊：コアメンバー

# 第2章

# 活動体制整備



## (1) 全体のアウトラインの検討

人間と動物の医療福祉を豊かにするための検討委員会で検討しました。初年度の目標を地域に根ざした体制づくりとし、ボランティアやNPOなどの動物愛護活動と保健・医療・介護・福祉の間の立場の違いを克服し、課題を共に考える環境づくりを行うことを確認しました。

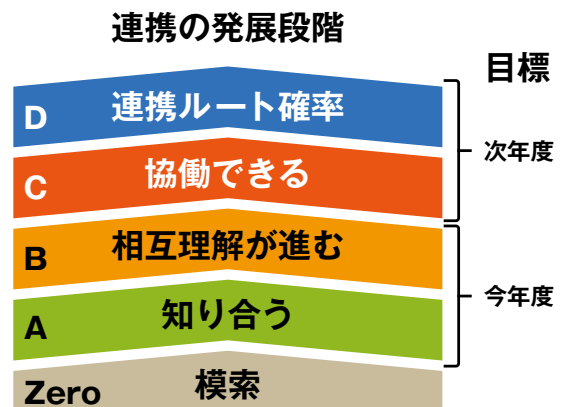
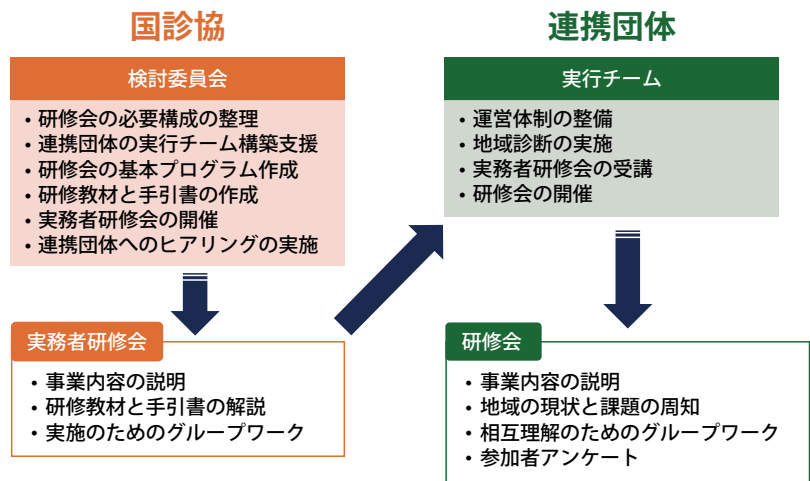
検討委員会が研修会に必要な構成を整理し、基本プログラムや研修教材、実施の手引きを作成すること、連携団体の実行チーム構成を支援し、実務者研修会を開催すること、連携団体へのヒアリングを実施することを確認しました。

実際の研修会は全国8カ所の連携団体に実行チームをつくり運営体制を整備して、研修会を開催することとしました。また、連携団体に向けて実務者研修会を行い研修プログラムや教材の解説を行うことを確認しました。

検討委員会開催の準備として行ったコアメンバー会議で当協議会が令和6年度に行った、「在宅

療養者におけるペットに関する諸問題とその対応方法についての調査研究」の結果を検討したところ、動物関係者との連携状況には地域差があることがわかりました。そこで、研修会前に地域診断を行い連携の発展が「Zero:相談先不明で連携を模索している段階」、「A:相互に知り合う段階」、「B:相互理解が進む段階」、「C:実際に協働できる段階」、「D:相互に相談しあうルートが確立する段階」のどこにあるのかを評価するとともに、検討委員会で検討する研修プログラムや教材はZeroの段階の地域に対するものとして作成することとしました。すでに連携が進んでいる地域では実行チーム内で地域の実態に合わせた研修プログラムを作成可能としました。

研修の評価として、各研修会の前後でアンケート調査し参加者の変化を確認することとしました。また、3回の研修会が終了した後に各連携団体に対し検討委員会からヒアリングを行って事業の様子を聞き取る方針としました。



## (2) 研修プログラム・教材の作成

### 1 先行活動からの学び

ゲストスピーカーとして長野県社会福祉協議会の佐藤尚治様をお招きし、ご講演をいただきました。長野県では社会福祉協議会を中心に行政や保健福祉多職種、さらに動物愛護関係者も加わり、社会福祉と動物愛護管理の連携のための研修会を定期的に開催し、全県的に展開しており、その取り組みをご紹介いただきました。佐藤様の講演からは、

- ・動物福祉上の課題の川上には人間の医療福祉課題がある
- ・問題が生じる背景には社会的孤立があり、それは外部の目からは顕在化しにくい
- ・表面化しやすい問題だけに合わせた制度をつくっても解決しないので関係者間で連携しあう力が必要で、そのためには社会福祉と動物福祉の共通理解のための認識合わせが必要
- ・考え合う機会を作るのが大切

などの学びを得ました。

### 2 研修会プログラム案の作成

学びをもとに研修会のプログラムについて検討しました。動物愛護活動と保健・医療・介護・福祉の間の立場の違いを克服し、課題を共に考える環境づくりを行うことを目的としているため、それぞれの状況について情報提供する座学と、課題を共に考えるグループワークを組み合わせたプログラムとしました。伝えたい情報はたくさんある中でグループワークの時間を十分にとるために、3回シリーズとして毎回のレクチャーの時間を短縮し、グループワークの時間を確保する方針としましたが、参加者全員が3回とも出席できるとは限らないため、単発の研修会を3回行うためのプログラムも作成しました。

### 3 研修教材の作成

研修会において情報提供するための教材を作成しました。主として検討委員会委員が参加者に伝えたいテーマを持ち寄り決定し、委員に動物関係者はいませんが、動物関係者の協力も得ながら委員で分担して作成しました。

教材番号	教材名	概要・意図
1	趣旨説明	開催の意義と目的を解説
2	昨年度の調査結果概要(5分)	昨年の研究概要について解説して本年度の研修の位置づけを強化します。多くの小規模自治体では対応に苦慮することがあり、公的な制度も確立しておらず心ある担当者が問題の対応に孤軍奮闘して何とかしている実態がある。
3	飼育のメリットと課題(10分)	東京都健康長寿医療センターの研究結果から犬の飼育者で認知症発症リスクが40%低いことやペット飼育者は介護費が半分に抑制、さらに昨年のヒアリングからのエピソードで生活の張り合いになったり、退院に向けて意欲になったりする効果を示す。一方でペットを理由とした介入拒否や急な入院や入所でペットの処遇が問題になっている。
4	医療福祉の現状(10分)	ペットによる介入拒否や急な入院入所時の処遇の問題。公的ルールで運営されている介護福祉の現場では本人のケアしかできない現状。
5	動物福祉の現状(10分)	財政的裏付けのないボランティアでできることは限られる。善意で成り立っており予防が基本。飼い主へのケアがなければ、動物側の取り組みでは限界がある。
6	不妊去勢のあれこれ(10分)	殺処分ゼロの理念のもと譲渡会やTNRなどの取り組み紹介。猫の繁殖力の高さや不妊去勢による頭数コントロールの大切さについて。
7	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者(10分)	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の増加を背景に、最初は適切に飼育できているが加齢とともに論理的思考力、判断や身体能力の低下に伴う不適切飼育になる可能性がある。また孤独・孤立など社会的な背景や、精神疾患や障害の存在も踏まえた対応も必要となる可能性について解説。
8	事例提示(5分)	困難事例提示(医療福祉関係者、動物愛護推進委員、獣医師会、ボランティアの役割)
9	自己紹介と各種問いスライド	自己紹介のアイディアスライドと各プログラムの問いスライド
10	全体統合版教材	全体を把握できるよう教材をまとめたものです。(内容が重複するため、教材番号②は除いています)

#### 4 研修会開催の手引きの作成

地域で人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修会を円滑に開催するための手順と考え方をまとめた手引書を作成しました。内容は研修会の意義、運営体制整備のポイント、研修プログラムの説明、教材の説明について記載し、実務者研修会で連携団体の実行チームに渡すとともに内容を解説しました。

### (3)連携団体での実行チームの設置運営

#### 1 実行チームの構築

連携団体の所在する地域における行政(県・市町村)、社会福祉協議会(県・市町村)、動物愛護団体等の状況を把握し、協力要請などの準備を進めるために、実行チームを構築しました。メンバーには連携団体の医療従事者のほか、行政(市町村)、地域包括支援センター、社会福祉協議会(市町村)からも参画いただく方針としました。一方、動物関係者については未だ関係性が深まっていないため参画は求めていません。しかし既に連携の発展段階が進んでいる地域では実行チームへの参加も可としました。

#### 2 地域診断の実施

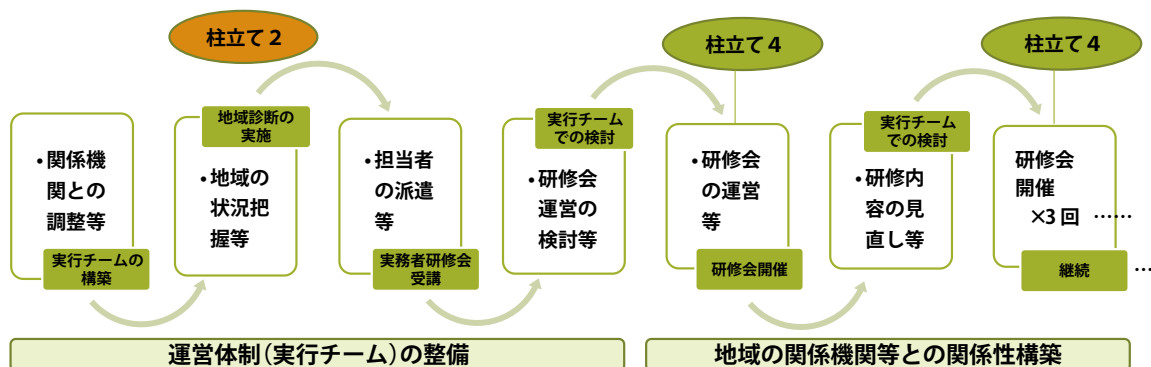
チーム結成後、地域内の保健・医療・介護・福祉の多職種に対して現状を知るためのアンケート(地域診断)を行いました。内容は、ペットに関する諸問題の発生事例、問題が生じた際の相談先の状況などで、地域の動物関係者との連携発展段階の把握も目的としました。

#### 3 動物関係者の参加要請

動物関係者に研修会へ参加していただけるように関係構築をはかりました。地域診断で現状を把握したうえで、保健所、獣医師会、動物愛護推進委員などに声掛けを行い、病院としてペットの諸問題による医療提供の課題があること、在宅で介護福祉担当者が関わる中でペットに関わる課題があることなどを説明するとともに、一緒にこの問題を取り組みたいこと、そして研修会に参加していただきたいことをお願いしに伺いました。

#### 4 研修会の計画

実務者研修会に参加して実施についての説明を受け、連携団体に持ち帰って共有し研修会の計画を行いました。3回シリーズで行うか、単発の研修会を3回行うかを含め、実施する時間帯、教材の選択も連携団体と実行チームに委ねました。



## (4)実務者研修会の実施

### 1 ねらい

本実務者研修会は、「人間と動物の医療福祉を豊かにする地域研修会」を全国各地で開催するにあたり、担当者に事業の趣旨と運営方法を体系的に伝え、自地域で研修会を開催できる自信を持っていただくことを目的としました。

### 2 対象者

本研修会は、検討委員、国診協担当副会長、各連携団体の事業実施担当者など計24名(事業実施担当者13名、委員10名、副会長1名)が参加しました。特に地域での研修会開催を担う中核メンバーとして、各地域の関係機関や団体を牽引できる実務者層の方々にご参加いただいています。

### 3 内容

研修は「地域での研修会の実施に向けて」をテーマに、4時間のプログラムで実施いたしました。前半では、昨年度の調査報告および事業全体の説明を通じて、背景と意義を共有し、地域研修会の目標や要件、実施方法について理解を深めていただきました。続いて、研修運営の流れ、広報方法、教材の使用方法を紹介し、各地域で主体的に開催できるよう具体的な運営ノウハウをお伝えいたしました。後半では、各地域の現状共有と今後の開催計画についてグループワークを行い、課題や実践に向けたアイデアを交換していただきました。

最後にアンケートを実施し、研修会は【大変満足した】と95.8%が回答し満足度の高い研修会となりました。また自身の地域で研修会が開催できると思うかを問う質問では、【十分思えた】、【やや思えた】を合わせて、全て(100%)の参加者が研修会を開催できると回答しました。本研修を通じて、各地域の連携段階を「模索(Zero)」から「知り合う(A)」「相互理解が進む(B)」へと発展させる第一歩となりました。

### 4 教材と手引きについて

使用した教材および「地域研修会開催の手引き」は、地域で研修会を開催する際の標準モデルとして作成いたしました。教材については先述したとおり、ペット飼育のメリットと課題、医療福祉・動物福祉の現状、不妊去勢の取り組み、動物の寿命延伸と高齢者問題、事例提示などが体系的に整理されており、地域の実情に応じて組み合わせて使用できる構成としています。

また「手引き」には、運営体制の整備手順、関係機関連携の発展段階(Zero～D)、および標準プログラム(単独開催・シリーズ開催)の進行例を掲載し、実務者が地域で円滑に研修会を企画・開催できるよう、具体的な支援内容を示しています。

これらの教材と手引きにより、医療・介護・動物愛護の各分野が共通の理解を持ち、地域における連携の基盤づくりを進めるための実践的な研修を開催することが可能となります。

# 第3章

## 実際の取り組み



### ＜各連携団体における研修会での使用教材について＞

各連携団体で開催した研修会において使用した教材は、以下の9点です。本章の各連携団体の研修会開催報告では、使用した教材の記載にあたり、共通して以下の教材番号を用いることとします。


教材番号	教材名	概要・意図
①	趣旨説明	開催の意義と目的を解説
②	昨年度の調査結果概要(5分)	昨年の研究概要について解説して本年度の研修の位置づけを強化します。多くの小規模自治体では対応に苦慮することがあり、公的な制度も確立しておらず心ある担当者が問題の対応に孤軍奮闘して何とかしている実態がある。
③	飼育のメリットと課題(10分)	東京都健康長寿医療センターの研究結果から犬の飼育者で認知症発症リスクが40%低いことやペット飼育者は介護費が半分に抑制、さらに昨年のヒアリングからのエピソードで生活の張り合いになったり、退院に向けて意欲になったりする効果を示す。一方でペットを理由とした介入拒否や急な入院や入所でペットの処遇が問題になっている。
④	医療福祉の現状(10分)	ペットによる介入拒否や急な入院入所時の処遇の問題。公的ルールで運営されている介護福祉の現場では本人のケアしかできない現状。
⑤	動物福祉の現状(10分)	財政的裏付けのないボランティアでできることは限られる。善意で成り立っており予防が基本。飼い主へのケアがなければ、動物側の取り組みでは限界がある。
⑥	不妊去勢のあれこれ(10分)	殺処分ゼロの理念のもと譲渡会やTNRなどの取り組み紹介。猫の繁殖力の高さや不妊去勢による頭数コントロールの大切さについて。
⑦	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者(10分)	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の増加を背景に、最初は適切に飼育できているが加齢とともに論理的思考力、判断や身体能力の低下に伴う不適切飼育になる可能性がある。また孤独・孤立など社会的な背景や、精神疾患や障害の存在も踏まえた対応も必要となる可能性について解説。
⑧	事例提示(5分)	困難事例提示 (医療福祉関係者、動物愛護推進委員、獣医師会、ボランティアの役割)
⑨	自己紹介と各種問いスライド	自己紹介のアイディアスライドと各プログラムの問いスライド

上記の教材の内容は p86-102に掲載しています。また、国診協のホームページから各教材の電子データもダウンロードが可能です。裏表紙の二次元バーコードよりアクセスしてください。



## 連携団体 1. 青森県三戸郡三戸町／三戸町国民健康保険三戸中央病院

### ①地域の概要(令和7年3月31日時点)

人口*	8,767人	
高齢者人口*	3,894人	
高齢化率	44.4%	
要介護認定者数	672人	
面積	151.9km <sup>2</sup>	
人口密度	57.7人 / km <sup>2</sup>	

※「人口」及び「高齢者人口」は令和7年1月1日時点のデータ

### ②実行チームの運営

実施体制 (6名)	三戸町国民健康保険三戸中央病院(医師・事務・社会福祉士)、地域包括支援センター(保健師)、三戸町役場 住民福祉課(事務)、三戸町社会福祉協議会(ケアマネジャー)
実行チーム 開催実績	第1回実行チーム(R7.7.24) 事業について、地区診断のためのアンケート調査について 第2回実行チーム(R7.9.11) 研修会の企画について 第3回実行チーム(R7.11.17) 第1回研修会の打合せ

### ③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	三戸町を含む近隣3町村の在宅療養に関わる医療機関、役場の人間または動物福祉を担当する部署、社会福祉協議会、介護施設など
回答数	59名
<p>&lt;結果&gt;</p> <p>回答者のうち71%が療養環境衛生上の問題があると答えました。続いて、多頭飼育崩壊や虐待など不適切飼育39%、糞尿等による近隣トラブル37%、ペットによる訪問サービス提供困難事例36%、飼育を理由にした介入や入院の拒否27%、ペット飼育を理由にしたショートステイや入所の拒否27%、在宅サービス提供時の噛みつき等のトラブル事例25%でした。</p> <p>ペット飼育について相談を受けて困った際の相談先として、51%が市町村役場と回答しました。続いて、地域包括支援センター34%、ケアマネジャー32%でした。一方で相談先がわからないと回答したのは19%でした。また、相談先を回答しかつ相談先がわからないと重複回答した人もおり、相談先が明確になっていないことも示唆されました。動物愛護関係者と回答した人は14%と低く連携が不十分であると考えられました。</p> <p>ペット飼育のメリットとなる事例も聞かれましたが、問題やトラブルも多く地域の課題が浮き彫りになりました。</p>	

④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回	
日時	令和7年11月25日(火)14時~16時
会場	三戸中央病院 2階 講義室
参加人数	計13名(人間医療福祉12名、動物医療福祉1名)+ 実行委員 4名
プログラム	趣旨説明、昨年度の調査結果概要、飼育のメリットと課題、グループワーク『安心してペットと過ごすには何が必要?』
使用教材	①、②、③のほか、⑨を加工して使用 ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>問題意識の共有と関係構築を主な目的として実施しました。導入では、本研修の背景となった昨年度の調査結果の概要を提示しました。これにより、同様の課題が他地域にも存在することへの理解を促し、研修内容への関心を高めることを意図しました。</p> <p>続いて、人間と動物の福祉の観点から、ペット飼育のメリットと課題に関するスライド教材を用いて知識の共有を行いました。</p> <p>グループワークでは、多職種で構成された3グループに分かれ、「安心してペットと過ごすには何が必要か」をテーマに意見交換を行いました。具体的には、①困難な状態を見つけたことがあるか、②日頃から関わる中で実践できることは何か、の2点について検討しました。</p> <p>各グループからは共通する課題が挙げられ、職種を超えた活発な意見交換が行われました。初めての開催ではありましたが、終始円滑に議論が進みました。当初の目的である問題意識の共有と関係構築は、一定程度達成できたと考えられます。</p>
	 
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三戸町には、ペットの困り事の窓口が存在する。ペット飼育に困った時の対応と相談できる場所が分かった。</li> <li>・福祉(人・動物)の方がどのような関わりをしているのか知ることができた。</li> <li>・飼育した時のメリットと課題について、課題がある事は把握していたが、認知症の予防等メリットも多くあることを知り、理解を深めることができた。</li> <li>・医療包括関係目線での動物(ペット)の問題、課題を知ることができた。</li> <li>・問題となる前に声をかけて家族と相談するきっかけづくり。くり返し相談。</li> <li>・これまでと異なる視点で患者様にかかわることができそうである。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各立場の方々で対応した事例や考え方を話し合えたのはよかった。</li> </ul>

第2回	
日時	令和8年1月20日(火)14時~16時
会場	三戸中央病院 2階 講義室
参加人数	計14名(人間医療福祉13名、動物医療福祉1名)+ 実行委員 4名
プログラム	趣旨説明、昨年度の調査結果概要、飼育のメリットと課題、不妊去勢のあれこれ、グループワーク『安心してペットと過ごすには何が必要?』
使用教材	①、②、③、⑥のほか、⑨を加工して使用 ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>実行委員を除くすべての参加者が初回の参加であったため、第1回目と同様に、問題意識の共有と関係構築を主な目的として実施しました。</p> <p>今回は参加者に獣医師が含まれていたことから、不妊去勢のあれこれに関するスライド教材を新たに追加しました。人と動物の福祉に関する内容に加え、専門的な視点からの情報提供を行うことで、知識の幅を広げる機会としました。</p> <p>グループワークでは、一人あたりの発言時間を確保するため、3グループから4グループに変更して実施しました。テーマは第1回と同様としましたが、今回も共通する課題が挙げられ、職種を超えた活発な意見交換が行われました。獣医師からは猫の繁殖力に関する情報提供もあり、参加者にとって新たな学びにつながりました。</p> <p>以上のことから、本研修においても問題意識の共有と関係構築が図られたと考えられます。</p>
	
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内での多頭飼育の問題点を把握した。猫の繁殖力も初めて学んだ。</li> <li>・ 動物の体のちがい、制度など、知らないことがいっぱいあったことに気付いた。早期発見の大切さ。</li> <li>・ 動物に対する飼育、不妊去勢などの知識、情報などの交換は必要。</li> <li>・ 他町村では、災害時の避難にペット可がありました。三戸町でも早期に検討していただきたいです。</li> <li>・ 情報交換ができる場所があれば良いと思いました。広報や回覧板などで周知してもらうことも必要。</li> <li>・ 介護予防に重要な効果があるとされているが、高齢になってくると、何かあったときを考えペットを飼うのを控える、という考えが少なくない。何かあったとき、預かってくれる組織があれば飼えるのに、との言葉が印象に残りました。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多頭飼育等の問題は福祉関係、医療関係、動物関係との連携が重要。このような研修会を継続してほしい。</li> </ul>

第3回	
日時	令和8年2月18日(水)14時～16時
会場	三戸中央病院 2階 講義室
参加人数	計12名(人間医療福祉11名、動物医療福祉1名)+ 実行委員4名
プログラム	趣旨説明、昨年度の調査結果概要、飼育のメリットと課題、不妊去勢のあれこれ、グループワーク『安心してペットと過ごすには何が必要?』
使用教材	①、②、③、⑥のほか、⑨を加工して使用 ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>本研修の参加者は、獣医師以外は全員が初参加でした。これまでと同様に、問題意識の共有と関係構築を主な目的として実施しました。内容は前回と同様とし、人と動物の福祉に関するスライド教材および不妊去勢に関する教材を用いて知識の共有を行いました。</p> <p>グループワークでは、「安心してペットと過ごすには何が必要か」をテーマに意見交換を行いました。今回も多職種で構成したグループで実施し、地域における課題や支援のあり方について話し合いました。</p> <p>これまでの回と異なり、参加者から獣医師に対して積極的に意見や情報を求める場面が多く見られました。専門的な立場からの具体的な助言や情報提供が加わることで、議論がより深まりました。</p> <p>以上のことから、本研修においても問題意識の共有と関係構築が図られ、多職種連携の必要性を再確認する機会となりました。</p>
	
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口が行政にもあることが分かり、今後の業務に役立てたいです。</li> <li>・去勢の費用や高齢者の助成がある事を知ることができて良かった。</li> <li>・ペットについても早期発見、早期対応が大切である。地域で関わることで可能となることを学んだ。</li> <li>・多頭飼育崩壊を事前に防ぐには、周囲の早期発見が重要であること。</li> <li>・地域で知識・情報の発信の重要性が理解できた。</li> <li>・早期発見、情報提供が必要との事で今後に生かしていきたいです。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多頭飼育問題を解決するには動物行政と医療福祉関係との連携が不可欠。ぜひこの研修会を続けて欲しい。</li> </ul>

⑤事業の効果と課題

効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種間における問題意識の共有が進み、役場・病院・社会福祉関係者に加え、動物愛護センターや動物愛護関係者との連携が進み始めました。特に、事前の説明を通じ</li> </ul>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>て動物愛護関係者と問題意識を共有できたことにより、協力的な姿勢が得られたことは大きな成果でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・福祉・介護関係者にとっては、普段あまり扱うことのないテーマであったことから、有益な学びの機会となりました。入院時に看護師がペットの状況を確認するようになるなど、行動の変化も見られました。</li> <li>・関係団体との連携が図られ、これまで関わる機会の少なかった分野の関係者とつながることができました。</li> <li>・全体として、地域における多職種連携の基盤づくりにつながったと考えられます。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の確保が難しかったことが挙げられます。開催日時や周知方法については、今後さらなる工夫が必要です。また、動物愛護関係者との連携体制の構築には苦慮する場面もあり、継続的な関係づくりと、連携の中心となる人材の存在が重要であることが示唆されました。</li> <li>・ペットに関する相談先や支援体制が徐々に可視化されてきた結果、地域における支援資源や相談先が少なく、また十分に整理・周知されていないという課題がはっきりしました。情報を分かりやすくまとめ、共有する体制づくりが求められます。</li> <li>・多職種間の連携を一過性のものとせず、早期発見・予防的な関わりを強化していくための継続的な取り組みが必要であると感じました。</li> </ul>

## ⑥事業全体を通して

<p>これまでもペットに関して課題を感じていましたが、地域診断アンケートの結果から、想定以上に問題が存在していること、また多くの関係者が同様の問題意識を持っていることを知ることが出来ました。従来は、ペットに関する問題が発生した際には個別対応を行い、その都度関係団体と協力しながら解決を模索してきました。しかし、相談窓口は必ずしも明確ではなく、動物愛護関連団体との連携は不十分でした。</p> <p>そのような中で3回の研修会を実施し、動物関連職種を含む多職種との意見交換を通じて思いを共有し、顔の見える関係づくりができたことは大変有意義であったと考えます。これにより、地域における連携の基盤づくりが一步前進しました。</p> <p>今後は、構築された関係性を維持・発展させながら、情報共有を継続的に行う体制を整えていきたいと考えています。連携を一過性のものとせず、早期発見・予防的な関わりを強化するための継続的な取り組みを進めていきたいと考えています。また、研修会や情報共有の場を継続的に開催し、より広域的な課題解決へと発展することを期待しています。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 本事業検討委員会委員からのコメント ~当地域へのヒアリングを通じて~

ヒアリングに参加してくださったメンバーに院内の事務担当者、地域包括支援センター、社会福祉協議会など各種団体が含まれ和やかに語り合っており、日ごろからの良好な関係を感じ取ることができました。

事業開始のキーパーソンとして院長・事務長をあげられたのが印象的でした。そこで病院主体で取り組む事業として位置づけられたことにより、院内ばかりでなく院外の組織にも広く協力いただけるベースになったと思われます。おそらく院長・事務長に対する説明もそうだったと思いますが、事業についての説明に丁寧さを感じました。病院と関わる町外の施設も含めて全施設に直接訪問して事業の説明を行ったこと、動物愛護センターや県獣医師会といった県レベルの団体にも直接出向いて協力を求め、実際に協力を得られたことなどからそれがうかがえます。

動物関係者からは、なぜ今病院が行うのか、という至極当然の疑問が出されたとのことですが、ここにもおそらく丁寧な説明をしてくださったのだろうと思います。この疑問に対して、いかに分かりやすく説明できるかが、この活動を他地域へ横展開する際の重要なポイントと思われました。

本文中にはありませんでしたが、獣医系大学の学生さんとの関係も続けることができると幅が広がると思います。

連携団体 2. 静岡県浜松市天竜区／浜松市国民健康保険佐久間病院

①地域の概要(令和7年3月31日時点)

人口	24,616人	
高齢者人口	11,803人	
高齢化率	48.0%	
要介護認定者数	1,980人	
面積	943.8km <sup>2</sup>	
人口密度	26.1人 / km <sup>2</sup>	

②実行チームの運営

実施体制 (8名)	浜松市国民健康保険佐久間病院(医師・保健師)、地域包括支援センター(社会福祉士)、保健センター(保健師)、在宅介護支援事業所(主任ケアマネジャー)、障がい者相談支援センター(社会福祉士)、浜松市佐久間図書館(司書)
実行チーム 開催実績	第1回実行チーム(R7.5.28) 事業について、地区診断のためのアンケート調査について 第2回実行チーム(R7.11.4) 研修会の企画について

③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	多職種132名	実施期間	令和7年6月10日～6月24日
回答数	106名	回答率	80.3%



<結果>

回答者の50%がペットによる高齢者の療養環境衛生上の問題があると答えました。続いて、糞尿等による地域トラブル26%、多頭飼育虐待の問題25%、ペット飼育を理由にした入院拒否24%、訪問サービス提供困難16%、残されたペットの処遇16%と続きました。入院などの際のペットの預け先の相談については26%が経験していましたが、このようなときに相談できるのは、日頃から連携体制にある事業所であることがわかりました。事例に応じて最善の解決策を探っていたのが現状です。動物関連の資源は地域にはほとんどない、とはいえ、自分たちに情報が不足していることも明確になりました。当地域管轄の保健所(支所)も遠方となり、気軽に相談できる場所としての認識はそれほどありませんでした。


また、ケアマネジャーが担当する高齢者(292名)のうち、動物を飼育する高齢者は全体の10%(29名)で、そのうち35%にすでに飼育に問題があることがわかり、加えて17%に将来問題が起ころうとの回答がありました。ペットの飼育が在宅医療・介護においてメリットとなる事例がある一方、緊急入院時の預かり先や相談先の整備、家族との調整、介護保険サービスの限界などが改めて課題として明確になりました。地域の動物愛護関係者との連携についてはまだ模索状態で発展段階としては『Zero』であることがわかりました。

#### ④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回	
日時	令和7年11月12日(水)14時～16時
会場	浜松市佐久間支所2階会議室
参加人数	計33名(人間医療福祉28名、動物医療福祉5名)
プログラム	趣旨説明、地域診断アンケート結果、動物の寿命延伸と一人暮らし、飼育のメリットと動物の医療福祉、動物専門職のおはなし グループワーク『地域で安心してペットと過ごすには』
使用教材	①、⑦のほか、③と④と⑤を加工して使用 ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>問題の共有と活動のきっかけづくりをねらいとしました。事業の趣旨やこの地域の現状を丁寧に伝えました。グループワークにて意見を共有し、今後に向け多職種の連携強化について考えることができました。グループワークガイドを使用したことで積極的な討論の一助となりました。動物専門職から地域のクリニックの現状、ペット総合施設の説明、動物ボランティアの働きやご苦労など生の声を伺い、互いの立場や現状について知ることができ、ぐっと身近に感じられるようになりました。今後の地域の連携力につなげていけたら、と感じました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物との共生は必要なことです。考えや知識の共有、連携が大切だと感じました。</li> <li>・獣医師や動物ボランティアと交流できました。動物を飼うこと責任について改めて考えました。</li> <li>・動物で困ったときの相談先があることがわかりました。</li> <li>・高齢者とペットの共生について問題意識を持つことができました。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獣医師から見えづかった、人の医療福祉の現場で起きている動物の問題を知ることができました。</li> <li>・地域と動物の施設とのかかわりを増やしていけるシステムがあると思いました。</li> <li>・動物ボランティアをしているとつらいことも多くありますが、この研修で『ペットを飼うメリット』を聴き、自分の活動の励みになりました。</li> </ul>

第2回	
日時	令和7年12月9日(火)14時~16時
会場	浜松市水窪文化会館2階視聴覚室
参加人数	計28名(人間医療福祉25名、動物医療福祉3名)
プログラム	趣旨説明、地域診断アンケート結果 動物の寿命延伸と高齢者の飼育のメリットと課題 動物愛護と高齢者問題(獣医師による講義) グループワーク『地域で安心してペットと過ごすには』
使用教材	①のほか、③と⑦を加工して使用 ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>1回目と同様、問題の共有と活動のきっかけづくりをねらいとしました。対象地域を変更し、隣町の水窪町にて開催しました。浜松保健所浜北支所長(獣医師)による講義をいただき、動物に関わる法律の話、行政の現場での動物問題の現状と解決方法など、大変貴重な内容でした。特に法律について学べたことで、今後課題解決をする際の根拠について考えることができたように思います。動物に関わる問題の解決方法や相談窓口、その流れを見直せたことで、ひとりで抱えず多職種で協力することの重要性をよく理解できました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物に関する法律を学び、動物を飼うこと責任を改めて感じました。高齢者や家族にも同様に説明をしたいと思います。</li> <li>・このテーマで話せる場があってよかったと思います。人の価値観をそろえることは難しいですが、責任管理など重要なことを広めていくことはできると思います。</li> <li>・ほかの部署の問題事例や経験を聞くことができ、抱え込まず相談できる環境が必要だと思いました。</li> <li>・動物の問題は人の問題でもあります。広く見極めて必要な時期に必要な人につなげる意識を持ちたいと思いました。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域猫に餌を与えるだけで管理者となり責任が生じる可能性もあります。正しい知識を持って動物と関わると良いと思います。</li> </ul>

第3回	
日時	令和8年1月7日(水)17時40分~19時35分
会場	浜松市佐久間支所2階会議室

参加人数	計42名(人間医療福祉41名、動物医療福祉1名)
プログラム	趣旨説明、地域診断アンケート結果 動物の寿命延伸と高齢者の飼育メリットと課題 グループワーク『事例をもとに、地域で安心してペットと過ごすには』
使用教材	①のほか、③と⑦を加工して使用 ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>地域の多職種研修『つながりワークショップ』との同時共催とし、病院や近隣介護施設の職員の参加を呼びかけました。参加しやすいよう、開催時間を終業後としました。若いスタッフや地域での経験が浅いスタッフも多く、今回の課題を具体的に感じてもらえるようなプログラムにしました。グループワークでは2事例をあげ、それぞれ事例検討としました。多職種でできることを中心に話し合い、高齢者と動物の問題から人生会議や防災についてまで、話題が広がり討論が盛り上がりました。想像以上に興味を示していただいたことや『職場で明日から声掛けできそう』といった言葉に大変充実感を覚えました。</p> 
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときにだれを頼ればいいのか、困らないためにどうしたらいいか、いろいろな意見が聞けました。</li> <li>・動物の問題について現状を知ることができました。</li> <li>・歩み寄り、コミュニケーションが大事、顔の見える関係を大事にしていきたいと感じました。</li> <li>・知っていることが大切です。制度、法律、資源(人、物、金)についての知識を当事者も支援者も持っていることがそれぞれを守ることに繋がると思います。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の医療福祉側の動物問題について考えるネットワークが少なく、動物の預かりや世話についての知識や情報も不足しています。</li> <li>・地域、行政、企業など一体となって考えていくことが重要かと思います。</li> </ul>

### ⑤事業の効果と課題

効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職間の連携が強化されました。連携にあまり慣れていない行政窓口の方々とも交流ができ今後の展開にも興味を持っていただけました。</li> <li>・動物関連職種との顔つなぎ、交流が進み、動物が関わる問題解決策を見つけるための人や情報をつなぐ仕組みが見えてきたように思います。</li> <li>・地域での動物に関する課題意識が高まりました。</li> <li>・動物の問題から、ACP(人生会議)や防災まで広げることができ、自分事として、また生活全体のこととして認識できました。</li> </ul>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でのネットワークづくりの強化と継続的な関係構築を図る必要があります。特に、今回つながった動物関連の専門家と継続して関係を保つことについて考えていきます。</li> <li>・研修会の企画が少ない地域の参加の呼びかけに苦労しました。興味関心を持ってもらうためにもう一工夫、有効な方法、働きかけを検討したいと思います。</li> <li>・今後は住民向けの啓発活動を行い、動物飼育に関する関心を高める必要があります。</li> <li>・多頭飼育崩壊の問題に対応するための支援体制の構築と、多頭飼育の予防策についても積極的に考える必要があります。</li> <li>・経済的な格差を考慮した支援策を検討する必要があります。特に生活困窮者の没後の動物の課題は大きいと感じます。</li> <li>・今回の研修で得られた知見を活かし、この地域の実状に合わせた具体的な解決策や連携方法を見つける必要があります。</li> <li>・動物に関する問題の相談窓口については、負担が偏らないよう、またスムーズに多職種が協力して動ける、この地域ならではの形を検討していこうと思います。</li> </ul>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ⑥事業全体を通して

事業以前は、高齢者と動物の問題には病院を中心に関係団体の協力で個別の事例に対応していました。動物関連職種との連携は『Zero』状態で、動物関連施設の情報もまとまっていませんでした。地域診断のアンケート調査から始まり、3回の研修会を実施したことで、動物に関わる問題への多職種の興味関心が次第にふくらみました。動物関連職種を含む多職種との交流を通して様々な新しい知識を得て、知ることに喜びや知ったことをどう活かすかということについても意見を交わすことができました。人間の医療福祉従事者と動物の医療福祉従事者がお互いの立場や事情を理解できたことで、今後はそれを踏まえて地域の問題にスムーズに取り組むことができると考えられます。今起きている問題の解決はもちろん、今後は問題の早期発見やその予防についても連携して考えていく必要があります。今後への課題もいくつか明確になりました。今回新しくつながった仲間との連携の継続についても、今後への大きな目標の一つとなりました。

### 本事業検討委員会委員からのコメント ～当地域へのヒアリングを通じて～


動物福祉の専門家にご協力いただいた研修会では、実践的なグループワークを通じて活発な意見交換が実現しました。なかでも、保健所所長による動物関連の法律に関するわかりやすい解説は、医療や介護・福祉関係者の認識を変えるきっかけとなったようです。「知らなかったことを知る」という体験を通じて、獣医師など動物の専門家との視点の違いを学び、同じ問題に立ち向かうための多職種連携の重要性を深く理解する貴重な機会となりました。参加者からも「動物の問題は人の生活や支援に直結する問題である」との声が多く寄せられ、大きな意識変容が見られるなどの成果がありました。

一方で、高齢者のペット飼育における通院手段の確保や経済的な問題、多頭飼育崩壊への早期対応など、地域として取り組むべき課題も浮き彫りになりました。今後も具体的な支援体制をご検討されることで、人間と動物が共に安心して暮らせる地域づくりに目が離せません。

このように大きな成果が出た背景には、担当者が関係施設へ足を運び、アンケートの趣旨を丁寧に説明しながら協力を要請した地道な活動がありました。また、実行委員の皆様が普段から緊密な連携を取り合い、お互いへの信頼感が高く活動しやすい土壌が整っていたことも大きな成功要因でした。このような「普段からの地域連携」の積み重ねこそが、今後この取り組みを他の地域へ広げていく際に極めて重要な要素になると考えられます。

## 連携団体3. 富山県上市町／かみいち総合病院

### ①地域の概要(令和7年3月31日時点)

人口*	18,657人	
高齢者人口*	7,067人	
高齢化率	37.9%	
要介護認定者数	1,338人	
面積	236.7km <sup>2</sup>	
人口密度	78.8人 / km <sup>2</sup>	

※「人口」及び「高齢者人口」は令和7年1月1日時点のデータ

### ②実行チームの運営

実施体制 (4名)	かみいち総合病院(医師・看護師)、上市町地域包括支援センター(保健師)、上市町社会福祉協議会(社会福祉士)
実行チーム 開催実績	第1回実行チーム(R7.8.29) 第2回実行チーム(R7.9.2) 打ち合わせおよび中部厚生センターに協力依頼のため訪問(R7.9) 担当スタッフ打ち合わせ(R7.9.26) 第3回実行チーム(R7.10.2) 研修会の具体的予定、内容、運営について 担当者スタッフ打ち合わせ(R8.1.6)

### ③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	上市町の医療、保健、福祉事業所、地域包括支援センター、社会福祉協議会を含む12事業所及び民生委員
回答数	72名

#### <結果>

全回答者のうち、ペット飼育に伴う療養環境の衛生問題を体験したことのある者は58%、糞尿のトラブル31%、多頭飼育や虐待など不適切飼育事例の経験33%となっていました。また、ペット由来の感染事例の経験6%、ペットの予防接種や避妊などの未実施事例で困ったこと18%で経験されていました。

入所や入院に伴うペットの預け先の相談は31%が経験があり、ペット飼育を理由にした入院の拒否は31%、ペット飼育を理由にしたショートステイや入所の拒否事例18%で経験があり、同居家族の居ない飼い主の入所や入院、死去による残されたペットの処遇に困ったことは29%と、実際に入院や施設入所となつてからの困り事も経験しています。

ペットのための在宅サービスの困難事例の経験25%、在宅サービス提供時に、噛みつきなどのトラブル14%、在宅サービスを提供する上で、ペットの世話まで行うこととなつた事例14%と日頃の在宅サービスにおいても少なからず支障を経験することがあるようです。



担当している在宅療養者で、ペット飼育に関して現在問題となっている方を担当している者は17%、将来ペット飼育に関して問題になりそうな方を担当している者も19% ありましたが、そのうち将来のことが話しあわれているのは43% と半数に達しませんでした。

ペットのことで困ったときの相談先は、回答が多い順に保健所、地域包括支援センター、市町村役場、社会福祉協議会となっており、わからないとの回答も18% となっていました。

④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回	
日時	令和7年11月29日(土) 9時30分から12時
会場	上市町保健福祉総合センター(つるぎふれあい館)2階研修室
参加人数	計21名 保健師6名、看護師3名、ケアマネジャー5名、社会福祉士4名、 医師2名、事務職(地域包括支援センター)1名
プログラム	1)趣旨説明 2)講演 1 動物愛護行政の現状について 富山県中部厚生センター衛生検査課食品衛生班班長 小菅 達也先生(獣医師) 3)講演 2 在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート調査結果 4)講演 3 ペット飼育のメリットと課題 5)グループワーク以下の4テーマをグループディスカッション 1. ペットがいることの良さ 2. 心配なことや困りごとについて 3. 心配なこと、困りごとを解決した経験 4. こんな取り組み(仕組み)があったらいいなと思うこと
使用教材	①、③ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>上市町の医療福祉関係者を対象とした多職種連携研修の一つとして研修会を開催しました。最初に趣旨説明を行った後に富山県中部厚生センター 衛生検査課食品衛生班班長 小菅 達也氏(獣医師)から県の動物愛護行政の現状について法律、条令で定められていること、富山県の動物愛護行政の現在の状況などについて約30分解説していただきました。法的根拠などを分かりやすく解説していただくことで、最後のグループワークでの議論がしやすくなったようです。</p> <p>その後、多職種へ行った動物の問題などの全国へのアンケート調査の結果報告、「ペット飼育のメリットと課題」について教材を用いて講義を行い、最後にグループワークを行い、4グループで次の4つのテーマについて話し合い、グループで話し合ったことを発表していただき共有しました。グループ分けは事前に行い職種などがバランス良く配置されるようにし、各グループにはファシリテーターをあらかじめ設定しました。最後に小菅氏から講評をいただき終了しました。この研修会をきっかけに中部厚生センターでペットの飼育のための高齢者向け、介護者向けにパンフレットが作成されています。</p>



第2回	
日時	令和7年12月15日(月)13時30分～16時
会場	上市町保健福祉総合センター(つるぎふれあい館)2階研修室
参加人数	計55名 民生児童委員21人 ケアマネジャー17名 社会福祉士3名 介護士2名 看護師2名 医師2名 社協職員1名
プログラム	<p>1) 趣旨説明</p> <p>2) 講演1 在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート調査結果報告</p> <p>3) 講演2 ペット飼育のメリットと課題</p> <p>4) 講演3 「動物愛護行政の現状について」 富山県中部厚生センター 衛生検査課食品衛生班班長 小菅 達也先生</p> <p>5) グループワーク 9グループ</p> <p>1 困った状態を見かけたことがありますか？</p> <p>2 自分たちができることは？</p> <p>3 あったらいいなと思う支援やサービスは？ の3つのテーマについて検討 それぞれのテーマについて話し合ったことを3グループずつが発表</p>
使用教材	①、③ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>今回は地域ケア会議の研修会と合同開催としたため民生委員およびケアマネジャー中心に多職種が参加した研修となりました。</p> <p>今回は第1回目と使用教材は同じですが最初に趣旨説明を行った後にひきつづき多職種へ行った動物の問題などの全国へのアンケート調査の結果報告、「ペット飼育のメリットと課題」について教材を用いて講義をおこないました。その後、富山県中部厚生センター 衛生検査課食品衛生班班長 小菅 達也氏(獣医師)から県の動物愛護行政の現状について講義をしていただきました。今回も法的根拠、県の施策などを分かりやすく解説していただくことで最後のグループワークでの議論がしやすくなったようです。グループワークは参加人数が多かったため9グループに分け行いました。グループ分けはあらかじめ行っておき、ファシリテータも決めておきました。今回は以下の3つのテーマ、①困った状態を見かけたことが？②自分たちができることは？③あったらいいなと思う支援やサービスは？について話し合っていました。それぞれについて3グループずつに発表していただき検討内容を参加者全体で共有しグループワークを終了しています。事前アンケートでは動物の問題が「あまり重要でない」という意見がありましたが終了後のアンケートでは参加者全員が「大変重要」か「やや重要」と回答しており、研修会が有意義であったことを表していると考えられました。</p>
	 

感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の相談先、民生委員さんとの交流できてよかったです。</li> <li>・ペットはかわいいけど終生飼養。</li> <li>・高齢者の死後対応の中に、ペットのこともあればよいと思いました。 自分が経験したり想像したりできないことを知るきっかけになりました。個々の事例への対応は難しいですが、真に相談したら大丈夫と思えるサービスや支援先が住民だけでなく、介護、福祉職の方にも周知されるとよいなと思いました。</li> <li>・ペットを飼育している方を訪問するときに、今日学んだことを活かしてペットのことについても話題にしたいと思いました。</li> <li>・楽しみを与えるために安易にペット(生き物)を進めるのも考えものだという思いがしました。</li> <li>・地域猫用の餌支援、猫砂、ベッドの支援がしやすいように啓もうするようにしてほしい、猫のフードバンクが欲しい。保護猫を欲しい人のリストも作ってほしい、ミルクボランティアも含め、ボランティアできる人を集める。</li> <li>・不妊去勢手術をしている猫は耳に印があることを知った。「ペットと暮らすシニア世代の皆様へのお願い」のパンフレットの配布。</li> <li>・終生飼養の重要性。</li> <li>・地域で起こっている問題について情報共有することができた。ペットがいることのメリット、デメリットについての理解が深まった。</li> <li>・飼育する責任飼主が病気になった際の対応について事前に確認すること、殺処分優先ではない対応に安心しました。ペットがいることで入院を拒否したり、施設入所ができない等の高齢者が増えており、今後ますます問題になってくるので、今のうちからどう対応するか考えておくことの重要性を理解した。</li> </ul>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第3回	
日時	令和8年1月28日(水)14時45分～16時
会場	かみいち総合病院 大会議室
参加人数	計25名：医師2名、看護師16名、保健師1名、社会福祉士1名、理学療法士1名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、臨床検査技師1名、行政事務職1名
プログラム	<p>(1)趣旨説明</p> <p>1)講演1 在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート調査結果報告およびペット飼育のメリットと課題</p> <p>2)講演2 「動物愛護行政の現状について」 富山県中部厚生センター 衛生検査課食品衛生班班長 小菅 達也先生</p> <p>5)グループワーク5グループ</p> <p>①困った状態を見かけたことがありますか？</p> <p>②自分たちができることは？</p> <p>③あったらいいなと思う支援やサービスは？</p> <p>の3つのテーマについて検討</p> <p>・着席位置が近い方でグループ形成、司会はグループの中で決めてもらった。 最後に1グループ1テーマについて発表</p>
使用教材	①、③ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	今回はかみいち総合病院での研修会として開催したため参加者は看護師を中心とした病院職員が中心となりました。看護師が多くを占めましたが、社会福祉士、理学療法士、診療放射線技師、薬剤師、事務職の多職種が参加した研修となりました。時間が75分と短い研修となったため趣旨説明および最初の「ペット飼育のメリットと課題」について

は、参加予定者に事前に音声付教材をみていただき、当日は特に重要なところを強調する形でできるだけ短時間で終わるように工夫しました。その後、小菅達也氏から県の動物愛護行政の現状について法律、条令で定められていること、富山県の動物愛護行政の現在の状況などについて約30分解説していただきました。その後、5グループに分かれ以下の3つのテーマ、①困った状態を見かけたことがあるか？②自分たちができることは？③あったらいいなと思う支援やサービスは？について話し合いました。それぞれについて1グループずつ3グループに発表してもらい、最後の2グループには3つのうちから1テーマ選んで発表し検討内容を参加者全体で共有し終了しました。

**ペットと暮らす シニア世代の皆様へのお願い**

犬や猫の寿命は約15年以上です。  
「もしも」の時に備えて、自分とペットのこれからを「今」考えてください。

**ペットとの暮らしのための4つの備え**

①突然のできごとへの備え (ケガや病気による入院)  
予防策  
・一時預け先を見つけておく  
・ペットを預ける練習をしておく

②要介護状態進行への備え (福祉施設への入所)  
予防策  
・終活ノートに記しておく  
・新たな飼い主を探しておく  
・ペット信託を利用する

③生活環境を守るための備え (世話・掃除ができない)  
予防策  
・ペットの数を増やさない  
・ペットの世話や部屋の掃除を頼める人・業者をみつめておく

④適正に飼い続けるための備え (ペットの病気)  
予防策  
・不妊去勢手術により繁殖しないようにする  
・かかりつけの動物病院を見つけておく  
・日頃からしつけや手入れを心がける

民間事業者が行っている主なサービス

**野良ねこにエサをあげるだけだとどうなるの?**

野良ねこを見つけたら、かわいそうでエサをあげたくなります。でも、エサをあげるだけでは、どうなるの?

野良ねこが増え続けると、ねこの数が増える。ねこの数が多くなると、ねこの健康やノミ・ダニなどの害が発生し、衛生にも影響が及ぶようになります。

野良ねこが増え続けると、ねこの糞尿が増え、環境汚染の原因になります。

野良ねこが増え続けると、ねこの数が多くなると、エサの確保が難しくなり、エサ不足による餓死や衰弱死が増えてきます。

**野良ねこのお世話最後まで責任を持って!**

避妊去勢手術する  
補助金も  
あります  
※条件あり

時間を決めてお世話する  
エサはかたづけ  
トイレを置く

感想

- ・ペットと人が一人で生活をしている方にとっての、ペットに対するメリット・デメリットがあり、病院の職員の一員として、情報共有の大切さを学んだ。
- ・飼育しているときに、将来を考える重要性
- ・動物についてあまり考えていなかった。
- ・ペットは責任をもって飼う
- ・動物愛護管理法について、詳しく知ることができました。
- ・普段動物と過ごしていないので、今回動物の話が多職種でグループワークできてよかった。
- ・患者さんの気がかりなことの一つにペットの存在があること
- ・実際に行われているサービス(業者)を紹介してほしい。
- ・地域への情報提供が必要

⑤事業の効果と課題

効果

- ・参加者間での情報共有、ペットの問題が自分たちが暮らす地域にもあること、対処しななければならない問題であることが共有できた。
- ・ペット飼育の効果について理解することができた。
- ・動物愛護に関する現在の行政の対応、法的枠組みを学ぶことができた。
- ・町で作成しているエンディングノートにペットに関しての記載欄を設けることにつながった。
- ・病院では看護師から入院時に患者さんのお話を聞く際にペットのことも聞くようになることになった。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この研修会をきっかけに中部厚生センターが主導し介護者、被介護者向けの「ペット飼育の際の注意点について」のパンフレットを作成し、県のHP内で公開することとなった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットに関する問題があったり、ペットがいるために入院や施設入所が困難な方に対し、現在はケアマネジャーや地域包括支援センターが個別に対応している。</li> <li>・圏域内には動物愛護団体が無い。</li> <li>・ペットホテルなど動物を預かってもらえるところは上市町にはない。近隣の自治体にあるが費用が高額で利用しづらい、またペットに関するサービスは総じて高額なものが多い。</li> <li>・ペットに関するサービスの情報をまとめたものがない。</li> <li>・不妊手術に関する情報なども知られていない。</li> <li>・ペット飼育に関する問題、多頭飼育に伴う問題点があることは共有できたが公式の相談窓口がない。</li> </ul>

### ⑥事業全体を通して

今回研修会は医療福祉関係者を対象として行いました。上市町では3回の研修会をそれぞれ、多職種連携研修、地域ケア会議の研修会、かみいち総合病院院内研修として開催しました。3回とも同じ教材を用い、ほぼ同一の内容としました。教材は「ペット飼育のメリットと課題」を利用しました。また研修の中で毎回中部厚生センターの小菅先生から県の動物愛護行政の現状について解説していただきました。ペットの終生飼養が義務付けられていることなど動物愛護に関する法律の解説、富山県で活用できる資源などについても解説があり法的な枠組みを含めて理解が深まりました。当地区でも今までにペット問題がしっかり扱われたことはなく、連携のステップにおいては、地域課題の共有が進んだに過ぎません。また問題が起こってからへの対応には限界があり、問題が起こることを予防することも重要と考えます。このためには住民の協力も欠かせないと考えます。一般住民にもペット飼育の問題があることを知り、対策や対応を考えてもらうことも必要と考えます。圏域内には動物愛護団体がなく、ペット飼育に困ったときの公式の相談窓口もないため、ケアマネジャーや地域包括支援センターが個別に対応している現状があります。ペットの問題への相談、対応の仕組み作りも大きな課題です。

### 本事業検討委員会委員からのコメント ～当地域へのヒアリングを通じて～

ヒアリングに参加していただいたメンバーに院内の連携担当者、地域包括支援センター、社会福祉協議会などの方々があり、日ごろから良好な関係を築いていることが伺えました。

ヒアリングにて、研修会の反省や今後の必要性、展望について伺いましたが、療養や介護と動物飼育を両立するための相談窓口がすくなく感じられました。地域住民への療養や介護を継続しながら、動物飼育を継続するための情報を得ることができるよう環境整備が必要であると思われまます。


また、療養や介護を動物飼育と両立するための支援施策や社会資源情報も一本化されていないことがわかりました。住民を支援する機関が、入院時に利用できるペットの預かりサービスやその費用について、または、餌やりや、お散歩代行サービスなど、具体的な問題解決への情報を提供できることが望まれます。

事業については、病院が関わる施設も含めて、多方面に事業の説明を行ったこと、県動物管理センターや厚生センター(保健所)といった県レベルの団体にも直接出向いて協力を求め、実際に協力を得られたことなどから、課題を共有できたことが成果であり、今後は課題を課題のまま終わらせることがないように、どのように工夫ができるかについて検討することが求められていると考えられます。

この共有された課題に対して、いかに地域ネットワークで工夫や支援関係のつながりをもてるかが、この活動を他地域へ横展開する際の重要なポイントと思われました。

連携団体 4. 岐阜県郡上市／県北西部地域医療センター国保白鳥病院

①地域の概要(令和7年3月31日時点)

人口	36,566人	
高齢者人口	14,389人	
高齢化率	39.4%	
要介護認定者数	2,636人	
面積	1,030.8km <sup>2</sup>	
人口密度	35.5人 / km <sup>2</sup>	

②実行チームの運営



実施体制 (11名)	国保白鳥病院(医師)、 地域生活支援センターすいせい(相談支援専門員)、 郡上市社会福祉協議会(主任相談支援員)、 奥美濃白鳥在宅介護支援センター(介護支援専門員)、 郡上市地域包括支援センター(主任介護支援専門員)、 郡上市役所(高齢福祉課・社会福祉課・環境課)、 関保健所 郡上センター、NPO 法人 もふっこひだ、ねこのま
実行チーム 開催実績	第1回実行チーム(R7.6.10) 事業概要の説明、アンケート調査の説明 第2回実行チーム(R7.7.7) アンケート結果報告、研修会の開催について 第3回実行チーム(R7.9.2) 実務者研修会の報告、研修プログラムについて 第4回実行チーム(R7.9.29) 第1回 研修会の報告、第2回研修プログラムについて 第5回実行チーム(R7.11.6) アンケート結果報告、第3回研修プログラムについて


③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	85事業所
回答数	51名
<結果> 回答者の属性は「介護支援専門員」「社会福祉士」「介護士」など、多様な職種から回答を得た。飼育状況は、回答者の約4分の1がペット飼育しており犬が最も多かった。 課題として挙げた経験としては、 「衛生問題」ペット飼育に伴う衛生環境の問題を経験した。 「相談内容」利用者の入院・入所時にペットの処遇に関する相談を受けた。 「トラブル」糞尿による近隣トラブルや、不適切な飼育事例を経験した。	


などが挙げられた。  
 飼育による効果は、ポジティブな側面では「ペットがいることで癒される、元気になる生きがいになる」など、ネガティブな側面としては「ペットがいるから入院できない」といった事例も存在した。

④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回	
日時	令和7年9月11日(木)13時30分～15時30分
会場	国保白鳥病院 リハビリ棟3階
参加人数	計31名(人間医療福祉22名、動物医療福祉9名)
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨説明 ・昨年度の調査結果概要 ・郡上市の取組</li> <li>・医療福祉の現状 ・郡上市 地域診断アンケート結果</li> <li>・動物福祉の現状</li> <li>・グループワーク「安心してペットと過ごすには、何が必要？」</li> </ul>
使用教材	①、②、④、⑤のほか、独自作成教材2点 ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい／成果「問題共有と活動のきっかけづくり」として、事業概要、郡上市や医療福祉・動物福祉等の現状を学び、グループワークを行った。</li> <li>→1グループの人数(4～5人)、グループ数(7グループ)</li> <li>・スタッフは実行委員9名で、会場設営、受付、司会、講師、ファシリなどで協力いただいた。</li> <li>・地元のケーブルテレビ取材があった。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題として、人福祉、動物福祉の支援者が共通の知識を持ち情報交換ができる機会があり、とても良いことだと思いました。</li> <li>・グループワークがとっても良かった。動物支援の方や市役所の方など立場が違う方の声が直接聞けたのは良かった。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物に興味が無い人、嫌いな人、不適正飼育であると気づいていない人にも届くようにしたい。</li> <li>・地域包括支援センターと愛護団体で対応した事例の話聞くだけでも勉強になると思います。</li> </ul>

第2回	
日時	令和7年10月9日(木)13時30分～15時30分
会場	国保白鳥病院 リハビリ棟3階
参加人数	計27名(人間医療福祉18名、動物医療福祉9名)
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊去勢のあれこれ ・動物の寿命延伸と一人暮らし</li> <li>・グループワーク「感想や不適切飼育に係る経験談」 「普段できること、緊急時できること」</li> </ul>
使用教材	①、⑥、⑦ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを「顔の見える関係づくり」として、教材を活用して学び、それを基にグループワークを行った。</li> <li>→1グループの人数(4～5人)、グループ数(6グループ)</li> <li>→【工夫】個人ワークとグループワークを2段階に分け、タスクを明確化、運営と参加効率に配慮した。</li> </ul>
	
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物に対する対応等の統一は難しいかもしれないが、何かあった時に、知っている人が相談・支援できるよう、関係者同士の繋がりが重要だと思いました。</li> <li>・何かペットのことで問題など起きた時に相談できる先が分かったのが良かった。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物支援者と一緒に話し合える場なんて他にはない！！素晴らしい場ができて誇らしいです。こういう場が続くといいな。</li> </ul>



第3回	
日時	令和7年11月13日(木)13時30分～15時30分
会場	郡上市役所 白鳥庁舎 2階会議室
参加人数	計21名(人間医療福祉16名、動物医療福祉5名)
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例提示</li> <li>・グループワーク「この方の背景や思いについて」 〔(自身の立場で)行政、動物愛護関係者、医療福祉関係者、住民、家族それぞれの役割〕</li> </ul>
使用教材	①、⑧ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>・ねらい「協働できること」として、教材を活用して学び、それを基にグループワークを行った。</p> <p>→1グループの人数(5人)、グループ数(4グループ)</p> <p>→【工夫】個人ワークとグループワークを2段階に分け、タスクを明確化、運営と参加効率に配慮した。事例のアフターは、グループ発表後、講師の補足も交えて情報提供した。</p>
	
感想	<p><b>人間医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修で、猫や犬が訪問先にいるかなど、目を向けていく自分があり捨て猫を飼っている方を知ったり、見つけたりしました。</li> <li>・支援者が1人で立ち向かっても解決はできないと思うので、チームでの取り組みが大切だと思いました。</li> </ul> <p><b>動物医療福祉：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関係機関によって、できることなど複雑なので、人の福祉の相談先もわかりやすい一覧などがあると良い。</li> <li>・医療・福祉・動物愛護(福祉)連携がとっても重要だと思う。</li> </ul>

⑤事業の効果と課題

効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間医療福祉側と動物医療福祉側が直接対話することで、互いの専門性や「できること・できないこと」の理解が進んだ。</li> <li>・ケース対応では、片側だけの支援では問題解決できないことが理解できた。実際の対応時は、連携を試みる動きがとれそう。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と動物関係者の連携について、まだ必要性の理解が進んでいない分野や機関もあるため、継続的な普及啓発が必要</li> <li>・実際に問題を発見して、相談から支援体制の確立、介入するまでの流れやシステムが必要</li> <li>・低所得者の場合、費用負担が原因で支援の滞りや愛護団体の持ち出し費用が発生すること</li> </ul>

⑥事業全体を通して

郡上市では、2021年より「郡上市 人福祉・動物福祉ミーティング」という、人間福祉側と動物福祉側が集まる定期会議(任意)を実施していた。

本事業では、ミーティングメンバーを中心として実行委員を組織、研修会を開催した。

ミーティング効果で「知り合う」「相互理解」フェーズは概ねクリアしており、本研修では「協働」を目指して、仲間を増やし協働を深めることにフォーカスした。

地域診断のアンケート調査を実施し、第1回目の研修では、郡上市の取組も含めた講義を展開、「相互理解」や「連携の必要性」を深めることができた。

第2回では、実際に相談先となる方と動き・役割等を認識できたことで、支援者の安心感・信頼感を醸成することができた。

第3回では、事例を通じて互いの専門性の理解が進み、実際の場面に関する意見を交わすことができた。

本研修事業を通じて、郡上市における関係者間の連携・支援体制の構築を深めることができたが、協働や問題解決のためのスキームなど、相談から支援に繋がるシステムが必要であることも課題認識した。

本事業検討委員会委員からのコメント ~当地域へのヒアリングを通じて~


郡上市の特徴的な取組は、事業開始前から「動物と人福祉関係者のミーティング」が自発的に機能しており、これを基盤としてスムーズに実行チームが立ち上げられた点です。ヒアリング対象者からは「この基盤を作れたのは、日頃の現場での小さな連携を積み重ねた結果である」とのお話があり、地域における地道な関係構築の重要性が改めて浮き彫りになりました。研修会では、グラウンドルールの設定や、個人とグループのワークを2段階に分けるなど、相互理解を丁寧に促す工夫がなされ、医療福祉介護関係者からも「視点が広がった」と肯定的な反響を得ています。

新しい視点として特筆するのは、「予防第一のシステム作り」です。「1匹でも飼育崩壊は起きる」「隠されがちだからこそ、事態が大きくなる前に拾い上げて把握する仕組みが必要」という現場ならではの切実な声が聞かれました。

今回のヒアリングを通じ、早期発見と予防を重視した体制構築の必要性、そして他地域のモデルともなる「日常の小さな連携から協働の場を育む」という姿勢が、大変参考になるポイントでした。

## 連携団体 5. 鳥取県日南町／日南町国民健康保険日南病院

### ①地域の概要(令和7年3月31日時点)

人口	3,796人	
高齢者人口	2,084人	
高齢化率	54.9%	
要介護認定者数	580人	
面積	341km <sup>2</sup>	
人口密度	11.1人 / km <sup>2</sup>	

### ②実行チームの運営

実施体制 (8名)	日南町国民健康保険日南病院(理学療法士3名・作業療法士1名・医療ソーシャルワーカー)、地域包括支援センター(事務職)、日南町社会福祉協議会(生活支援コーディネーター)、人と動物の共生センター
実行チーム 開催実績	<p>第1回実行チーム(R7.5.29) キックオフ会議：事業概要説明・今後の進め方</p> <p>第2回実行チーム(R7.6.18) 動物愛護関係者を実行委員に迎え意見交換、研修会の企画について</p> <p>第3回実行チーム(R7.7.22) 鳥取県庁訪問結果と研修会の企画について</p> <p>第4回実行チーム(R7.10.28) 研修会振り返りと研修会の企画について</p> <p>第5回実行チーム(R7.11.26) 研修会の企画と準備について</p> <p>第6回実行チーム(R7.12.16) 振り返りと研修会の企画について</p>

### ③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	4施設、多職種38名	実施期間	令和7年5月29日～6日18日
回答数	37名	回答率	97.4%

#### <結果>

アンケートの対象者は在宅支援に関わる訪問看護、訪問介護、訪問リハ、通所リハ、居宅支援事業所や日南町社会福祉協議会に依頼しました。その結果、数年に1回～年に数回までをすべて「経験あり」とした場合、ペット飼育に伴う療養環境の衛生問題は76%、次いでペットを理由にした介入や入院の拒否51%、多頭飼育の不適切事例41%が経験していました。同一事例に複数のスタッフ関わるため重複があることに注意が必要ですが、地域で在宅療養者が何らかのペット関連の支援課題を抱えていることを改めて確認することができました。一方で自由記述からは、【生きがいの一つにもなっていた】【猫に会うために頑張ってリハビリされた】など、ペットが利用者の生きがいや活動意欲の維持に寄与している事例も多く、ペットが精神的支えとして重要な役割を果たしていることも確認されました。

このように、ペット飼育は在宅療養者の生活の質を高める要素であると同時に、支援体制の整備を要する課題でもあります。特に、入院・入所時や飼い主の死亡後の対応については、地域で明確なルールや支援ルートが確立されておらず、専門職が個々の判断で対応している実情が浮かび上がりました。相談先も包括支援センターや役場、保健所などに分散しており、体系的な連携体制が十分に構築されていない状況です。また、多くの支援者がペットに関する将来の話し合いを行っているのは18.9%にとどまっており、ことも課題だと思われました。

総じて、日南町のような小規模自治体では、人的・物的資源が限られる中で、医療・介護・福祉と動物愛護の連携をいかに図るかが鍵となります。ペット飼育に関する課題は、単なる個人問題ではなく、地域包括ケアの一環として取り組むべきテーマだと位置づけました。

当地域では、動物病院(診療所)が一つしかなく、ボランティア含め動物愛護関係者とつながりが少ないことから、連携の発展段階はZEROの状態からのスタートでした。

しかし、この事業を通じて【人と動物の共生センター】や【米子保健所】、【県庁くらしの安心推進課】と繋がる事が出来ました。意見交換を通じて現在は、一部相互理解が進みBの段階に入りつつあると評価しています。

④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回	
日時	令和7年9月24日(水)15時~17時
会場	鳥取県：日南町健康福祉センター ほほえみの里「研修室」
参加人数	計31名(人間医療福祉17名、動物医療福祉4名、行政10名)
プログラム	趣旨説明、【2】昨年度の調査結果概要、○地域の取り組み(保健師による地域独自資料)、【6】不妊去勢のあれこれ グループワーク『安心してペットと過ごすには何が必要?』
使用教材	①、②、⑥ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>本研修会は多職種間の課題共有と相互理解の促進を目的に構成しました。また最初の研修会だったため、できるだけ多職種が参加いただけるよう各方面に声掛けを行いました。</p> <p>結果、県庁から介護保険担当課の長寿社会課と、環境や動物担当のくらしの安心推進課の担当者もご参加いただきました。くらしの安心推進課から声掛けいただき米子保健所からも参加がありました。結果、ボランティア含め31名の参加となりました。教材の他に、当地域の制度や取り組みについて当地域保健師より話していただきました。また、2年前に開業された動物病院の獣医師より開業の経緯や地域の実情についてもお話いただく時間をとりました。</p>
感想	<p>はじめての開催でしたが、グループワークが大変盛り上がりしました。各自課題に直面したエピソードを共有され医療介護と動物愛護、行政との相互理解が深まったようでした。そして、各グループの発表の後には、県庁くらしの安心推進課と保健所担当者より総括を頂き、関係する制度も含め理解を深めることができました。</p> <p>全体を通じて隣の市町村や動物病院の獣医師も参加いただき、現場の意見交換と顔の見える関係づくりができたと思います。また参加者からは大変勉強になったと声掛けいただき好評でした。</p>



第2回	
日時	令和7年12月16日(火)13時30分～15時40分
会場	鳥取県：米子コンベンションセンター 第7会議室
参加人数	計30名(人間医療福祉15名、動物医療福祉2名、行政13名)
プログラム	趣旨説明、【2】昨年度の調査結果概要、【3】飼育のメリットと課題、【6】不妊去勢のあれこれ、○鳥取県内における犬猫の収容に係る取り組み状況(米子保健所)、【7】動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者 シンポジウム：看護師、介護支援専門員、獣医師「現場の課題—好事例と困難事例について—」
使用教材	①、②、③、⑥、⑦ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>今回は、広域での情報発信と、制度・現状の理解が目的でした。そこで対象地域を鳥取県西部地域に大きく広げて広報を行いました。</p> <p>場所は米子コンベンションセンターとして広域かつ大人数の参加者を目指しました。広報は鳥取県庁長寿社会課、医療政策課、孤独・孤立対策課、くらしの安心推進課にご協力いただいています。また県庁を通じて鳥取県社会福祉協議会から広報いただきました。さらに鳥取県メディカルソーシャルワーカー協会のホームページに掲載いただくなど工夫しました。</p> <p>しかし、年末の平日ということもあり参加者は伸びず結局スタッフ5名を含めて、参加者は30名にとどまりました。一方で、参加者の属性は行政職員が最も多く社会福祉協議会職員やケアマネジャー、一般市民の方も参加があり多様な構成で研修会を実施することができました。</p>
	 
感想	<p>今回は、レクチャーを多めに取りグループワークの代わりにシンポジウムを開催しました。広く啓発を目的とした大人数を想定する研修会では、グループワークが行い難いためシンポジウムという形式は、方法としてよいと思われました。前段のレクチャーでは米子保健所の木山獣医師から鳥取県内における動物収容に係る取り組みをご紹介いただき現状を共有することができました。またシンポジウムでは、木山獣医師と人と動物の共生センター(動物愛護 NPO)の松本様に助言者となっていただきました。</p> <p>シンポジストの現場の課題感に対して具体的なアドバイスは他の参加者にも参考になったようで、アンケートでも満足度の高い研修会となりました。</p>

第3回	
日時	令和8年1月22日(木)13時30分～15時
会場	鳥取県：日南町健康福祉センター ほほえみの里「研修室」
参加人数	計12名(人間医療福祉8名、動物医療福祉2名、行政2名)
プログラム	趣旨説明、日野病院 MSW より事例提示 事例検討：『症例の背景や思い』『それぞれの立場でできること』 アドバイザー：人と動物の共生センター、米子保健所獣医師
使用教材	❶ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>今回は具体的な困難事例を通じた実践的な支援策の検討に目的を置いた研修会構成としました。募集範囲は、日南町(当地域)と日野町を中心に広報を行いました。当日は大雪注意報が発令され開催が危ぶまれましたが警報になることが無かったため実施することができました。ただし東部から講評をお願いしていた講師は移動のリスクがあるためWEBで参加いただきました。</p> <p>事例検討として、当院から車で約20分離れている日野病院所属のMSWから提示いただきました。在宅療養者のペット飼育の課題として、猫の事例を説明いただき、①症例の背景や思いについて、②行政、動物愛護関係者、医療関係者、住民、家族それぞれの役割(できること)についてグループワークしました。</p>
	
感想	<p>グループワークでは、地域への情報提供やネットワークづくりが重要であることが確認され、ペットの愛着と責任について、事前に話し合っておくことが大切であることが認識できました。そして、それぞれの役割を理解し、協力体制を構築することが必要であり、緊急時の対応をスムーズにするために、平時から保健所との連携を強化していきたいという意見でまとまりました。</p> <p>大変盛り上がる研修会となり実施後のアンケートでも参加者の満足度が高く【勉強になった】【次年度も行ってほしい】など反響がありました。</p> <p>相談先についても気軽に保健所に相談してほしいと保健所獣医師よりお話しいただき関係者の安心感につながっている様子がうかがえました。次年度に向けて、様々な問題における相談先の明確化や具体的に動くため顔の見える連携体制の構築が望まれることが改めて明らかになりました。</p>

## ⑤事業の効果と課題

効果	<p>この事業を通じて、研修会参加者は「ペット問題＝高齢者の生活・福祉の問題」という視点が醸成されました。事後アンケートの自由記述においても『ペット問題へ介入する心理的ハードルが下がった』等の声が寄せられるなど視点の変化が確認されました。特に、これまでは「個人的なことだから介入しにくい」と考えていたペットの問題に対し、「早期発見・早期相談が重要であり、そのためのルート(保健所や包括支援センター等)は開かれている」という具体的な解決への道筋(心理的ハードルが下がった)が見えたことが、最大の成果だと思います。具体的には、近隣市町村の担当者ともやり取りするようになったり、町内でも社会福祉協議会が地域のペット飼育状況を調査して地域包括支援者からペット関連の話題に触れるなど意識が高まったと感じます。</p> <p>このように当初は、ペットの課題に直面しても現場担当者が個別に悩み、対応していた状況から、地域での連携体制が構築されつつある状態まで発展したと思われま</p>
課題	<p>今後は、相談場所のさらなる明確化や具体的な支援体制の確立が望まれます。そのためには事例を積み重ねて協働できる関係づくりを継続していくことが大切だと考えています。</p> <p>今年度の事業で具体的支援の入り口に立ったように思います。これからは、地域づくりも含めて具体的な支援体制を構築できるように取り組みたいと思います。</p>

## ⑥事業全体を通して

前項で挙げた③地域診断のアンケートでは、在宅支援に携わる医療・介護職の半数がペットに関する支援経験を持ち、精神的支えとしての意義と同時に、衛生や預け先などの問題が明らかになりました。

研修事業を通じて人と動物の共生センターや米子保健所など関係機関と連携が進み、医療・福祉・動物愛護の協働体制の機運が芽生えました。研修会では多職種が交流し、動物福祉への理解が深まる一方で、制度整備や具体的事例を検討する場を求める声もありました。全体としては、地域における認識の向上と相談しやすい環境づくりの端緒となったと感じています。今後は相談先を明確化するために資源マップの作製や、外来問診や基本チェックリスト等へのペット項目の追加について検討したいと思います。また、実践的な事例蓄積を通じて持続可能な連携体制の構築に取り組みたいと考えています。

## 本事業検討委員会委員からのコメント～当地域へのヒアリングを通じて～

今回のヒアリングで印象的だったのは、町の中だけで完結させるのではなく、県庁の関係部署や保健所、動物愛護団体など、さまざまな機関を巻き込みながら取り組みを進めている点です。小さな自治体ほど地域資源が限られることがありますが、県や他の自治体とも連携しながら広い視点で課題を共有していることは、とても心強い取り組みだと感じました。こうした広がりがあることで、地域の取り組みがより実効性のあるものになっていくのではないかと思います。

また、研修会にボランティアの方々が参加されていたことも、とても素晴らしい点だと感じました。医療や福祉の専門職だけでなく、地域で活動している方々が一緒に関わることで、より地域に根ざした支え合いの形が生まれてくるのではないのでしょうか。こうした住民の参加は、地域の課題を「みんなで考える問題」にしていくうえで、とても大きな意味を持つと思います。

今回の取り組みは、医療・福祉と動物福祉を結びつける地域連携のよい第一歩だと感じました。今後さらに、ACPへの言及、県や他の自治体、そして地域の方々を巻き込みながら、より実践的な支援の形が広がっていくことを期待しています。

連携団体6. 島根県飯南町／飯南町立飯南病院

①地域の概要(令和7年3月31日時点)

人口*	4,355人	
高齢者人口*	2,042人	
高齢化率	46.9%	
要介護認定者数	436人	
面積	242.9km <sup>2</sup>	
人口密度	17.9人 / km <sup>2</sup>	

※「人口」及び「高齢者人口」は令和7年1月1日時点のデータ

②実行チームの運営

実施体制 (6名)	飯南町立飯南病院(歯科医師・看護師)、 飯南町保健福祉課 地域包括支援センター(理学療法士)、 飯南町訪問看護ステーション(理学療法士)、 飯南町社会福祉協議会(生活支援コーディネーター)
実行チーム 開催実績	第1回実行チーム(R7.6.13) コアメンバーキックオフミーティング(事業概要説明・今後の進め方) 第2回実行チーム(R7.8.28) 実務者研修会報告 第3回実行チーム(R7.9.25) 研修会開催の最終確認：プログラム、役割分担、配付資料 等 第4回実行チーム(R7.10.10) 研修会開催リハーサル ※その他、随時メールリングリストで情報共有と意見交換

③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	実行委員となったメンバーが所属あるいは管轄する職場、部署で、地域の高齢者等に係わる職員
回答数	53名
<p>&lt;結果&gt; 全回答者のうち、療養環境の衛生問題：49%、近隣トラブル：34%、多頭飼育や虐待など不適切飼育事例：26% 等が多く経験している事例です。また、ペット由来の感染事やペットの予防接種や避妊などの未実施事例で困ったこと、等も、少数ながら経験しています。入所や入院に伴うペットの預け先の相談：30%、ペット飼育を理由にしたショートステイや入所の拒否事例：13%、同居家族の居ない飼い主の入所や入院、死去による残されたペットの処遇に困ったこと：9%と、実際に要医療状況となっからの困り事も少なからず経験しています。在宅サービス提供時に、噛みつきなどのトラブル：15%、在宅サービスを提供する上で、ペットの世話まで行うこととなった事例：8%と日頃の在宅サービスにおいて支障が出ている状況が見て取れます。これらの相談先は、町内の行政や地域包括支援センターやケアマネジャー</p>	

個人となっており、動物愛護団体へのアクセスはほとんどありません。また、相談先が分からないといった回答もありました。

アンケート対象者をさらに広げていくと、これらの数字は更に大きくなることが予想されます。

#### ④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回	
日時	令和7年10月16日(木)14時~15時30分
会場	島根県：飯南町社会福祉協議会 ホール
参加人数	○現地参加(39名)：民生委員：30名・社会福祉協議会：1名・飯南町役場(保健福祉課)：1名(課長)・雲南保健所：3名・スタッフ：4名
プログラム	・国診協教材によるレクチャー ・質疑応答、フリートーク
使用教材	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>飯南町内での、ペットに関する認知と連携状況は、ほぼ無いに等しい状況であることから、まず町内関係者の横の連携体制構築と基本的な知識の習得を第一に考えました。国診協から準備された「教材」は、全てが有用であり、飯南町では、特定の教材を利用するのではなく、全てを一通り学ぶようなプログラムとしました。</p> <p>町内の高齢者の方々と直接、密接に関わるという観点から、住民代表として「民生委員」、「保健・医療・介護・福祉関係者」、「行政関係者」の3グループ毎に、3回に分けて研修することとしました。</p> <p>第1回目として、民生委員の定期的研修会にあわせて、本事業を導入し、地域の高齢者の身近にいる関係者にペットに関する課題や考え方について学習頂くことを目的としました。ファシリテーター等を決めてのグループワークは、参加者にとってハードルが高いと判断し、フリートークによるディスカッションとし、ました。多くの方が、本課題について大なり小なり経験があり、身近な課題として認識されていました。民生委員として、地域猫活動を行う「ニャンコロの会」の方の参加があり、これまでの課題等含めて積極的なご意見を頂戴しました。</p> <p>当町を管轄する雲南保健所からも参加があり、様々な情報提供と助言を頂きました。</p>
	
感想	<p>民生委員は、住民の代表者であると共に、地域の高齢者と向きあう最前線で活躍する方々である。保健・医療・介護・福祉関係者間と同様、ペットに関する様々な課題と向き合ってきた状況が伝わってきました。</p> <p>それぞれの経験に差はあるものの、「我が事」としてとらえ、真剣に研修を受けて頂き、活発な意見交換につながりました。</p> <p>今後は、地域での民生委員活動をサポートする上でも、ペットに関する課題を少しでも解決し、前進させていく必要があると感じました。</p>

第2回	
日時	令和7年11月19日(水)14時~16時
会場	飯南町保健福祉センター 会議室
参加人数	○現地参加(38名)・WEB参加(8名) ●職種：理学療法士：5名・看護師：8名・社会福祉士：2名 ・言語聴覚士：1名・介護支援専門員：6名・行政職：14名 ・薬剤師：1名・管理栄養士：1名・保健師：2名・作業療法士：1名 ・歯科医師：1名・生活支援コーディネーター：2名 ・事業管理者、責任者：2名・スタッフ：5名(再掲)
プログラム	・国診協教材によるレクチャー ・グループワーク：ワークシートを配付 ・ワークシート項目(良かった事例、困った事例・困った事例に対しての支援内容・わからない事やあったらいいなと思う事)
使用教材	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>町内の高齢者の方々と直接、密接に関わるという観点から、住民代表として「民生委員」、「保健・医療・介護・福祉関係者」、「行政関係者」の3グループ毎に、3回に分けて研修することとしました。</p> <p>飯南町では、様々な階層での地域ケア会議を開催しており、その一つとして、「個別事例(ケース)検討のための会議」があり、その会議における研修会にあわせて、本事業を導入し、地域の高齢者の身近にいる保健・医療・介護・福祉関係者にペットに関する課題や考え方について学習頂くことを目的としました。日頃からペットに関して課題を経験している方が多く、グループワークは様々な内容に発展しました。グループワークはワークシート(良かった事例、困った事例・困った事例に対しての支援内容・わからない事やあったらいいなと思う事)の各項目に沿って進行しました。多くの方が、本課題について大なり小なり経験があり、身近な課題として認識されていました。当町を管轄する雲南保健所と中四国厚生局からも参加があり、情報提供および講評を頂きました。グループワークへの参加により、地域での現状と具体的な課題対応について体験頂けたと思います。</p>
感想	<p>会場の飯南町保健福祉センターは、飯南町役場の頓原基幹支所も併設していることから、行政関係者の参加もありました。また、地域ケア会議のメンバーを通じて、町外の医療機関等からの参加、雲南保健所から連絡頂いた近隣の市町からも参加を頂きました。結果として、現場の専門職と行政関係者が一緒に学習し、議論することが出来ました。また、地域の一住民としての立場での発言もあり、想定を超えた議論の広がりを見せました。</p>



第3回	
日時	令和7年12月3日(水)14時~16時
会場	飯南町役場 大会議室
参加人数	○現地参加(31名):飯南町役場(総務課:3名・保健福祉課:3名・住民課:1名・福祉事務所:1名)・飯南町立飯南病院:1名・公民館:6名 ・島根県(県庁:2名・出雲保健所:1名・雲南保健所:2名) ・チャンコロの会:6名・スタッフ:5名
プログラム	・国診協教材によるレクチャー ・グループワーク:ワークシートを配付 ・ワークシート項目(良かった事例、困った事例・困った事例に対しての支援内容・わからない事やあったらいいなと思う事)
使用教材	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>飯南町役場でのペットに関する窓口は住民課にありますが、今回のような多様な課題に対応しているわけではありません。役場内の関係各部署が、現状を知り共通認識を持つことを目的として、飯南町役場会議室を会場に、行政職を中心に各公民館からの参加を得て、研修会を開催しました。個人的にも業務的にも大なり小なり関わりがあり、グループワークは様々な内容に発展しました。グループワークはワークシート(良かった事例、困った事例・困った事例に対しての支援内容・わからない事やあったらいいなと思う事)の各項目に沿って進行了しました。</p> <p>当町を管轄する雲南保健所からも参加があり、情報提供および講評を頂きました。グループワークへの参加により、地域での現状と具体的な課題対応について体験頂けたと思います。県庁薬事衛生課からは、動物愛護管理推進計画の説明を頂きました。雲南保健所からは猫の飼養に関するチラシを配布頂きました。</p>
感想	<p>これまでの研修会と同様に、グループワークは、様々な話題で議論に発展し、参加者を通じて地域での共通の課題であることが示唆された。しかしながら、ペットに対する個人の考え方や立場が様々で、地域住民、高齢者対応のスタッフ、課題対応のための行政職が、共通理解と連携の下に事業を進めていく必要性を感じました。それらを実行するための仕組み作りも必要と感じました。</p>



## ⑤事業の効果と課題

効果	<p>日頃から遭遇しているペットに関する課題が、地域の共通課題であること、その対応は、個々人で行うものではなく、地域内外の多職種や動物愛護関係者の協力の下行う必要があることなどが、共有出来ました。本モデル事業を通じて、地域での研修会の開催ノウハウが蓄積されました。しかしながら、事業目的の達成度としては、まだ低いことから、今後飯南町として取り組むべき課題も明確となりました。第二回の「保健・医療・介護・福祉関係者」を対象とした研修会は、もともとの地域ケア会議の定例開催時間帯に合わせたことから、飯南病院のスタッフ参加が少なく、第1回、第3回でも参加できなかった事から、「院内研修会」として、別途2回に分けて、研修会を開催しました。3回の研修会と同様に共通認識が諮られ、日々の業務にも役に立つとの意見が出されました。また、ACPの項目に取り入れることや、逆に、ハードルの高いACPの導入に役に立つとの意見も出されました。</p>
課題	<p>本モデル事業で想定している連携のステップにおいては、まだ、地域課題の共有が進んだに過ぎません。今後は、住民の皆さんも交えた幅広い周知と課題共有を進める必要があります。行政にもワンストップ窓口の設置が望まれる一方で、様々な部署で相談が可能となり、即座に必要なスタッフで課題共有されるネットワークも構築される必要があります。さらに、町外の動物愛護関係者および団体とつながり、相互の共通認識の下、課題解決に向けて実効性のあるアクションにつなげていかなければなりません。その関係づくりや仕組み作りはまだまだ白紙の状態です。</p>

## ⑥事業全体を通して

<p>雲南保健所から、「高齢者向けのサービスとしての動物のレンタル、多職種連携に向けたこのような研修会の継続・来年度以降も飯南町役場が実施主体となることで本事業の継続、飯南町地域における野良猫は、保健所への苦情が他地域に比べ少なく、過去から地域のボランティアによる活動で環境改善されている実情があるのではないかと推測、飯南町では、地域ボランティアと地域ネットワークが根強く残っており、この組織は周囲のみなさんが認める代表者により統率が取れている、貴重な人材資源を生かしていくために、ネットワークの掘り起こしや存在に気づき、また広げていくことが非常に有用である、高齢者等のペット飼育に関する課題は、保健所動物愛護担当課だけでなく、市町村、地域包括支援センター、保健・医療・介護・福祉の専門職、動物愛護団体等の様々な関係者が身近に感じている問題であると再認識、入院・入所時のペットの受け皿問題など、定型的な支援や解決方法がない中で、関係者の努力によって何とか課題解決に向けた対応が進められている現状、有事の際の対応を飼主が予め考えておく必要があり、地域ぐるみで動物福祉を支える仕組みづくりも重要、地域包括ケア会議等の枠組みに動物担当者も加わることで関係者の連携が進むのではないかと」の所感を頂きました。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 本事業検討委員会委員からのコメント ～当地域へのヒアリングを通じて～

実行委員は、地域包括医療ケアによる地域づくり事業の経験が豊富な歯科医師を中心に、病院看護師やこれまで培ってきた横のつながりで地域包括支援センターや訪問看護ステーションの理学療法士、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターが参加し形成されていました。


研修会は「民生委員」「保健・医療・介護・福祉関係者」「行政関係者」を対象にそれぞれ1回ずつ企画され、各回とも30名以上が参加していました。すべての研修会でほぼすべてのスライド資料を示して問題を説明し盛況なグループワークまで行われていました。

更に、地域の研修会以外にも病院職員対象の研修も2回開催され病院全体の意識向上も見られていることは特筆に値すると思われました。

また、短時間でスタッフの理解向上のために音声つきスライド動画を倍速で視聴したという方法などは、今後同様の事業を他の地域で行う際にも使えるテクニックとも思われました。

## 連携団体 7. 香川県三豊市・観音寺市／三豊総合病院

### ①地域の概要(令和7年3月31日時点)

	三豊市	観音寺市	
人口	57,191人	53,788人	
高齢者人口	21,970人	19,225人	
高齢化率	38.0%	35.7%	
要介護認定者数	3,412人	2,346人	
面積	222.7km <sup>2</sup>	117.8km <sup>2</sup>	
人口密度	256.8人 / km <sup>2</sup>	456.6人 / km <sup>2</sup>	

### ②実行チームの運営

実施体制	三豊総合病院(医師・社会福祉士)、綾川町国保陶病院(医師)、香川県庁(健康政策課・生活衛生課・長寿社会対策課)、香川県西讃保健福祉事務所、三豊市市民部生活環境課、三豊市地域包括支援センター、観音寺市環境衛生課、観音寺市地域包括支援センター、三豊市訪問看護ステーション、観音寺市訪問看護ステーション、香川県医師会、三豊・観音寺市医師会、香川県獣医師会
実行チーム 開催実績	第1回実行チーム(R7.7.2) 人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業の説明、 在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート調査結果報告、 『当地域におけるペット飼育の現状と課題』(香川県西讃保健福祉事務所衛生課副主幹大西晴子様)、全体討議、総評(香川県医師会会長) 参加者19名 香川県医師会会長、香川県西讃保健福祉事務所3名、観音寺市環境衛生課2名、観音寺市地域包括支援センター2名、三豊市地域包括支援センター2名、陶病院4名、三豊総合病院5名

### ③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	介護支援専門員、看護師、社会福祉士、保健師、その他
回答数	139名(介護支援専門員41%、看護師34%、社会福祉士14%、保健師7%、その他4%)
<p>&lt;結果&gt;</p> <p>アンケート調査を依頼するとすぐに多数の回答が集まり、非常に関心が高いと考えた。ペット飼育についてのトラブル事例の経験については、療養環境衛生上の問題が最多で73%であった。在宅サービスを提供する上で、ペットの世話まで行った経験があると答えたのが19%であった。入所や入院の際にペットの預け先の相談を受けたことがあると答えたのが30%であった。ペットの飼育について相談を受けて困った時の相談先は、保健所が39%で最多で、次いで、市役所34%、地域包括支援センター29%であった。回答したケアマネジャー57名の総担当者数2,001人のうち、ペットを飼っている人が292人(14.6%)で、そのうち、現在問題になっているケースが20件、将来問題になりそうなケースが38件であった。ペット飼育が、在宅療養者の生きがいや心のより所になっている反面、在宅医療・介護サービスを提供する上で、様々な課題があり、対応に困る事例もあることがわかった。</p>	

④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回(観音寺市対象)、第2回(三豊市対象)	
日時	第1回 令和7年9月10日(水)18時30分~20時30分 第2回 令和7年11月28日(金)18時30分~20時30分
会場	三豊総合病院 3F 講堂
参加人数	第1回 参加者30名 動物病院獣医師2名、香川県健康福祉部1名、観音寺市行政2名、ケアマネジャー9名、看護師11名、社会福祉士4名、医師1名 第2回 参加者25名 動物病院獣医師1名、香川県健康福祉部1名 三豊市行政4名、ケアマネジャー1名、看護師12名、社会福祉士6名
プログラム	①趣旨説明・当地域で行ったアンケート結果報告 ②レクチャー 『人間と動物の医療福祉の現状』 ③グループ討議 ・ペット飼育でよかった事例 ・ペット飼育で困った事例 ・困った事例にどのように対応したか ・わからない事やあったらいいなと思う事は何か？ ④全体討議 ⑤総評 第1回 香川県健康福祉部生活衛生課 主任 内田真輔様 第2回 香川県健康福祉部生活衛生課 主任 中村宗様
使用教材	①、②、⑤、⑥、⑦ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>趣旨説明と当地域のアンケート結果報告の後、『人間と動物の医療福祉の現状』という演題で教材を使用してレクチャーを行った。その後、1回目、2回目とも5グループに分かれて、ペット飼育でよかった事例、困った事例、困った事例にはどのように対応したか、わからない事やあったらいいなと思う事などについてグループ討議を行った。グループ討議では、「高齢者のサポートをする人を確認したうえで、譲渡すると良い」、「全職種が生活背景を把握し、ペットについて、エンディングノートにも記入できれば良い」、「動物に関する地域情報の相談窓口がはっきりしたらよい」、「ペット飼育に関する資源マップがあればよい」、「飼い主に何かあった場合、新しい飼い主が見つかるまでの支援があれば良い」、「引き取りのハードルをさげずすぐに対応できるような施設があればよい」、「TNR 地域猫活動などへの補助の充実」、「民間、動物保護団体、訪問診療、動物ヘルパー等、飼い主に何かがあっても地域でみていけるシステムがあれば良い」、「地域住民同士の支え合いのシステムづくりが必要」などの意見が出た。グループの討議時間を当初、30分間で予定していたが、非常に盛り上がったため、40分間に延長した。全体討議では、各グループから発表し、動物病院の獣医師、市の環境衛生課職員などからコメントをいただいた。総評については、香川県健康福祉部生活衛生課へお願いした。教材については、趣旨説明で、「趣旨説明」、「昨年度の調査結果概要」を、レクチャーでは「動物福祉の現状」、「不妊去勢のあれこれ」、「動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者」をまとめて説明した。</p>



感想	地域診断のアンケート調査では、すぐに回答が集まり、非常に関心があったようであった。しかし、研修会の参加者、特に、ケアマネジャーの参加が思ったより少なかった。開催時間帯の問題があったかもしれないが、アンケート調査実施後、期間をあけての研修会の開催であったことも要因ではないかと考えた。
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第3回(三豊市・観音寺市合同で開催)	
日時	令和8年1月30日(金)18時30分～20時30分
会場	三豊総合病院 3F 講堂
参加人数	参加者44名 動物病院獣医師3名、動物病院スタッフ1名、香川県医師会会長 香川県健康福祉部5名、香川県西讃保健福祉事務所4名、三豊市行政4名 観音寺市行政4名、ケアマネジャー3名、看護師14名、社会福祉士4名、医師1名
プログラム	①レクチャー：『県内・西讃保健所管内におけるペット飼育の現状と課題』 香川県健康福祉部生活衛生課 主任 中村宗様 ②事例検討 ③第1回・第2回研修会の振り返り ④グループ討議：『当地域において、今後どのように取り組めばよいか』 ⑤全体討議 ⑥総評 香川県医師会長 久米川啓先生
使用教材	⑧ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	『県内・西讃保健所管内におけるペット飼育の現状と課題』という演題でレクチャーを受けた後、教材を使用しての事例検討をおこなった。事例検討の中では、動物に愛情をかける一方で、近隣の方など地域とのつながりが疎遠になったことが、対応が遅れた要因ではないか、ペットを飼育している療養者が孤立しないようなかかわりが大切との意見が出た。その後、1回目、2回目の研修会を振り返り、『当地域において、今後どのように取り組めばよいか』というテーマで、KJ法を用いてアイデアをまとめ、それぞれの重要性和取り組みやすさについて検討した。重要で、取り組みやすい項目として、「医療福祉分野と動物愛護分野をつなげるしくみづくり」、「困った時の相談窓口の周知」、「エンディングノートにペットについても記載」、「ペット飼育に関する資源マップの作成」「入退院時の情報シートに、ペット飼育についても記入」などが挙げられた。今後の取り組みについて検討する上で、非常に参考になった。
	  
感想	動物病院の獣医師、県や市の職員、医療介護に関わる多職種で事例検討を行ったが、様々な視点からの意見が出て、非常に有意義であった。今回は、教材を使っての事例検討であったが、実際に地域で問題になっている事例について、多職種で検討できるような場があればよいと考えた。

## ⑤事業の効果と課題

効果	<p>当地域では、これまで、医療介護に関わる多職種と動物愛護に関わる職種の接点が少ない状況であった。在宅医療介護においてペット飼育について何か問題があっても、相談先は不明で、事例ごとに個人がそれぞれ何とか可能な範囲で対応していた。今回の研修会を通して、動物愛護に関わる職種や行政と、ペット飼育に関する課題を共有し、顔の見える関係ができたことは非常によかった。顔の見える関係づくりができれば、問題事例に遭遇した際の精神的負担の軽減につながるのではないかと考える。今後、ペット飼育に関する様々な問題を解決するための多職種連携体制の構築に繋がりたいと考えている。</p>
課題	<p>今回、動物愛護に関わる職種の参加は少数であった。動物病院の獣医師には、診療時間をくり上げて参加いただいた。獣医師からは、それだけ重要と考えているとの意見もいただいたが、今後は、研修会開催時間については調整が必要と考える。</p> <p>今回、ペット飼育に関する課題の情報共有はできたが、今後、どのような事に取り組むのか、ゴールがどこで、いつまでに行うのか、課題共有だけで終わるのではないかと厳しい意見もあった。動物愛護に関わる職種や医療介護にかかわる職種が、それぞれの専門職が抱える課題を深く理解し、具体的な解決策を提示できるような研修内容の充実が必要である。</p>

## ⑥事業全体を通して

ペット飼育の課題については、問題が発生してからでは対応が難しいので、大きな問題にならないよう予防するためのシステムづくりが必要と考える。気になるケースについて、一般住民やケアマネジャー、訪問看護師などが、早い段階から気軽に相談できる窓口が複数あればよいと考える。そして、地域包括支援センターなどの関係機関との連携を強化し、情報共有体制を構築し、問題となることが予想される事例については、早期から連携して関わっていくことが必要と考える。

病院相談員、訪問看護師、医師は、ACPを行う段階で、ペット飼育についても議題としていきたい。

また、退院支援スクリーニングシートにペットに関する項目を追加し、早期発見、早期対応につなげたい。その他、ケアプランの中でも、ペット飼育についての検討も含める必要があると考える。ケアマネジャーの研修会のテーマとして取り上げてほしいのではないかと考えている。

今回、香川県健康福祉部(健康政策課、生活衛生課、長寿社会対策課)の方、香川県医師会長、陶病院のスタッフの方にも参加いただいた。この事業が、三豊市・観音寺市のみで終わるのではなく、香川県下の他の地域にも広げられるよう検討したいと考えている。

## 本事業検討委員会委員からのコメント ~当地域へのヒアリングを通じて~


実行委員結成の時点から香川県下への展開を意識され、県をはじめ観音寺市、三豊市の行政スタッフや獣医師会に協力を求められ、豊富な人的資源と協力体制をうらやましく感じました。一方、動物愛護団体については情報もなく、今後事業が軌道に乗ったところで声掛けをされるとご判断され、柔軟に準備されました。

香川県健康福祉部職員からの講義もあった3回目の研修会には私も参加いたしました。県職、市職の多職種、しかも大変経験の厚いみなさまが大勢参加され、『それぞれの職域に戻って少しずつ動きを出せたらいいと思う』との生のご感想を伺い、香川の底力を感じました。研修後、スタッフの多職種連携体制の構築に向けた意識の高まりや関係者間のコミュニケーションが活発になったことも確認されています。今後は相談窓口の設置や具体的な支援策の検討、香川全域への事業拡大など展望を上げられました。具体的にはペット飼育に関する資源マップの作製や、ペット飼育情報が加わった退院支援スクリーニングシートの実現が楽しみです。

事前のアンケートからは障がい者の多頭飼育などの問題についてはあまり把握されず、実行委員や協力体制の中にも障がい者支援関係者が入っておられませんでした。高齢者と同様、あるいはそれ以上に困らている事例を様々な地域で確認できています。今後に向け、障がい者支援関係者とも連携され、一層地域の連携力を高められたらと感じました。

## 連携団体 8. 大分県姫島村／姫島村国民健康保険診療所

### ①地域の概要(令和7年3月31日時点)

人口	1,692人	
高齢者人口	961人	
高齢化率	56.8%	
要介護認定者数	119人	
面積	6.99km <sup>2</sup>	
人口密度	242人 / km <sup>2</sup>	

### ②実行チームの運営

実施体制 (8名)	姫島村国民健康保険診療所(医師、看護師、事務)、 介護保険施設姫寿苑(施設長)、地域包括支援センター(社会福祉士)、 姫島村役場住民課(課長)
実行チーム 開催実績	第1回実行チーム(R7.6.6) 事業説明、「地区診断のためのアンケート調査」検討 第2回実行チーム(R7.9.16) 研修会の日程・役割決定 第3回実行チーム(R7.10.6) 第1回研修会事前打ち合わせ 第4回実行チーム(R7.11.5) 第2回研修会事前打ち合わせ 第5回実行チーム(R7.12.1) 「介護サービス利用者等へのペット飼育者聞き取り調査」検討 第3回研修会事前打ち合わせ

### ③地域診断(在宅療養者におけるペット飼育に関するアンケート)

調査対象	実行チームの所属する施設の医療介護系職員・ケアマネジャー
回答数	22名
<p>&lt;結果&gt;</p> <p>回答者は30歳代から60歳以上までで最頻値は50歳代、女性が82%、ケアマネジャー38%、介護福祉士23%、看護師12%、介護施設職員12%、理学療法士8%、社会福祉士4%、医師4%であった。</p> <p>数年に1回～年に数回までをすべて「経験あり」とした場合、ペット飼育に伴う療養環境の衛生問題は64%、糞尿等によるトラブル27%、多頭飼育の不適切事例36%、ペット由来感染症27%、予防接種避妊問題14%、入所入院のペット預かり問題5%、治療ケア拒否問題14%、入所拒否問題9%、死去後のペット処遇問題5%、ペットによる威嚇問題18%、噛みつき問題5%が経験されていた。しかしこの場合、事例の重複があることに注意が必要である。なお、物品破損問題・ペットの世話依頼問題は経験されてなく、アンケート回答者の担当する範囲では現在・将来にペット飼育で問題を抱えている対象者は無かった。</p>	

姫島村では数年に一度の頻度で、認知機能低下を伴う高齢者が多数猫不適切飼育に陥り室内外環境が破綻し問題が表面化することが窺えた。


これまで問題となった事例では多職種カンファレンスで問題解決した事例もあるが最後まで対応に難渋した事例もあった。

連携の発展段階は、令和7年度当初で Zero～A の段階(村内の関係者とは顔見知りであり業務内容は知っているが細かい内容は理解不足、村外の動物問題に関する関係機関や団体との面識関係ほぼゼロ)であった。

④人間と動物の医療福祉を豊かにする研修会の実施

第1回	
日時	令和7年10月9日(木)14時～16時
会場	姫島村 離島センター やはず
参加人数	28名 行政関係12名(村議会議員2名、民生委員7名、役場職員1名、職種無記1名)、一般住民16名、医療職1名
プログラム	研修会の意義説明、地域診断アンケート説明 医療福祉の現状・動物福祉の現状をスライドで説明 「姫島で安心してペットと過ごすには何が必要?」「動物が苦手な人が困ることなく過ごすには何が必要?」をテーマにワークショップ
使用教材	①、②、③ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>参加の呼びかけは村議会議員・民生委員には会議等で呼びかけを行い、住民には回覧板やケーブルテレビ文字放送広報で参加を募った。</p> <p>平日開催のため介護職の参加がなかった。</p> <p>一般住民が多かったため、ペットに関わる問題というよりも野良猫による被害を訴える意見が多かった。</p> <p>多頭飼育や飼育放棄の問題に対しては適切な避妊去勢が必要であるとの意見が多く出され、去勢費用の負担に助成があるべきとの意見や、猫に励まされてリハビリが進んだとか猫カフェを作りたい、猫島で観光につなげよう等の意見もあった。</p>
	 
感想	<p>開催時間の関係もありケアマネや介護職員の参加が少なく一般住民主体の研修会になった。事前の地域診断アンケート結果では深刻な医療介護サービス不全につながるペット飼育事例は比較的少なく、糞尿・野良猫問題が共通の悩みであることがわかった。</p> <p>避妊・去勢についての費用や情報は共有されておらず、「どこに相談すればよいかわからない」という声も聞かれた。</p>

第2回	
日時	令和7年11月6日(木)14時~16時
会場	姫島村 離島センター やはず
参加人数	計25名 行政関係8名、民生委員3名、一般住民13名、医療職1名
プログラム	趣旨説明、前回研修会の振り返り 大分県動物愛護センター獣医師による講演「『令和』に望まれる、人間と動物の関わり方」 「講演を聞いて気になったこと、問題点」「村民として出来そうなこと」をテーマにワークショップ
使用教材	⑤、⑥ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>参加の呼びかけは前回参加者への呼びかけと回覧板チラシ、ケーブルテレビ文字放送で参加者を募った。</p> <p>大分県動物愛護センターより獣医師等4名の参加があり、講演・アドバイスをしていただいた。</p> <p>講演内容は国診協作成の「不妊去勢のあれこれ」と動物愛護センター作成の資料で行われた。</p> <p>猫の繁殖力の高さ、餌やりが個体数増加につながることを学び、避妊・地域猫活動・大分サクラ猫プロジェクトの仕組み・捨て猫の問題について専門家の意見を聞きながらグループワークができた。入院や旅行時のあずかりや餌やり等の互助的活動の提案もあった。</p>
	
感想	大分県動物愛護センターの職員による法的な枠組み変化とペットの飼い方の変遷を参加者が理解できた。

第3回	
日時	令和7年12月11日(木)14時~16時
会場	姫島村 離島センター やはず
参加人数	計13名 一般住民 12名、医療職 1名
プログラム	趣旨説明、前回研修会の振り返り 「介護サービス利用者等へのペット飼育者聞き取り調査」説明 「動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者」スライドで説明 「姫島村における災害避難時のペットと同伴避難の対応」説明 「犬や猫に関わる人が助け合う『地域グループ』を姫島で作れるでしょうか」をテーマにワークショップ
使用教材	④、⑦ ※番号に対応する教材は12ページ参照
概要	<p>参加の呼びかけは前回参加者への呼びかけと回覧板チラシ、ケーブルテレビ文字放送で参加者を募り、参加人数は13名だった。</p> <p>前回研修会の地域猫活動の要点や追加情報を行い、姫島村内のペット飼育者(20人)への聞き取り調査結果を「動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者」スライドとあわせて説明し、我が事として助け合いグループの必要性を考えた。</p> <p>最終的に参加住民から地域猫活動を開始する意思表示があった。研修会参加者のだけでない猫多頭飼育者やえさやりをしている人の参加が望まれると意見、地域猫活動に参加するとしたら動物愛護センターのある大分市までの捕獲した猫の搬送の手間に行政からの協力が得られるか?などの具体的な疑問も生じていた。</p>
	
感想	<p>犬や猫に関わる人が助け合う『地域グループ』を作るための手がかりとして地域猫活動が考えられた。</p> <p>大分県の「おおいた地域ねこ活動ガイドライン」「大分県猫不妊・去勢手術助成事業費補助金交付要綱」「地域猫活動についてお知らせ(飼い主のいない猫対策)」の資料が参考になると思われるが、「ガイドライン」にしばられすぎると地域の実情に合わせにくくなる懸念もある。</p>

⑤事業の効果と課題

効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを実施することで実際の問題点が明らかになった。</li> <li>・動物愛護法に関する理解が深まった。</li> <li>・災害時のペット支援体制の情報共有が進んだ。</li> <li>・猫問題に個人で対応していた状況が明らかになり、地域猫活動団体を立ち上げる意識が芽生えた。</li> </ul>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療福祉介護に関して問題のあるケースは少数だが存在していることが明確になり、入院時の家庭状況の把握や ACP の一環としてのペットの問題を取り組む必要性を共有できた。</li> <li>・大分県の動物愛護センター職員からは、離島であるからこそ地域猫活動がうまくいく可能性もあると示唆された。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民参加型の研修会としたが一部参加者から「猫には餌をやるな」「行政が何とかしろ」といった感情的な意見が出たり、人間と動物の共生に関する意見が出にくく多頭飼育に対する不満の声が多く聞かれバランスを取る苦労があった。</li> <li>・医療介護問題以外の話題（鳴き声・糞尿問題など）に焦点がずれる傾向があった。</li> <li>・離島の小規模自治体のため近隣に動物愛護団体や開業獣医がなく参加を得ることができなかった。</li> <li>・大分県の地域猫活動ガイドラインには地域の実情に合わせにくい部分があった。</li> </ul>

### ⑥事業全体を通して

<p>事業開始前は、離島という特性もあり近隣や親戚との付き合いが強く、困った時は近隣住民との協力で解決することが多かったため、公的な仕組みを整える必要性があまり意識されていなかった。</p> <p>しかし、事前の地域診断アンケートや、独自に行なった姫島村内の動物飼育者対象アンケート調査（過去の緊急・体調不良時・災害時の対応の経験の有無、今後の対応の予定、今後の支援の要望等）により、これまで表面化していなかった捨て猫問題や糞尿問題が村内にもあり個人の努力対応で解決されてきたことがわかった。</p> <p>アンケート調査結果等を参加者へ情報提供し共有議論したことで地域ねご活動のきっかけを作ることができたが、大分県の地域ねご活動ガイドラインが離島地域の実情にあわせるにはやや困難な部分もあるため今後の活動には工夫が必要と思われた。</p> <p>また、医療介護関係スタッフにもペット飼育者の不安や困り事の理解深まり、今後の終末期 ACP 活動や災害時要支援者の対応にペット飼育という視点を加えることができた。</p> <p>研修会では、仕事をしている人やケアマネジャーなど、日中の参加が難しい層のために開催時間の再検討も必要と思われた。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 本事業検討委員会委員からのコメント ～当地域へのヒアリングを通じて～

これまで、姫島村国保診療所を中心として、保健・医療・介護・福祉に関係する様々な取組を行って来たことから、「幅広く村民の声を拾える方たち」をスタッフとして実行チームを形成することができています。また、事業開始に当たって、村長・副村長ともコミュニケーションをとれることも姫島村の特徴です。離島であることから、様々な資源においては乏しい状況ではありますが、島外の「大分県動物愛護センター」を活用するなど、事業全体マネジメントに工夫がみられました。

「お茶菓子を用意し、和やかな雰囲気の中で住民が気軽に参加しやすい場作りに努めた。」や、「高齢者が多いこと、発言が苦手な人がいること、一部の人の意見になる可能性があることなどから付箋を使用し意見を出しやすいようグループワークを可視化した。」等、これまでの経験を活かし、住民が参加しやすい配慮は、他地域でも参考となる取組です。

「入院時の過程状況調査や ACP の一環として取り組む」や、「災害時の避難要支援者のシートに動物飼育の有無を入れる」などは、医療機関・医師が中心となって本事業に取り組む二次的な波及効果として今後に期待したいと思います。

「大分県の「地域猫活動ガイドライン」が地域の実情に合わないため活動を進めることが難しい」といった振り返りも、様々な自治体での普及のために、より具体的な提言として発信して頂きたいと考えています。

今後も、医療者の視点から地域を俯瞰し、行政と一体となった政策提言や活動を継続して欲しいと思います。

## 本事業の検討委員会アドバイザーからのコメント①

岐阜県・郡上市健康福祉部高齢福祉課地域包括支援センター  
主任介護支援専門員 安田 幸二

## 「課題解決に向けて体制を整備していく皆さんへ」

2021年、環境省・厚生労働省連名で「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン」が発出されました。しかし、保健・医療・介護・福祉の専門職と動物愛護関係者が共に取り組む体制が整っている地域は、いまだ多いとはいえません。本事業の評価指標でいえば「Zero（相談先不明で連携を模索している）」段階です。当市（岐阜県郡上市）も、当初はこの段階からのスタートでした。

具体的には、独居の認知症高齢者による外猫への餌やりを背景に猫が増え、衛生問題等を訴える地域住民との間で調整が必要となりました。保健所の助言を受け、担当ケアマネジャーと共に対応に奔走しましたが、十分な解決には至りませんでした。そこで初めて、高齢者の生活支援と動物の適正飼養の両立には、分野ごとの対応では限界があることを痛感しました。

その経験から、福祉専門職と動物愛護関係者が顔を合わせる定例ミーティングに参画しました。当初は、それぞれが「人」と「動物」の立場を代弁するあまり、感情的な対立もありました。しかし、一度立場を離れ、互いの人となりを知ることから始め、対話を重ねることで尊重し合える関係性が生まれました。今では「人と動物の共生する社会」の実現に向けて協働できる関係となっています。

中山間地域では担い手自体が少ないかもしれませんが、それでも、共通の課題で出会えたなら、分野の違いを越えて、対話によってお互いを知り合うところから始めてみてください。目指す社会の姿は、きっと同じなのです。

## 本事業の検討委員会アドバイザーからのコメント②

富山県・南砺市地域包括医療ケア部地域包括支援センター  
センター長 竹内 嘉伸

研修会や意見交換で皆さんが話し合うことにより、生まれてくる大切な価値のなかで、重要な視点は、「高齢者・障害者だからペットを飼ってはいけない」ではなく、「高齢者・障害者がペットと暮らせる環境を地域で整える」という考え方が共通認識として醸成されている点です。

高齢者・障害者がペットの飼育を継続困難になる問題に対し、単に「手放す」のではなく、「地域全体で支えて共生する」方向への課題が共有され、解決策が検討されています。

主な解決策は、公的な社会資源（法的・制度的）な準備はまだですが、地域毎に支援サービスが存在していること、ボランティアネットワークが構築されていることがわかってきました。

予防的に、ペットを飼育している利用者支援に関わる専門職のかたは、早めに入院や緊急時の体制（誰に頼むか、どこに相談するか）を確認し、地域のペットシッターやボランティア等のサービスの情報収集に関心をもち、積極的に活用していく姿勢が求められます。

# 第4章

## 事業のまとめ



### 要 旨

本事業は、地域包括ケアシステムの中で人と動物の関係に起因する生活課題に着目し、医療・介護・福祉・行政及び動物愛護関係者が連携して支援体制を検討することを目的に実施されました。検討委員会の設置と教材を含む研修プログラムの開発を行い、全国8つのモデル地域で地域研修会と実態調査を実施しました。

地域診断アンケートの結果から、療養環境の衛生問題、多頭飼育、ペットを理由とした入院や介入の拒否など、支援現場において一定の頻度で発生している課題が確認されました。研修を通じて、ペット飼育の問題が個人の嗜好ではなく、生活の質や社会的孤立に関わる福祉課題であるという認識の広がりが確認されました。

また、医療福祉分野と動物愛護分野の関係者が対話する機会が生まれ、相談先の可視化や顔の見える関係づくりなど連携基盤の形成が進みました。さらに電子カルテへのペット情報の記載や相談窓口の整理など、実務上の具体的な取り組みも各地域で確認されました。

一方で、地域ごとの連携体制の成熟度の差、支援者の心理的負担、ボランティア資源の不足、ケアマネジャーのシャドーワーク、災害時の備えの不足といった課題も明らかになりました。

今後は、相談窓口の明確化やペットを含めた人生会議(ACP)の普及、災害時のペット対応を含めた支援体制の整備を進め、人と動物の双方の福祉を視野に入れた地域包括ケアの実践を広げていくことが求められます。

**Keywords :** 人と動物の相互作用、社会的孤立、多職種連携、人生会議(ACP)

### (1)事業の振り返り

本事業は、地域包括ケアシステムにおいて人間と動物の医療福祉を豊かにすることを目的に、多職種が連携して課題を共有し、相互理解を深める取り組みとして実施しました。市町村や地域包括支援センター、医療・介護施設、そして動物愛護関係者が協働できる実践的な連携基盤の構築が目標です。

事業の推進にあたっては、まず検討委員会を設置して全8回の委員会を開催し、全体の企画や進捗管理を行いました。その中で、全国に应用可能な研修プログラムや地域研修会開催の手引き、解決に向けた参考資料を作成しました。同時に、各連携団体において行政や社会福祉協議会、医療従事者らで構成される実行チームを編成しました。そこで、地域の実態把握と運営体制の整備

を進めながら、動物愛護関係者との接点構築および相互理解の深化を重点的に取り組みました。いまだ関係性が深まっていない地域においても実行チームへの参加を促すなど、段階に応じた体制づくりを確認しました。

検討委員会では、研修教材の開発や実務者研修会の開催を通じて、地域の状況に合わせたプログラム立案の手法を体系化し、各地域で再現可能な形へと整理を行いました。教材および地域研修プログラムは、先行活動からの学びとして、動物福祉の課題の背景には社会的孤立などの人間の医療福祉課題が存在しており、表面的な問題解決だけでなく関係者間の認識合わせが不可欠であることが示されています。これに基づき、研修プログラムは情報提供を行う座学と、課題を共に考えるグループワークを組み合わせた構成を基本としました。地域特性や参加者の状況を考慮し、3回連続のシリーズ形式だけでなく、単発でも効果が得られるような柔軟なプログラムを設計し、それぞれの地域で保健所や獣医師会への協力要請を行いながら、関係構築の第一歩を支援しました。

そのなかで多くの地域が連携の発展段階における「Zero(相談先不明で模索している段階)」からスタートし、対話を通じて相互理解を深める取り組みが展開されました。本項では、各地域の取り組みの特徴を振り返り、そのあと事業の効果と課題について考察します。

## ●地域診断アンケート結果

各連携団体で実行チームを組織し、地域診断のためのアンケートを実施しました。回収数は539件に上り、介護支援専門員(ケアマネジャー)が31.2%と最も多く、看護師23.0%、社会福祉士9.8%、介護福祉士9.3%など多様な職種から回答を得ました。支援者の36.7%がペットを飼育しており、犬が59.6%、猫45.5%を占めています。また、目のかゆみや鼻炎など動物に対するアレルギーが支援者の、20.4%にあることがわかりました。

次に、支援上の課題として最も多く挙げられたのは「療養環境の衛生上の問題」(62.5%)であり、「多頭飼育や虐待など不適切飼育」(32.8%)、「糞尿による近隣トラブル」(31.2%)、「ペット飼育を理由にした介入(治療やケア含む)や入院の拒否」(28.4%)が続きました。問題となった動物は猫が50.3%と高く、犬の35.6%を上回っています。この結果は、猫の屋内外を行き来する飼育形態や繁殖制御の困難さなど、環境管理の難しさを示唆しています。

次にケアマネジャーのみで集計(N=133)した結果、ペットを飼育している対象者を1名以上担当しているのは81.2%であることがわかりました。さらに24.8%がペット飼育に関連する課題を抱える対象者を担当しており、ペットの世話まで行った経験があるのは20.3%に上ることが明らかとなりました。さらに、将来的に問題化する可能性を認識しているケアマネジャーは39.8%に達している一方で、災害時のペット対応について話し合っているのは12.8%にとどまり、地域の支援体制が十分でないことが明らかとなりました。

以上の結果から、地域包括支援センターを中心に、動物愛護団体や保健所と連携した相談体制を確立することが急務と考えられます。また、ケアマネジャーのペット飼育に関するシャドーワークも明らかとなるなど、ペット共生支援研修など、実務者レベルでの知識共有の促進が必要です。

## ●各地の取り組みの特徴

### 1. 青森県 三戸町(P.13～)：病院主導による「ゼロからの関係構築」

病院が主体となり、医療・福祉・行政・動物愛護の各分野を横断して連携を構築した点が特徴的です。実行チームは6名で構成され、3回シリーズの研修会を開催しました。参加者の約7割が日常業務でペット飼育に関する困難を経験しており、これまでほぼ「ゼロ」であった動物愛護関係者との連携を初めて実現しました。参加者からは「相談窓口の存在を知り業務に役立てたい」といった意見が寄せられ、実際に入院時に看護師がペットの状況を確認するようになるなど、専門職間の具体的な行動変容と地域連携の基盤形成が図られています。

### 2. 静岡県 浜松市天竜区(P.18～)：学び合いで築いた「人と動物の共生支援」の地域モデル

高齢化率48%の浜松市天竜区で、人と動物の医療福祉課題を多職種連携によって解決しようとする地域の実践です。研修会では、獣医師や福祉職らが意見を交わし、特に浜松保健所浜北支所長による動物関連法のレクチャーが参加者の意識を大きく変えました。動物を巡る課題を法的・倫理的観点から理解する契機となり、「動物の問題は人の問題でもある」との認識が共有され、行政・医療・福祉・動物分野が協働する基盤づくりにつながりました。

### 3. 富山県 上市町(P.23～)：地域一体型の動物愛護・医療福祉推進

新たな負担を避け、既存の多職種連携研修や地域会議に内容を重ねる形で実施された点が大きな特徴です。計3回の研修では、中部厚生センターの獣医による専門講義や「楽しみながら身近な話題として話せた」と評されるグループワークが行われ、2回目の参加者が55名にのぼるなど、幅広い専門職が知識を深めました。この結果、電子カルテへのペット情報の追加やエンディングノートの改訂といった具体的な行動変容に繋がったことが大きな成果です。

### 4. 岐阜県 郡上市(P.30～)：既存の連携基盤を活かした円滑な多職種連携と予防的体制への展望

郡上市の取り組みは、既存の動物・人福祉関係者の会議体をそのまま実行チームへ移行し、迅速な立ち上げを実現した点が大きな特徴です。研修会は、事前アンケートに基づき地域の現状を反映させました。参加者からは「相談先が分かった」等の肯定的な意見が寄せられた一方、「事が大きくなる前に対応できる予防」の重要性が強調されています。今後は一匹からの飼育崩壊を防ぐ窓口の明確化や予防第一のシステム作りなど、より実効性のある体制構築に取り組む予定です。

### 5. 鳥取県 日南町(P.35～)：NPO・広域行政とのネットワーク構築

動物病院が町内に1つしかないという限られた資源の中で、NPO 法人「人と動物の共生センター」や保健所、県庁との広域的な連携を構築しました。高齢化率54.9%の日南町を舞台に、医療・福祉と動物愛護を「地域包括ケア」の一環として融合させた点が大きな特徴です。事前のアンケートでは専門職の97.4%から回答を得ており、ペットが生きがいとなる一方で入院時の預け先不足といった課題が可視化されました。全3回の研修会を通じて動物愛護関係者との顔の見える協力体制

へと発展しています。参加者からは「介入の心理的ハードルが下がった」との意見が寄せられ、単なる個人問題を越えた地域ぐるみの支援体制構築に向けて前進しました。

#### 6. 島根県 飯南町(P.40～)：多職種連携による地域課題の可視化と共通認識の形成

高齢化率約46.9%という中山間地域特有の状況の中で、ペット問題を「動物福祉」ではなく「高齢者の生活継続」や「地域福祉課題」として捉え直した点に特徴があります。医療・介護・福祉・行政などの現場職が中心となる少数精鋭の実行チームを組織しました。研修会には民生委員、行政職員、医療福祉関係者らが参加し、「残されたペットへの責任意識が高まった」「人生会議(ACP)にもつながる視点が得られた」との意見が寄せられました。地域全体に共通認識を広げ、今後の相談窓口設置や継続的な支援体制づくりの基盤を築いた点が大きな成果です。

#### 7. 香川県 三豊市・観音寺市(P.45～)：人と動物の医療福祉をつなぐ多職種連携の構築

動物愛護の基盤が乏しかった三豊地域において、人と動物の共生を支える医療福祉の仕組みづくりを目的に実施されました。ケアマネジャーや看護師など約10名の相談室スタッフが中心となり、医師会・獣医師会・行政の協力を得て研修会を開催しました。研修では参加者の意見をもとにKJ法を用いて課題を整理し、多職種間の理解促進を図りました。参加者からは「困っているのは自分だけではない」との共感が多く寄せられ、獣医師も診療時間を調整して参加するなど高い関心が示されました。結果として、地域における連携体制の芽が生まれ、今後は香川県全体への事業拡大と相談窓口の整備が期待されています。

#### 8. 大分県 姫島村(P.49～)：離島ならではの地域力を生かした「人と動物の共生」への挑戦

人口1,692人、高齢化率56.8%という小規模離島の特性を踏まえ、人と動物の医療福祉を両立させる研修事業が展開されました。実行委員8名による体制で、医療・介護・行政の枠を超えた協働が実現しました。第1～3回研修会では延べ66名が参加し、「地域猫活動」を立ち上げる動きが生まれたことは大きな成果です。

大分県動物愛護センターとの連携を通じて、避妊去勢や災害時の支援体制などの理解が深まり、離島における自立的な共生モデル構築への意識が芽生えました。

#### 9. まとめ

以上の8地域の事例を比較すると、地域規模や資源状況は異なるものの、いくつかの共通点が確認できます。第一に、医療機関や地域包括支援センターなど既存の医療福祉ネットワークが連携の起点となっている点です。第二に、保健所や動物愛護団体が参加することで相談先が明確化し、支援者の心理的負担が軽減されている点。第三に、電子カルテへのペット情報の記録や地域猫活動など、具体的な行動変容が各地域で生まれている点が特徴的です。これらの共通点は本事業を今後他の地域でも展開する上で重要な視点になると思われます。

## ●研修会アンケート結果

各連携団体で実施した研修会参加者アンケートの結果を以下にまとめます。延べ参加者数は661人で、回収数は619件(回収率93.6%)でした。

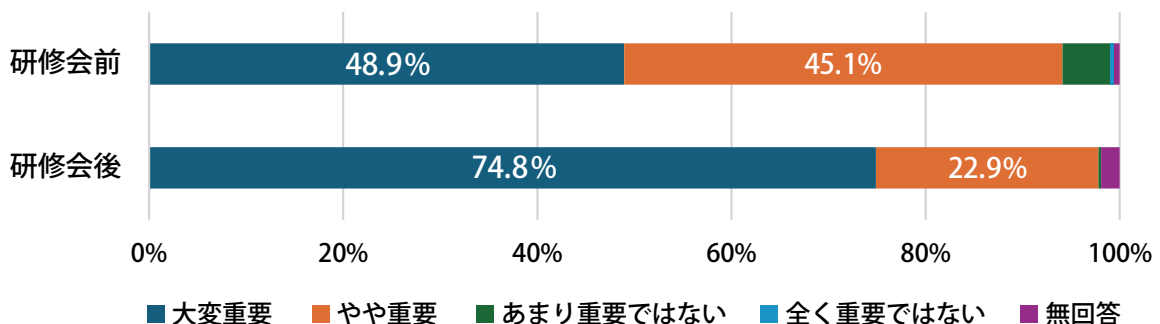
参加者の属性は、保健・医療・介護・福祉関係者が61.7%、行政関係者が25.4%、動物愛護関係者5.7%でした。ペット飼育に関する問題を認識したことがあるかという質問では、75.3%が「認識あり」と回答しています。

研修会前の結果では「相談できる機関や人がいるか」という質問に対し、「はい」と回答した人が46.8%、「いいえ」と回答した人が52.5%でした。また、「ペットに関する問題に取り組む重要性」については、「大変重要」48.9%、「やや重要」45.1%、「あまり重要ではない」5.0%、「全く重要ではない」0.3%という結果でした。

次に研修後の結果です。研修内容の理解度については、「十分理解した」70.1%と「やや理解した」27.1%を合わせると97.2%が理解できたと回答しています。研修の満足度についても、「大変満足」66.2%、「やや満足」31.0%で、合わせて97.2%が満足したと回答しました。

また、「ペットに関する課題に直面した際に相談できる人と顔見知りになったか」という質問には、76.4%が「顔見知りになった」と答えています。さらに、「ペットに関する問題に取り組む重要性」については、「大変重要」74.8%、「やや重要」22.9%、「あまり重要ではない」0.3%、「全く重要ではない」0%という結果でした。

地域の中でペットに関する問題についてみんなで取り組む重要性



自由記述からは、地域におけるペット問題を医療・福祉の課題として捉える視点が参加者に共有されたことがうかがえます。とりわけ多かったのは、相談窓口や支援体制への理解に関する記述であり、「相談窓口は保健所ということを知った」「相談先があることがわかり、今後相談していきたい」といった回答に見られるように、関係機関の役割や連携の重要性が認識されたと考えられます。次に、地域猫や多頭飼育崩壊など、繁殖や飼育管理に関する地域課題への理解が深まったという意見が目立ち、「多頭飼育崩壊を事前に防ぐには、周囲の早期発見が重要」といった予防的視点も共有されていました。さらに、高齢者の入院や生活変化に伴うペットの行き場の問題を踏まえ、「終活内容にペットも加えて話し合っておくことの必要性」など、ペットを含めた人生会議(ACP)の必要性に言及する意見も一定数確認されました。以上から、本研修は地域におけるペッ

ト問題を個人の飼育問題にとどめず、医療・福祉・行政の連携課題として理解する契機となったと整理できます。

## 1)事業のもたらした効果

本事業を通じて、地域の医療・介護・福祉・行政及び動物愛護関係者の間で新たな理解と連携が生まれました。これらの成果は、大きく「認識の変化」「連携体制の形成」「実務上の改善」の三つの側面から整理できると考えられます。

### ●認識の変化

これまで医療・介護・福祉の現場では、ペット飼育に関する問題は個人の生活上の問題として扱われることが多く、支援の対象として十分に認識されていない場合もありました。本事業で実施した地域診断アンケートでは、療養環境の衛生問題や多頭飼育、ペットを理由とした入院拒否など、ペットに関連する課題が支援現場で一定の頻度で発生している実態が明らかとなりました。さらに研修会参加者アンケートでは、「地域の中でペットに関する問題に取り組む重要性」について「大変重要」と回答した割合が研修前の48.9%から研修後は74.8%と約26ポイントも増加しています。自由記述の内容も含め、ペット飼育の問題が医療や介護を含む生活環境や社会的孤立と関わる福祉課題として認識されるようになったことが確認されました。

### ●連携体制の形成

次に連携体制の形成が進みました。本事業では、医療・介護・福祉分野の専門職と、保健所、獣医師、動物愛護団体などの関係者が同じ場で課題を共有する機会が設けられました。研修会後のアンケートでは、参加者の76.4%が「ペットに関する問題について相談できる人と顔見知りになった」と回答しており、分野を越えた関係構築が進んだことが確認されています。また、各地域では行政、医療機関、地域包括支援センター、動物愛護関係者などによる実行チームが組織され、地域ごとの状況に応じた連携の基盤が整備されました。これにより、これまで接点の少なかった医療福祉分野と動物愛護分野の間に、課題発生時に相談できる関係が形成されたことは、本事業の重要な成果の一つといえます。

### ●実務上の改善

本事業を契機として、各地域では具体的な実務の変化も確認されました。例えば、医療機関や福祉現場において利用者のペット飼育状況を把握する取り組みが始まり、電子カルテやエンディングノートにペット情報の項目を追加する事例が見られました。また、地域によっては研修をきっかけに「地域猫活動」への理解が深まり、行政や動物愛護センターとの協働による取り組みが進められています。こうした取り組みは、ペット飼育をめぐる問題を早期に把握し、飼育崩壊や生活環境の悪化といった深刻な問題を未然に防ぐ予防的支援につながる可能性があります。

以上のように、本事業はペットに関する課題を個別の生活問題としてではなく、地域包括ケアの中で共有すべき支援課題として捉え直す契機となりました。認識の変化、連携体制の形成、実務上の改善という三つの側面において一定の成果が確認され、行政・保健・医療・介護・福祉・

動物愛護の各分野が協働する新たな地域支援の基盤が形成されつつあります。

## 2)明らかとなった課題

一方で、本事業を通じて「構造課題」、「実務課題」、「制度課題」の3つの課題が明らかになりました。

### ●構造課題

#### 1. 地域連携の発達段階の差

地域間における連携の発達段階の差です。本事業の評価指標である「連携の発達段階」において、多くの地域がいまだ「Zero：相談先不明で模索している段階」に留まっていることが明らかとなりました。まずペット飼育に関する課題に対して医療福祉側の温度差を指摘する地域もありました。さらに医療福祉側と動物愛護側の双方が、互いの専門性や役割を十分に理解し、日常的な連絡ルートを確立するまでには、なお継続的な対話と時間が必要であると考えられます。アンケートの自由記述からは、多くの参加者が「相談窓口や支援体制の明確化」を強く求めている実態が浮き彫りになっています。保健所、自治体、ボランティア団体などの役割分担や連絡体制が十分に整理されていない地域も多く、情報共有の仕組みづくりが急務となっています。

#### 2. 資源の偏在と体制維持

次に、資源の偏在と体制維持の難しさが挙げられます。人口規模や地理的条件(離島や中山間地域など)により、連携できる動物病院やボランティア団体が限られている地域では、特定の関係者に負担が集中してしまう懸念があります。また、既存の多職種連携会議や地域ケア会議の中に、どのようにして「動物愛護」の視点を過度な負担感なく組み込んでいくかという枠組みの工夫も、行政職員や現場のリーダーにとって重要な検討事項となります。

### ●実務課題

#### 1. 多頭飼育や野良猫問題への具体的対応

さらに、現場の危機感として強いのは、多頭飼育や野良猫問題への対応、そして不妊去勢手術に対する助成制度の充実を求める声です。これらは個人の努力だけでは限界があり、地域全体での予防的な取り組みが不可欠です。また、高齢者の入院や施設入所時にペットの行き場がなく困窮するケースへの関心は非常に高く、「行き場がないという話に胸が痛んだ」「地域全体で考えるべき問題だ」という切実な共感が寄せられました。こうした事態を防ぐためには、ペットを含めた「人生会議(ACP)」の推進や、一時預かり支援体制の整備など、医療福祉の動線に合わせた具体的な仕組みづくりが求められています。

#### 2. 支援者のリソース不足

さらに支援の担い手側が抱える課題も深刻です。「ボランティアの高齢化が進み、今後の継続性に不安がある」「現場では時間や人手が足りず、重要性は理解してもすぐに動けない」といった、現実的なリソース不足を指摘する声も少なくありません。また、ボランティア自身の多頭飼育崩壊の事例も報告されており制度的裏付けのない中、継続可能な仕組みづくりが求められています。

**●制度課題****1. 支援者の介入における心理的ハードル**

支援者自身が抱える「介入の心理的ハードル」も無視できません。ペットの問題は飼い主の価値観に深く根ざしているため、どこまでが公的な支援の範囲であり、どこからが自己責任なのかという境界線が曖昧になりやすい傾向があります。支援者が自信を持って対応できるよう、具体的な判断基準や成功事例の共有、さらには法的なルールの整理など、今後の体制整備における制度設計も含めた大きなポイントになると考えられます。

**2. ケアマネジャーのシャドーワーク**

今回の調査でケアマネジャーの約8割がペットを飼育している対象者を担当していることがわかりました。さらに、将来問題化する可能性を認める対象者を約4割が担当しています。潜在的なリスクを抱えながら担当している状況の中で、ケアマネジャーの約2割が対象者のペットの世話をした経験があるなどシャドーワークの実態も明らかになりました。

以上3つの切り口から課題を明らかにしました。いずれも、関わる人の善意に過度に依存するのではなく、地域で支え合う持続可能な仕組みをいかに具体化していくかが、次なる大きな課題であり社会的な議論が必要と考えられます。

**(2) 今後の展望**

ペットは単なる愛玩動物ではなく、特に高齢者にとっては生活の張りや生きる意欲を支えるかけがえのないパートナーであり、その存在を尊重することは、住民の精神的な健康維持やQOLの向上に大きく寄与します。本事業が提示した「人間と動物の医療福祉の協働」という視点は、これからの地域包括ケアシステムが目指すべき、真に住民一人ひとりのウェルビーイング(幸福)と生きがいに資する、地域づくりも含めた重要な構成要素です。しかしながら、本事業の調査において災害時のペット飼育について話し合っているケアマネジャーは、13%に留まっているという事実は、今後の地域包括ケアにおいて見過ごせない課題を提示しています。

災害大国である我が国において、非常時の備えは住民の命と尊厳を守るための不可欠な要素です。ペットの避難先やケアが未整備なままでは、飼い主である高齢者が避難を躊躇し、逃げ遅れや避難所での孤立といった深刻な事態を招く恐れがあります。日常のケアプランの中に「災害時のペットの処遇」を組み込むことは、もはや特殊なことではなく、包括的なリスク管理の一環として位置づけることが重要です。

今後の展望としては、本研修で芽生えた「多職種が協力して支援したい」という前向きな意欲を、いかに「日常」と「非常時」の両面で機能する連携へと繋げていくことが重要です。具体的には、ペットの将来を見据えた「ペットを含めた人生会議(ACP)」の普及や、各地域の資源を可視化した相談ルートの整備を推進していく必要があります。

そのためには今回開発した教材と研修プログラムを広く各地で開催し、現場で自信をもって対応できるよう支援していくことが重要です。これを通じて、保健・医療・介護・福祉の専門家が、ペットの存在を「家族」の一部として早期に把握し、適切な窓口と連携することで、飼育崩壊や孤立死に伴う悲劇を未然に防ぐことが期待できます。これは、支援者にとっても「解決困難な問題」への対応力を高めることで、より包括的な支援を実現することにつながります。

そして将来的には、行政をはじめ保健・医療・介護・福祉の各部門と動物愛護部門が、垣根を越えて情報を共有し、誰もが安心してペットと共に最期まで自分らしく暮らせる社会の実現を目指すことが重要です。人と動物が共に健やかに、豊かな生活を地域の中で享受できる環境を整えることは、結果として地域社会全体の包摂性を高め、より強靱で温かなコミュニティを形成することに貢献します。

本事業を契機として、各地域で他分野の職種が手を取り合う「新しい連携の形」が、一つひとつ具現化されていくことを期待します。

### (3) 結論

本事業は、ペット問題を地域包括ケアの課題として可視化し、多職種連携に繋がる機会を創出しました。一方で資源不足や制度整備の遅れが課題であり、相談窓口の明確化やペットを含めた人生会議(ACP)の普及、災害時のペット対応を含めた取り組みを具体的に進めることが重要です。そして、各分野が垣根を越えて協働する持続可能な地域支援体制の構築が必要です。



# 参考資料



## 1) アンケート調査集計結果

### 1. 地域診断アンケート

◆ご回答いただきご自身についてお答えください。

#### ・所属地域

選択肢	回答数	割合
青森県・三戸町	59	10.9%
静岡県・浜松市天竜区	106	19.7%
富山県・上市町	72	13.4%
岐阜県・郡上市	51	9.5%
鳥取県・日南町	37	6.9%
島根県・飯南町	53	9.8%
香川県・三豊市・観音寺市	139	25.8%
大分県・姫島村	22	4.1%
合計	539	100%



#### ・年齢

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
20歳代	5	8.5%	10	9.4%	2	2.8%	0	0.0%	2	5.4%	4	7.5%	6	4.3%	0	0.0%	29	5.4%
30歳代	7	11.9%	22	20.8%	3	4.2%	8	15.7%	7	18.9%	4	7.5%	17	12.2%	2	9.1%	70	13.0%
40歳代	12	20.3%	25	23.6%	16	22.2%	14	27.5%	12	32.4%	17	32.1%	53	38.1%	4	18.2%	153	28.4%
50歳代	23	39.0%	30	28.3%	16	22.2%	15	29.4%	7	18.9%	14	26.4%	40	28.8%	9	40.9%	154	28.6%
60歳以上	12	20.3%	19	17.9%	35	48.6%	14	27.5%	9	24.3%	14	26.4%	23	16.5%	7	31.8%	133	24.7%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

#### ・性別

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性	8	13.6%	39	36.8%	6	8.3%	11	21.6%	11	29.7%	21	39.6%	18	12.9%	4	18.2%	118	21.9%
女性	50	84.7%	66	62.3%	64	88.9%	39	76.5%	25	67.6%	30	56.6%	118	84.9%	18	81.8%	410	76.1%
その他(答えたくない)	0	0.0%	1	0.9%	1	1.4%	1	2.0%	1	2.7%	2	3.8%	3	2.2%	0	0.0%	9	1.7%
無回答	1	1.7%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

・職種【複数選択可】

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
医師	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	9.4%	0	0.0%	1	4.5%	9	1.7%
歯科医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
看護師(訪問看護含む)	9	15.3%	27	25.5%	16	22.2%	4	7.8%	10	27.0%	6	11.3%	49	35.3%	3	13.6%	124	23.0%
保健師	7	11.9%	6	5.7%	5	6.9%	2	3.9%	0	0.0%	3	5.7%	10	7.2%	0	0.0%	33	6.1%
介護支援専門員(ケアマネジャー)	17	28.8%	10	9.4%	18	25.0%	32	62.7%	10	27.0%	13	24.5%	57	41.0%	11	50.0%	168	31.2%
理学療法士	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	1	2.0%	5	13.5%	3	5.7%	2	1.4%	2	9.1%	15	2.8%
作業療法士	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.4%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	6	1.1%
言語聴覚士	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
介護福祉士	10	16.9%	10	9.4%	10	13.9%	3	5.9%	4	10.8%	5	9.4%	2	1.4%	6	27.3%	50	9.3%
ホームヘルパー	12	20.3%	3	2.8%	5	6.9%	1	2.0%	4	10.8%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	26	4.8%
管理栄養士	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%	1	0.7%	1	4.5%	4	0.7%
薬剤師	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%
福祉用具専門相談員	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉士	1	1.7%	14	13.2%	8	11.1%	4	7.8%	4	10.8%	0	0.0%	21	15.1%	1	4.5%	53	9.8%
その他	8	13.6%	31	29.2%	18	25.0%	11	21.6%	1	2.7%	18	34.0%	2	1.4%	3	13.6%	92	17.1%

\*割合は本調査の地域別回答者数(冒頭の表参照)に占める割合を示している。

・現在の職種での経験年数

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
5年未満	6	10.2%	18	17.0%	9	12.5%	10	19.6%	4	10.8%	9	17.0%	11	7.9%	2	9.1%	69	12.8%
5年～10年	13	22.0%	16	15.1%	13	18.1%	9	17.6%	7	18.9%	4	7.5%	31	22.3%	0	0.0%	93	17.3%
10年～20年	19	32.2%	29	27.4%	14	19.4%	20	39.2%	8	21.6%	13	24.5%	40	28.8%	8	36.4%	151	28.0%
20年～30年	12	20.3%	21	19.8%	18	25.0%	12	23.5%	10	27.0%	22	41.5%	43	30.9%	8	36.4%	146	27.1%
30年以上	6	10.2%	22	20.8%	13	18.1%	0	0.0%	8	21.6%	5	9.4%	14	10.1%	4	18.2%	72	13.4%
無回答	3	5.1%	0	0.0%	5	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	1.5%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

・ご自身はペットを飼育していますか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	17	28.8%	29	27.4%	26	36.1%	15	29.4%	17	45.9%	16	30.2%	70	50.4%	8	36.4%	198	36.7%
いいえ	42	71.2%	77	72.6%	46	63.9%	36	70.6%	20	54.1%	37	69.8%	69	49.6%	14	63.6%	341	63.3%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

・前問で「はい」の場合、飼育している動物の種類を教えてください。【複数選択可】

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
犬	12	70.6%	13	44.8%	16	61.5%	8	53.3%	11	64.7%	9	56.3%	45	64.3%	4	50.0%	118	59.6%
猫	4	23.5%	16	55.2%	12	46.2%	6	40.0%	8	47.1%	6	37.5%	33	47.1%	5	62.5%	90	45.5%
その他	2	11.8%	4	13.8%	3	11.5%	3	20.0%	2	11.8%	2	12.5%	10	14.3%	0	0.0%	26	13.1%

\*割合は本調査の地域別回答者数(冒頭の表参照)に占める割合を示している。

・ご自身は動物に対してアレルギーはありますか？（目のかゆみや鼻炎、皮膚炎等の症状の有無）

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	13	22.0%	24	22.6%	11	15.3%	12	23.5%	9	24.3%	14	26.4%	21	15.1%	6	27.3%	110	20.4%
いいえ	46	78.0%	82	77.4%	61	84.7%	39	76.5%	28	75.7%	39	73.6%	118	84.9%	16	72.7%	429	79.6%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

◆在宅療養者を支援する上で、これまで経験したペット飼育に関わる問題についてお答えください。

1. ペット飼育に伴う療養環境の衛生上の問題（悪臭、不衛生など）事例を経験したことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	20	33.9%	12	11.3%	15	20.8%	9	17.6%	11	29.7%	4	7.5%	38	27.3%	4	18.2%	113	21.0%
年間1件程度、あり	7	11.9%	15	14.2%	11	15.3%	6	11.8%	5	13.5%	7	13.2%	27	19.4%	1	4.5%	79	14.7%
数年に1件程度、あり	15	25.4%	26	24.5%	16	22.2%	15	29.4%	12	32.4%	15	28.3%	37	26.6%	9	40.9%	145	26.9%
なし	17	28.8%	53	50.0%	28	38.9%	21	41.2%	9	24.3%	27	50.9%	37	26.6%	8	36.4%	200	37.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	42	71.2%	53	50.0%	42	58.3%	30	58.8%	28	75.7%	26	49.1%	102	73.4%	14	63.6%	337	62.5%
なし	17	28.8%	53	50.0%	28	38.9%	21	41.2%	9	24.3%	27	50.9%	37	26.6%	8	36.4%	200	37.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

2. 糞尿等による近隣とのトラブル事例を経験したことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	8	13.6%	4	3.8%	5	6.9%	1	2.0%	4	10.8%	2	3.8%	8	5.8%	1	4.5%	33	6.1%
年間1件程度、あり	2	3.4%	10	9.4%	5	6.9%	2	3.9%	3	8.1%	5	9.4%	15	10.8%	1	4.5%	43	8.0%
数年に1件程度、あり	12	20.3%	14	13.2%	12	16.7%	11	21.6%	6	16.2%	11	20.8%	22	15.8%	4	18.2%	92	17.1%
なし	37	62.7%	78	73.6%	48	66.7%	37	72.5%	24	64.9%	35	66.0%	94	67.6%	16	72.7%	369	68.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	22	37.3%	28	26.4%	22	30.6%	14	27.5%	13	35.1%	18	34.0%	45	32.4%	6	27.3%	168	31.2%
なし	37	62.7%	78	73.6%	48	66.7%	37	72.5%	24	64.9%	35	66.0%	94	67.6%	16	72.7%	369	68.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

### 3. 多頭飼育や虐待など不適切飼育事例を経験したことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	6	10.2%	1	0.9%	3	4.2%	2	3.9%	3	8.1%	1	1.9%	7	5.0%	2	9.1%	25	4.6%
年間1件程度、あり	5	8.5%	6	5.7%	5	6.9%	4	7.8%	3	8.1%	1	1.9%	12	8.6%	0	0.0%	36	6.7%
数年に1件程度、あり	12	20.3%	19	17.9%	16	22.2%	12	23.5%	9	24.3%	12	22.6%	30	21.6%	6	27.3%	116	21.5%
なし	36	61.0%	80	75.5%	46	63.9%	33	64.7%	22	59.5%	39	73.6%	90	64.7%	14	63.6%	360	66.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	23	39.0%	26	24.5%	24	33.3%	18	35.3%	15	40.5%	14	26.4%	49	35.3%	8	36.4%	177	32.8%
なし	36	61.0%	80	75.5%	46	63.9%	33	64.7%	22	59.5%	39	73.6%	90	64.7%	14	63.6%	360	66.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

### 4. ペット由来の感染事例を経験したことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	2	3.8%	0	0.0%	2	9.1%	7	1.3%
年間1件程度、あり	0	0.0%	3	2.8%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.7%
数年に1件程度、あり	1	1.7%	3	2.8%	3	4.2%	2	3.9%	1	2.7%	0	0.0%	9	6.5%	4	18.2%	23	4.3%
なし	56	94.9%	100	94.3%	65	90.3%	49	96.1%	35	94.6%	51	96.2%	130	93.5%	16	72.7%	502	93.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	3	5.1%	6	5.7%	4	5.6%	2	3.9%	2	5.4%	2	3.8%	9	6.5%	6	27.3%	34	6.3%
なし	56	94.9%	100	94.3%	65	90.3%	49	96.1%	35	94.6%	51	96.2%	130	93.5%	16	72.7%	502	93.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

### 5. ペットの予防接種や避妊などの未実施事例で困ったことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	2	5.4%	0	0.0%	6	4.3%	0	0.0%	10	1.9%
年間1件程度、あり	3	5.1%	2	1.9%	4	5.6%	3	5.9%	1	2.7%	1	1.9%	7	5.0%	0	0.0%	21	3.9%
数年に1件程度、あり	11	18.6%	12	11.3%	9	12.5%	7	13.7%	7	18.9%	5	9.4%	29	20.9%	3	13.6%	83	15.4%
なし	44	74.6%	92	86.8%	58	80.6%	40	78.4%	27	73.0%	47	88.7%	97	69.8%	19	86.4%	424	78.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		かみいち町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	15	25.4%	14	13.2%	13	18.1%	11	21.6%	10	27.0%	6	11.3%	42	30.2%	3	13.6%	114	21.2%
なし	44	74.6%	92	86.8%	58	80.6%	40	78.4%	27	73.0%	47	88.7%	97	69.8%	19	86.4%	424	78.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

6. 入所や入院に伴うペットの預け先の相談を受けたことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	2	3.4%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.8%	5	3.6%	0	0.0%	11	2.0%
年間1件程度、あり	2	3.4%	8	7.5%	6	8.3%	3	5.9%	1	2.7%	1	1.9%	10	7.2%	0	0.0%	31	5.8%
数年に1件程度、あり	5	8.5%	18	17.0%	16	22.2%	13	25.5%	7	18.9%	13	24.5%	26	18.7%	1	4.5%	99	18.4%
なし	50	84.7%	78	73.6%	49	68.1%	35	68.6%	29	78.4%	37	69.8%	98	70.5%	21	95.5%	397	73.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	9	15.3%	28	26.4%	22	30.6%	16	31.4%	8	21.6%	16	30.2%	41	29.5%	1	4.5%	141	26.2%
なし	50	84.7%	78	73.6%	49	68.1%	35	68.6%	29	78.4%	37	69.8%	98	70.5%	21	95.5%	397	73.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

7. ペット飼育を理由にした介入（治療やケア含む）や入院の拒否事例はありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	7	11.9%	2	1.9%	4	5.6%	0	0.0%	2	5.4%	2	3.8%	8	5.8%	0	0.0%	25	4.6%
年間1件程度、あり	2	3.4%	8	7.5%	1	1.4%	1	2.0%	3	8.1%	1	1.9%	16	11.5%	0	0.0%	32	5.9%
数年に1件程度、あり	7	11.9%	15	14.2%	17	23.6%	6	11.8%	14	37.8%	8	15.1%	26	18.7%	3	13.6%	96	17.8%
なし	43	72.9%	81	76.4%	49	68.1%	44	86.3%	18	48.6%	42	79.2%	89	64.0%	19	86.4%	385	71.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	16	27.1%	25	23.6%	22	30.6%	7	13.7%	19	51.4%	11	20.8%	50	36.0%	3	13.6%	153	28.4%
なし	43	72.9%	81	76.4%	49	68.1%	44	86.3%	18	48.6%	42	79.2%	89	64.0%	19	86.4%	385	71.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

8. ペット飼育を理由にしたショートステイや入所の拒否事例はありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	6	10.2%	1	0.9%	1	1.4%	0	0.0%	2	5.4%	1	1.9%	4	2.9%	0	0.0%	15	2.8%
年間1件程度、あり	2	3.4%	2	1.9%	1	1.4%	1	2.0%	1	2.7%	1	1.9%	8	5.8%	0	0.0%	16	3.0%
数年に1件程度、あり	8	13.6%	16	15.1%	11	15.3%	3	5.9%	7	18.9%	5	9.4%	22	15.8%	2	9.1%	74	13.7%
なし	43	72.9%	87	82.1%	57	79.2%	47	92.2%	27	73.0%	46	86.8%	105	75.5%	20	90.9%	432	80.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	16	27.1%	19	17.9%	13	18.1%	4	7.8%	10	27.0%	7	13.2%	34	24.5%	2	9.1%	105	19.5%
なし	43	72.9%	87	82.1%	57	79.2%	47	92.2%	27	73.0%	46	86.8%	105	75.5%	20	90.9%	432	80.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

9. 同居家族の居ない飼い主の入所や入院、死去による残されたペットの処遇に困ったこととはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	3	5.1%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	6	1.1%
年間1件程度、あり	2	3.4%	3	2.8%	4	5.6%	0	0.0%	2	5.4%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	13	2.4%
数年に1件程度、あり	3	5.1%	13	12.3%	17	23.6%	8	15.7%	8	21.6%	5	9.4%	29	20.9%	1	4.5%	84	15.6%
なし	51	86.4%	89	84.0%	48	66.7%	43	84.3%	26	70.3%	48	90.6%	107	77.0%	21	95.5%	433	80.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	8	13.6%	17	16.0%	21	29.2%	8	15.7%	11	29.7%	5	9.4%	32	23.0%	1	4.5%	103	19.1%
なし	51	86.4%	89	84.0%	48	66.7%	43	84.3%	26	70.3%	48	90.6%	107	77.0%	21	95.5%	433	80.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

10. ペットによる訪問サービス提供困難事例（支援者への威嚇や攻撃で脅威を感じるなど）はありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	8	13.6%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.1%	1	1.9%	2	1.4%	0	0.0%	15	2.8%
年間1件程度、あり	4	6.8%	3	2.8%	4	5.6%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.9%	10	7.2%	0	0.0%	23	4.3%
数年に1件程度、あり	9	15.3%	13	12.3%	14	19.4%	5	9.8%	10	27.0%	9	17.0%	22	15.8%	4	18.2%	86	16.0%
なし	38	64.4%	89	84.0%	52	72.2%	45	88.2%	24	64.9%	42	79.2%	105	75.5%	18	81.8%	413	76.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	21	35.6%	17	16.0%	18	25.0%	6	11.8%	13	35.1%	11	20.8%	34	24.5%	4	18.2%	124	23.0%
なし	38	64.4%	89	84.0%	52	72.2%	45	88.2%	24	64.9%	42	79.2%	105	75.5%	18	81.8%	413	76.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

11. 在宅サービス提供時に、噛みつきなどのトラブル事例はありましたか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	3	5.1%	1	0.9%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%	2	1.4%	0	0.0%	8	1.5%
年間1件程度、あり	4	6.8%	1	0.9%	1	1.4%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	9	1.7%
数年に1件程度、あり	8	13.6%	13	12.3%	8	11.1%	8	15.7%	5	13.5%	7	13.2%	23	16.5%	1	4.5%	73	13.5%
なし	44	74.6%	91	85.8%	60	83.3%	42	82.4%	32	86.5%	45	84.9%	112	80.6%	21	95.5%	447	82.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	15	25.4%	15	14.2%	10	13.9%	9	17.6%	5	13.5%	8	15.1%	27	19.4%	1	4.5%	90	16.7%
なし	44	74.6%	91	85.8%	60	83.3%	42	82.4%	32	86.5%	45	84.9%	112	80.6%	21	95.5%	447	82.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

12. ペット飼育に伴う福祉用具や医療機器等の破損事例はありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	3	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.6%
年間1件程度、あり	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	1	2.0%	1	2.7%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	5	0.9%
数年に1件程度、あり	2	3.4%	1	0.9%	1	1.4%	0	0.0%	3	8.1%	1	1.9%	9	6.5%	0	0.0%	17	3.2%
なし	54	91.5%	105	99.1%	67	93.1%	50	98.0%	33	89.2%	52	98.1%	129	92.8%	22	100.0%	512	95.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	5	8.5%	1	0.9%	3	4.2%	1	2.0%	4	10.8%	1	1.9%	10	7.2%	0	0.0%	25	4.6%
なし	54	91.5%	105	99.1%	67	93.1%	50	98.0%	33	89.2%	52	98.1%	129	92.8%	22	100.0%	512	95.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

13. 在宅サービスを提供する上で、ペットの世話まで行うこととなった事例はありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
年に数件、あり	2	3.4%	1	0.9%	0	0.0%	2	3.9%	2	5.4%	2	3.8%	2	1.4%	0	0.0%	11	2.0%
年間1件程度、あり	2	3.4%	1	0.9%	2	2.8%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	5.0%	0	0.0%	13	2.4%
数年に1件程度、あり	5	8.5%	7	6.6%	8	11.1%	6	11.8%	2	5.4%	2	3.8%	18	12.9%	1	4.5%	49	9.1%
なし	50	84.7%	97	91.5%	60	83.3%	42	82.4%	33	89.2%	49	92.5%	112	80.6%	21	95.5%	464	86.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

▼「年に数件、あり」「年に1件程度、あり」「数年に1件程度、あり」を合算し、「あり」として集計

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
あり	9	15.3%	9	8.5%	10	13.9%	9	17.6%	4	10.8%	4	7.5%	27	19.4%	1	4.5%	73	13.5%
なし	50	84.7%	97	91.5%	60	83.3%	42	82.4%	33	89.2%	49	92.5%	112	80.6%	21	95.5%	464	86.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

14. ペット飼育に関連して問題となった動物を選択ください。【複数選択可】

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
犬	22	37.3%	45	42.5%	18	25.0%	20	39.2%	14	37.8%	17	32.1%	55	39.6%	1	4.5%	192	35.6%
猫	31	52.5%	42	39.6%	41	56.9%	26	51.0%	22	59.5%	27	50.9%	71	51.1%	11	50.0%	271	50.3%
鳥類	4	6.8%	2	1.9%	1	1.4%	1	2.0%	0	0.0%	1	1.9%	11	7.9%	0	0.0%	20	3.7%
魚類(金魚・メダカ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
爬虫類(亀・ヘビ)	2	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	4	0.7%
その他	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	2	3.9%	4	10.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	1.7%
無回答	1	1.7%	12	11.3%	6	8.3%	5	9.8%	0	0.0%	3	5.7%	8	5.8%	1	4.5%	36	6.7%

\*割合は本調査の地域別回答者数(冒頭の表参照)に占める割合を示している。

15-1. 現在担当している在宅療養者（外来含む）は何人ですか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
0人	10	16.9%	30	28.3%	11	15.3%	4	7.8%	9	24.3%	11	20.8%	10	7.2%	13	59.1%	98	18.2%
1～10人	1	1.7%	10	9.4%	11	15.3%	4	7.8%	4	10.8%	14	26.4%	23	16.5%	5	22.7%	72	13.4%
11人～30人	13	22.0%	16	15.1%	15	20.8%	18	35.3%	9	24.3%	7	13.2%	29	20.9%	1	4.5%	108	20.0%
31人～50人	20	33.9%	12	11.3%	12	16.7%	19	37.3%	10	27.0%	7	13.2%	47	33.8%	1	4.5%	128	23.7%
51人以上	4	6.8%	8	7.5%	10	13.9%	1	2.0%	1	2.7%	8	15.1%	19	13.7%	1	4.5%	52	9.6%
無回答	11	18.6%	30	28.3%	13	18.1%	5	9.8%	4	10.8%	6	11.3%	11	7.9%	1	4.5%	81	15.0%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

15-2. そのうちペットを飼育しているのは何人ですか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
0人/不明	23	39.0%	44	41.5%	30	41.7%	11	21.6%	14	37.8%	26	49.1%	48	34.5%	18	81.8%	214	39.7%
1～5人	20	33.9%	26	24.5%	20	27.8%	27	52.9%	13	35.1%	14	26.4%	53	38.1%	3	13.6%	176	32.7%
6人～10人	7	11.9%	3	2.8%	6	8.3%	6	11.8%	5	13.5%	5	9.4%	24	17.3%	0	0.0%	56	10.4%
11人～20人	2	3.4%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.8%	5	3.6%	0	0.0%	12	2.2%
21人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	3	0.6%
無回答	7	11.9%	33	31.1%	13	18.1%	7	13.7%	4	10.8%	6	11.3%	7	5.0%	1	4.5%	78	14.5%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

16. 現在担当している在宅療養者（外来含む）で、ペット飼育に関して問題となっている方は何人いますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
0人/不明	38	64.4%	65	61.3%	46	63.9%	33	64.7%	25	67.6%	44	83.0%	100	71.9%	21	95.5%	372	69.0%
1～5人	11	18.6%	11	10.4%	10	13.9%	11	21.6%	8	21.6%	3	5.7%	29	20.9%	0	0.0%	83	15.4%
6人～10人	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
11人～20人	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
21人以上	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
無回答	10	16.9%	29	27.4%	14	19.4%	6	11.8%	4	10.8%	6	11.3%	10	7.2%	1	4.5%	80	14.8%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

17. 現在担当している在宅療養者(外来含む)で、将来ペット飼育に関して問題になりそうな方は何人いますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
0人/不明	40	67.8%	58	54.7%	46	63.9%	30	58.8%	21	56.8%	43	81.1%	78	56.1%	20	90.9%	336	62.3%
1～5人	13	22.0%	20	18.9%	13	18.1%	14	27.5%	11	29.7%	5	9.4%	51	36.7%	2	9.1%	129	23.9%
6人～10人	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
11人～20人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
21人以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	10.2%	28	26.4%	12	16.7%	7	13.7%	4	10.8%	5	9.4%	10	7.2%	0	0.0%	72	13.4%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

18. 支援する上で、本人または支援者間（家族含む）で将来のペットの飼育について話し合うことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	12	20.3%	28	26.4%	19	26.4%	18	35.3%	7	18.9%	8	15.1%	45	32.4%	3	13.6%	140	26.0%
ない	47	79.7%	78	73.6%	48	66.7%	33	64.7%	30	81.1%	45	84.9%	94	67.6%	19	86.4%	394	73.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	5	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.9%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

19. 支援を検討するうえで、本人または支援者間（家族含む）において災害時のペットの飼育について話し合うことはありますか。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ある	4	6.8%	16	15.1%	14	19.4%	8	15.7%	4	10.8%	7	13.2%	17	12.2%	0	0.0%	70	13.0%
ない	54	91.5%	90	84.9%	55	76.4%	43	84.3%	33	89.2%	46	86.8%	122	87.8%	22	100.0%	465	86.3%
無回答	1	1.7%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.7%
合計	59	100%	106	100%	72	100%	51	100%	37	100%	53	100%	139	100%	22	100%	539	100%

20. ペット飼育について相談を受けて困った時、どこへ相談しますか。【複数選択可】

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*	回答数	割合*
市町村役場	30	50.8%	47	44.3%	21	29.2%	14	27.5%	11	29.7%	30	56.6%	47	33.8%	19	86.4%	219	40.6%
地域包括支援センター	20	33.9%	27	25.5%	27	37.5%	40	78.4%	26	70.3%	19	35.8%	40	28.8%	12	54.5%	211	39.1%
社会福祉協議会	6	10.2%	10	9.4%	17	23.6%	4	7.8%	1	2.7%	6	11.3%	7	5.0%	1	4.5%	52	9.6%
保健所	14	23.7%	34	32.1%	29	40.3%	16	31.4%	8	21.6%	20	37.7%	54	38.8%	2	9.1%	177	32.8%
医療機関の相談室等	0	0.0%	7	6.6%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.6%	0	0.0%	13	2.4%
ケアマネジャー	19	32.2%	24	22.6%	10	13.9%	5	9.8%	15	40.5%	18	34.0%	26	18.7%	7	31.8%	124	23.0%
動物病院	2	3.4%	9	8.5%	4	5.6%	7	13.7%	2	5.4%	4	7.5%	6	4.3%	0	0.0%	34	6.3%
動物愛護センター	8	13.6%	19	17.9%	14	19.4%	12	23.5%	2	5.4%	5	9.4%	12	8.6%	2	9.1%	74	13.7%
同僚	5	8.5%	12	11.3%	4	5.6%	8	15.7%	6	16.2%	6	11.3%	28	20.1%	6	27.3%	75	13.9%
民生児童委員	2	3.4%	3	2.8%	3	4.2%	2	3.9%	1	2.7%	6	11.3%	3	2.2%	3	13.6%	23	4.3%
ボランティア(動物愛護団体含む)	3	5.1%	15	14.2%	10	13.9%	13	25.5%	0	0.0%	6	11.3%	12	8.6%	0	0.0%	59	10.9%
近隣住民	2	3.4%	10	9.4%	2	2.8%	2	3.9%	2	5.4%	4	7.5%	2	1.4%	5	22.7%	29	5.4%
相談先がわからない	11	18.6%	26	24.5%	13	18.1%	1	2.0%	2	5.4%	6	11.3%	32	23.0%	2	9.1%	93	17.3%
その他	1	1.7%	3	2.8%	1	1.4%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	5.0%	2	9.1%	15	2.8%

\*割合は本調査の地域別回答者数（冒頭の表参照）に占める割合を示している。

◆ペット飼育が、在宅医療・介護においてメリットとなった好事例があれば記載ください。

⇒自由記載形式の設問の回答内容は国診協ホームページに掲載しています

◆在宅療養者のペット飼育に関する問題で、心に残る事例やお気づきの点、お考えについて記載ください。

⇒自由記載形式の設問の回答内容は国診協ホームページに掲載しています

## 2. 地域診断アンケート【ケアマネジャー抽出版】

※職種が「介護支援専門員(ケアマネジャー)」である方で、現在担当している在宅療養者数が1名以上である方のみに限定した集計

◆ご回答いただきご自身についてお答えください。

### ・所属地域

選択肢	回答数	割合
青森県	16	12.0%
静岡県	9	6.8%
富山県	12	9.0%
岐阜県	25	18.8%
鳥取県	8	6.0%
島根県	9	6.8%
香川県	52	39.1%
大分県	2	1.5%
合計	133	100%

### ・年齢

選択肢	回答数	割合
20歳代	0	0.0%
30歳代	5	3.8%
40歳代	31	23.3%
50歳代	54	40.6%
60歳以上	43	32.3%
合計	133	100%

### ・性別

選択肢	回答数	割合
男性	16	12.0%
女性	115	86.5%
その他(答えたくない)	1	0.8%
無回答	1	0.8%
合計	133	100%

### ・現在の職種での経験年数

選択肢	回答数	割合
5年未満	20	15.0%
5年～10年	28	21.1%
10年～20年	55	41.4%
20年～30年	28	21.1%
30年以上	2	1.5%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

### ・ご自身はペットを飼育していますか？

選択肢	回答数	割合
はい	52	39.1%
いいえ	81	60.9%
合計	133	100%

### ・前問で「はい」の場合、飼育している動物の種類を教えてください。【複数選択可】

選択肢	回答数	割合*
犬	30	57.7%
猫	18	34.6%
その他 → 回答内容は別掲	16	30.8%

\*割合は本調査の全回答者数（52名）に占める割合を示している。

### ・ご自身は動物に対してアレルギーはありますか？ (目のかゆみや鼻炎、皮膚炎等の症状の有無)

選択肢	回答数	割合
はい	22	16.5%
いいえ	111	83.5%
合計	133	100%

◆在宅療養者を支援する上で、これまで経験したペット飼育に関わる問題についてお答えください。

1. ペット飼育に伴う療養環境の衛生上の問題（悪臭、不衛生など）事例を経験したことはありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	19	14.3%
年間1件程度、あり	28	21.1%
数年に1件程度、あり	48	36.1%
なし	38	28.6%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

2. 糞尿等による近隣とのトラブル事例を経験したことはありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	3	2.3%
年間1件程度、あり	12	9.0%
数年に1件程度、あり	28	21.1%
なし	90	67.7%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

3. 多頭飼育や虐待など不適切飼育事例を経験したことはありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	2	1.5%
年間1件程度、あり	13	9.8%
数年に1件程度、あり	32	24.1%
なし	86	64.7%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

4. ペット由来の感染事例を経験したことはありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	0	0.0%
年間1件程度、あり	1	0.8%
数年に1件程度、あり	6	4.5%
なし	126	94.7%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

5. ペットの予防接種や避妊などの未実施事例で困ったことはありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	3	2.3%
年間1件程度、あり	9	6.8%
数年に1件程度、あり	28	21.1%
なし	93	69.9%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

6. 入所や入院に伴うペットの預け先の相談を受けたことはありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	0	0.0%
年間1件程度、あり	8	6.0%
数年に1件程度、あり	22	16.5%
なし	103	77.4%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

7. ペット飼育を理由にした介入（治療やケア含む）や入院の拒否事例はありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	2	1.5%
年間1件程度、あり	9	6.8%
数年に1件程度、あり	25	18.8%
なし	97	72.9%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

8. ペット飼育を理由にしたショートステイや入所の拒否事例はありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	2	1.5%
年間1件程度、あり	6	4.5%
数年に1件程度、あり	24	18.0%
なし	101	75.9%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

9. 同居家族の居ない飼い主の入所や入院、死去による残されたペットの処遇に困ったことはありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	1	0.8%
年間1件程度、あり	2	1.5%
数年に1件程度、あり	18	13.5%
なし	112	84.2%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

10. ペットによる訪問サービス提供困難事例（支援者への威嚇や攻撃で脅威を感じるなど）はありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	1	0.8%
年間1件程度、あり	7	5.3%
数年に1件程度、あり	33	24.8%
なし	92	69.2%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

11. 在宅サービス提供時に、噛みつきなどのトラブル事例はありましたか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	1	0.8%
年間1件程度、あり	3	2.3%
数年に1件程度、あり	27	20.3%
なし	102	76.7%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

12. ペット飼育に伴う福祉用具や医療機器等の破損事例はありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	1	0.8%
年間1件程度、あり	3	2.3%
数年に1件程度、あり	9	6.8%
なし	120	90.2%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

13. 在宅サービスを提供する上で、ペットの世話まで行うこととなった事例はありますか。

選択肢	回答数	割合
年に数件、あり	2	1.5%
年間1件程度、あり	4	3.0%
数年に1件程度、あり	21	15.8%
なし	106	79.7%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

14. ペット飼育に関連して問題となった動物を選択ください。【複数選択可】

選択肢	回答数	割合*
犬	54	40.6%
猫	73	54.9%
鳥類	5	3.8%
魚類（金魚・メダカ）	0	0.0%
爬虫類（亀・ヘビ）	1	0.8%
その他⇒回答内容は別掲	6	4.5%
無回答	8	6.0%

\*割合は本調査の全回答者数（133名）に占める割合を示している。

15-1. 現在担当している在宅療養者（外来含む）は何人ですか。

人数カテゴリ	回答数	割合
0人	0	0.0%
1～10人	4	3.0%
11人～30人	44	33.1%
31人～50人	80	60.2%
51人以上	5	3.8%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

15-2. そのうちペットを飼育しているのは何人ですか。

人数	回答数	割合
0人／不明	21	15.8%
1人以上	108	81.2%
無回答	4	3.0%
合計	133	100%

▼人数カテゴリごとの集計

人数カテゴリ	回答数	割合
0人／不明	21	15.8%
1～5人	73	54.9%
6人～10人	27	20.3%
11人～20人	7	5.3%
21人以上	1	0.8%
無回答	4	3.0%
合計	133	100%

16. 現在担当している在宅療養者（外来含む）で、ペット飼育に関して問題となっている方は何人いますか。

人数	回答数	割合
0人／不明	99	74.4%
1人以上	33	24.8%
無回答	1	0.8%
合計	133	100%

▼人数カテゴリごとの集計

人数カテゴリ	回答数	割合
0人／不明	99	74.4%
1～5人	31	23.3%
6人～10人	2	1.5%
11人～20人	0	0.0%
21人以上	0	0.0%
無回答	1	0.8%
合計	133	100%

17. 現在担当している在宅療養者（外来含む）で、将来ペット飼育に関して問題になりそうな方は何人いますか。

人数	回答数	割合
0人／不明	80	60.2%
1人以上	53	39.8%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

▼人数カテゴリごとの集計

人数カテゴリ	回答数	割合
0人／不明	80	60.2%
1～5人	53	39.8%
6人～10人	0	0.0%
11人～20人	0	0.0%
21人以上	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

18. 支援する上で、本人または支援者間（家族含む）で将来のペットの飼育について話合うことはありますか。

選択肢	回答数	割合
ある	51	38.3%
ない	82	61.7%
無回答	0	0.0%
合計	133	100%

19. 支援を検討するうえで、本人または支援者間（家族含む）において災害時のペットの飼育について話合うことはありますか。

選択肢	回答数	割合
ある	17	12.8%
ない	115	86.5%
無回答	1	0.8%
合計	133	100%

20. ペット飼育について相談を受けて困った時、どこへ相談しますか。【複数選択可】

選択肢	回答数	割合*
市町村役場	46	34.6%
地域包括支援センター	74	55.6%
社会福祉協議会	4	3.0%
保健所	36	27.1%
医療機関の相談室等	0	0.0%
ケアマネジャー	5	3.8%
動物病院	6	4.5%
動物愛護センター	20	15.0%
同僚	24	18.0%
民生児童委員	5	3.8%
ボランティア(動物愛護団体含む)	13	9.8%
近隣住民	12	9.0%
相談先がわからない	22	16.5%
その他⇒回答内容は別掲	0	0.0%

\*割合は本調査の全回答者数（133名）に占める割合を示している。

◆ペット飼育が、在宅医療・介護においてメリットとなった好事例があれば記載ください。

⇒自由記載形式の設問の回答内容は国診協ホームページに掲載しています

◆在宅療養者のペット飼育に関する問題で、心に残る事例やお気づきの点、お考えについて記載ください。

⇒自由記載形式の設問の回答内容は国診協ホームページに掲載しています

### 3. 実務者研修会参加者アンケート

1.あなたの所属地域を教えてください。

選択肢	回答数	割合
青森県	2	8.3%
静岡県	4	16.7%
富山県	3	12.5%
岐阜県	4	16.7%
鳥取県	3	12.5%
島根県	2	8.3%
香川県	4	16.7%
大分県	2	8.3%
合計	24	100.0%

2.あなたの立場を教えてください。

選択肢	回答数	割合
行政関係	3	12.5%
動物愛護関係	2	8.3%
保健・医療・介護・福祉関係	19	79.2%
合計	24	100.0%

3.昨年度調査報告は理解できましたか？

選択肢	回答数	割合
十分理解できた	22	91.7%
やや理解できた	2	8.3%
あまり理解できなかった	0	0.0%
全く理解できなかった	0	0.0%
合計	24	100.0%

4.事業説明は理解できましたか？

選択肢	回答数	割合
十分理解できた	23	95.8%
やや理解できた	1	4.2%
あまり理解できなかった	0	0.0%
全く理解できなかった	0	0.0%
合計	24	100.0%

5.運営方法の解説は理解できましたか？

選択肢	回答数	割合
十分理解できた	22	91.7%
やや理解できた	2	8.3%
あまり理解できなかった	0	0.0%
全く理解できなかった	0	0.0%
合計	24	100.0%

6.運営方法の解説は理解できましたか？

選択肢	回答数	割合
十分理解できた	21	87.5%
やや理解できた	3	12.5%
あまり理解できなかった	0	0.0%
全く理解できなかった	0	0.0%
合計	24	100.0%

7.研修会を受けて、自分の地域で研修会が開催できそう  
だと思えましたか？

選択肢	回答数	割合
十分思えた	15	62.5%
やや思えた	9	37.5%
あまり思えなかった	0	0.0%
全く思えない	0	0.0%
合計	24	100.0%

8.本実務者研修会の全体を通じて満足いく研修会でした  
か？

選択肢	回答数	割合
大変満足	23	95.8%
やや満足	1	4.2%
やや不満足	0	0.0%
大変不満足	0	0.0%
合計	24	100.0%

## 4. 各連携団体で実施した研修会参加者アンケート

### ・地域別回答数

地域	回答数	割合
青森県・三戸町	39	6.3%
静岡県・浜松市天竜区	103	16.6%
富山県・上市町	101	16.3%
岐阜県・郡上市	72	11.6%
鳥取県・日南町	63	10.2%
島根県・飯南町	94	15.2%
香川県・三豊市・観音寺市	81	13.1%
大分県・姫島村	66	10.7%
合計	619	100%

### 【研修前】

#### 1.何回目の参加ですか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1回目	37	94.9%	84	81.6%	87	86.1%	38	52.8%	42	66.7%	88	93.6%	51	63.0%	38	57.6%	465	75.1%
2回目	2	5.1%	14	13.6%	9	8.9%	22	30.6%	16	25.4%	6	6.4%	18	22.2%	19	28.8%	106	17.1%
3回目	0	0.0%	5	4.9%	2	2.0%	12	16.7%	5	7.9%	0	0.0%	12	14.8%	9	13.6%	45	7.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.5%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

#### 2.あなたの立場を教えてください。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
行政関係	9	23.1%	25	24.3%	14	13.9%	4	5.6%	22	34.9%	36	38.3%	25	30.9%	22	33.3%	157	25.4%
動物愛護関係	0	0.0%	6	5.8%	0	0.0%	16	22.2%	5	7.9%	6	6.4%	2	2.5%	0	0.0%	35	5.7%
保健・医療・介護・福祉関係者	30	76.9%	72	69.9%	85	84.2%	51	70.8%	36	57.1%	51	54.3%	54	66.7%	3	4.5%	382	61.7%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	25	37.9%	25	4.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	16	24.2%	20	3.2%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

#### 3.日々の活動の中でペット飼育に関する問題を認識したことがありますか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	27	69.2%	69	67.0%	61	60.4%	63	87.5%	58	92.1%	62	66.0%	70	86.4%	56	84.8%	466	75.3%
いいえ	12	30.8%	34	33.0%	38	37.6%	9	12.5%	5	7.9%	32	34.0%	11	13.6%	10	15.2%	151	24.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

#### 4.ペットに関する課題に直面した際に相談できる自分と異なる立場の機関や人がいますか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	16	41.0%	51	49.5%	31	30.7%	54	75.0%	42	107.7%	41	39.8%	35	34.7%	20	27.8%	290	46.8%
いいえ	23	59.0%	52	50.5%	68	67.3%	18	25.0%	21	53.8%	51	49.5%	46	45.5%	46	63.9%	325	52.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.6%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

5.地域の中でペットに関する問題についてみんなで取り組む重要性はどの程度あると思いますか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
大変重要	13	33.3%	54	52.4%	40	39.6%	46	63.9%	40	63.5%	43	45.7%	36	44.4%	31	47.0%	303	48.9%
やや重要	23	59.0%	43	41.7%	49	48.5%	24	33.3%	23	36.5%	41	43.6%	43	53.1%	33	50.0%	279	45.1%
あまり重要ではない	3	7.7%	6	5.8%	9	8.9%	1	1.4%	0	0.0%	9	9.6%	2	2.5%	1	1.5%	31	5.0%
全く重要ではない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	1	1.5%	2	0.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	3	3.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.6%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

【研修後】

1.研修会の内容は理解できましたか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
十分理解した	34	87.2%	74	71.8%	70	69.3%	56	77.8%	43	68.3%	60	63.8%	58	71.6%	39	59.1%	434	70.1%
やや理解した	5	12.8%	27	26.2%	25	24.8%	16	22.2%	18	28.6%	33	35.1%	19	23.5%	25	37.9%	168	27.1%
あまり理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
理解できなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	1.9%	6	5.9%	0	0.0%	2	3.2%	1	1.1%	4	4.9%	2	3.0%	17	2.7%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

2.研修会の満足度を教えてください。

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
大変満足した	33	84.6%	86	83.5%	57	56.4%	44	61.1%	40	63.5%	62	66.0%	57	70.4%	31	47.0%	410	66.2%
やや満足した	6	15.4%	15	14.6%	41	40.6%	28	38.9%	22	34.9%	30	31.9%	19	23.5%	31	47.0%	192	31.0%
やや不満足	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	1	0.2%
大変不満足	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	1.9%	3	3.0%	0	0.0%	1	1.6%	2	2.1%	5	6.2%	3	4.5%	16	2.6%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

3.ペットに関する課題に直面した際に相談できる人と顔見知りになりましたか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
はい	34	87.2%	85	82.5%	62	61.4%	69	95.8%	50	79.4%	71	75.5%	59	72.8%	43	65.2%	473	76.4%
いいえ	5	12.8%	10	9.7%	27	26.7%	3	4.2%	8	12.7%	17	18.1%	14	17.3%	19	28.8%	103	16.6%
無回答	0	0.0%	8	7.8%	12	11.9%	0	0.0%	5	7.9%	6	6.4%	8	9.9%	4	6.1%	43	6.9%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

4.地域の中でペットに関する問題についてみんなで取り組む重要性はどの程度あると思いますか？

選択肢	三戸町		浜松市天竜区		上市町		郡上市		日南町		飯南町		三豊・観音寺市		姫島村		全体	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
大変重要	32	82.1%	83	80.6%	65	64.4%	59	81.9%	49	77.8%	70	74.5%	60	74.1%	45	68.2%	463	74.8%
やや重要	7	17.9%	17	16.5%	33	32.7%	13	18.1%	13	20.6%	24	25.5%	17	21.0%	18	27.3%	142	22.9%
あまり重要ではない	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	2	0.3%
全く重要ではない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	1.9%	3	3.0%	0	0.0%	1	1.6%	0	0.0%	4	4.9%	2	3.0%	12	1.9%
合計	39	100%	103	100%	101	100%	72	100%	63	100%	94	100%	81	100%	66	100%	619	100%

5.その他ご意見をご記入ください（今後さらに知りたい内容など）

⇒自由記載形式の設問の回答内容は国診協ホームページに掲載しています

# 2) 本事業で作成した各種教材等

## 1. 研修会開催の手引き

**1. はじめに**  
本書は、地域で人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修会を開催するための手順と考え方をまとめた手引き書です。

**2. 研修会の意義**  
ペットフード協会の報告で単身高齢者(60~70代)のペット飼育率は、犬で男性 3.6%・女性 5.2%、猫は男性 4.5%・女性約 8.7%と推計されています。  
東京都長寿医療センターからは、犬の飼育を通じた運動習慣や社会とのつながりにより認知症の発症リスクが低下する、ペットの飼育は介護給付費を約半額に抑制すると報告されています。  
ペットの位置付けは従来の単なる愛玩動物から、家族の一員あるいは伴侶としての位置付けへと変化しその存在の意味が変わってきています。  
一方、飼育に基づく衛生課題や介護者の訪問困難、飼育を理由とした入院拒否、飼い主死亡時のペットの処遇など、動物飼育に関わる課題も同時に発生しています。しかし医療介護の支援者においてペットへの対応は十分議論されておらず、問題の発生時には心ある担当者が単独で対応しているのが現状です。  
我々が行った調査においても医療介護の現場で問題として認識し困難を感じていることが明らかになりました。単身高齢者が増加する我が国においてこの問題は拡大傾向にあると考えられます。  
本事業の最終的な目的は、ペットを飼育する高齢者等の健康やQOLの向上です。ペットがもたらす様々な効果を享受するためにも、動物飼育に起因する課題を地域ぐるみで解決することを目指しています。

**3. 体制整備の実施**  
まず運営体制を整えることが重要です。2024年度の国保診療施設と小規模自治体の地域包括支援センターを対象とした調査では、ペットに関する諸問題について多くの施設で相談先が不明であったことから、動物愛護関係者との連絡調整体制の構築に課題がある可能性が考えられます。  
下の回は連絡体制の発展段階についての模式図です。最初は Zero: 探索している状況だと想定し本研修会を通じて A→B→C→D と発展できることを期待しています。

**D** 連携ルート確立

**C** 協働できる

**B** 相互理解が進む

**A** 知り合う

Zero 探索

◎動物愛護関係者との連携における発展段階

Zero: 相談先不明で連携を構築している段階


A: 相互に知り合う段階

B: 相互理解が進む段階  
(相互に大事にしているところが理解される)

C: 実際に協働できる段階

D: 相互に相談しあうルートが確立する段階

2



# 2025年

## 人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修会開催の手引き

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会  
JNICA - Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association

1

- 運営体制整備のポイント:
  - Zeroの段階には、ペット問題を福祉課題と認識されていない段階を含みます
  - 中核となるメンバーで共通認識を持つことから始めましょう
  - 多くの地域がZeroの段階でAを目指している状況と想定しています
  - はじめに、地域包括支援センター、市町村社会福祉協議会に声掛けしてみよう
  - 地域の現状を把握する中で動物愛護ボランティアやNPO、獣医師や獣医師会、保健所へ声掛けてキーパーソンが明らかになる場合があります。
  - 保健所や県・市町村行政では担当課が不明確の場合があります
  - 病院としてペットの諸問題による医療提供の課題があり動物愛護推進委員等と一緒にこの問題に取り組みたい旨、保健所を介して紹介してもらう手法も想定されます
  - 地域によっては動物愛護推進委員や動物愛護推進協議会が県によって設置されている場合があります。

#### 4. 研修プログラムについて

運営体制が整えば地域の状況に応じて研修会の内容を検討します。標準的な研修プログラムと教材を用意しておりますので以下に説明します。なお標準的なプログラムを地域の実情に合わせて内容を改良してご使用いただくことも問題ありません。

なお、標準的な研修プログラムは基本的に下記の流れで進みます。

○研修時間：2時間

- ①導入
- ②アイスブレイキング(自己紹介)
- ③インアプット:各種教材(各種プログラムごとに標準教材が用意されています。)
- ④グループワーク:解決案発表
- ⑤まとめ
- ⑥振り返りと意見の共有
- ⑦クロージング

#### ●単独開催プログラム(3種類)

参加者は都度入れ替わりを想定したプログラムです。内容の異なる3種類のプログラムの中から地域の実情に合わせて選択してください。いずれのプログラムも【問題の共有と活動のきっかけ作り】を目標としています。

- プログラム名:1回目①、1回目②、1回目③
- 教材:1回目①:[2]昨年度の調査結果概要(5分)、[3]飼育のメリットと課題(10分)  
 1回目②:[2]昨年度の調査結果概要(5分)、地域の取り組み(10分)※  
 ※地域のボランティアや行政等の活動や制度などの紹介(教材の用意はなく各実施地域で作成してください)
- 1回目③:[2]昨年度の調査結果概要(5分)、[4]畜産福祉の現状(10分)、[5]動物福祉の現状(10分)

#### ●シリーズ開催プログラム

先述の単独開催プログラムのいずれかを1回目として3回シリーズで開催することを想定したプログラムです。1回目は【問題の共有と活動のきっかけ作り】、2回目は【顔の見える関係づくり】、3回目【共同で活動してみよう】というテーマを設定しています。

プログラム名:1回目①から③のいずれか、2回目、3回目

教材:1回目:前項参照

2回目:[6]不妊去勢のおこれ(10分)、

[7]動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者(10分)

3回目:[8]事例提示(5分)

#### 5. 教材一覧

教材番号	教材名	構成・要約
1	趣意説明	開催の意義と目的を解説
2	昨年度の調査結果概要(5分)	昨年度の調査結果について解説。本年度の研修の出席者向けに解説します。多くの小規模自治体では対応に苦慮することがあり、必死の覚悟も感じているところある担当者や関係の対応に課題を感じて何となくしている実情がある。
3	飼育のメリットと課題(10分)	県民飼育推進推進センターの研修受講者から飼育者への意識調査結果(スグが40%近いこと)やペット飼育者は飼育者が年々増加していること、飼育者の年齢層が若くなる傾向があること、一方でペットを飼育している人、飼育者やペットの飼育が問題になっている。
4	高齢福祉の現状(10分)	ペットによる介入阻害や養子入里入居の阻害の現状。全国的に見ても高齢者の増加は減少傾向にあること、高齢者の増加は減少傾向にあること、高齢者の増加は減少傾向にあること、高齢者の増加は減少傾向にあること。
5	動物福祉の現状(10分)	動物福祉の現状(10分)を解説。動物福祉の現状(10分)を解説。動物福祉の現状(10分)を解説。動物福祉の現状(10分)を解説。
6	不妊去勢のおこれ(10分)	動物福祉の現状(10分)を解説。動物福祉の現状(10分)を解説。動物福祉の現状(10分)を解説。動物福祉の現状(10分)を解説。
7	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者(10分)	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の現状を解説。動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の現状を解説。動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の現状を解説。動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の現状を解説。
8	事例提示(5分)	事例提示(5分)を解説。事例提示(5分)を解説。事例提示(5分)を解説。事例提示(5分)を解説。
9	自己紹介と各種お問い合わせ	自己紹介のアイディアシートと各プログラムの問い合わせ
10	全体確認部材	全体確認部材(5分)を解説。全体確認部材(5分)を解説。全体確認部材(5分)を解説。全体確認部材(5分)を解説。

#### 6. 最後に

本書では、研修会開催に向けてプログラムの内容を中心に解説しました。研修会開催に向けて地域の状況によっては、さらに必要な準備は増えると思われれます。体制整備が大変重要であると書きます。

これを機に地域資源の把握と関係者の顔の見える関係作りを通じて、本課題について同じ一歩を踏み出せる地域づくりが役に立てていただければ幸いです。

## 2. 研修会プログラム

### 1回目①（参加者が毎回異なる想定でのプログラム1）

#### タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

＜狙い/成果＞ 問題の共有と活動のきっかけ作り				
＜対象者/人数＞ 医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度		＜時間/場所＞ 13時30分～15時30分まで（2時間）		
時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定	
1 13時30分～13時35分 (5分間)	導入： 趣旨を理解する	・【1】趣旨説明 (主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G・5人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に	
2 13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	表面のみ記入 裏面は研修会後記入と案内	
3 13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング： 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント：隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介) すでに顔見知りの場合短縮可	【標準資料提示】 プロジェクター	
4 13時50分～14時05分 (15分間)	インプット：体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域で起きていること> 【2】昨年度の調査結果概要（5分） 【3】飼育のメリットと課題（10分）	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料	
5 14時05分～14時55分 (50分)	解決策発散	<安心してペットと過ごすには何が必要？> ・困った状態を見かけたことがありますか？ ・通常時から関わりながら出来ることは？	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン	
6 14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン	
7 15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク	
8 15時20分～15時30分 (10分)	クロージング	・閉会挨拶 ・アンケート記入		

注：G=グループ 【】=教材番号

### 1回目②（参加者が毎回異なる想定でのプログラム2）

#### タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

＜狙い/成果＞ 問題の共有と活動のきっかけ作り				
＜対象者/人数＞ 医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度		＜時間/場所＞ 13時30分～15時30分まで（2時間）		
時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定	
1 13時30分～13時35分 (5分間)	導入： 趣旨を理解する	・【1】趣旨説明 (主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G・5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に	
2 13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	表面のみ記入 裏面は研修会後記入と案内	
3 13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング： 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント：隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介)	【標準資料提示】 プロジェクター	
4 13時50分～14時05分 (15分間)	インプット：体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域で起きていること> 【2】昨年度の調査結果概要（5分） ○地域の取り組み（10分）	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料	
5 14時05分～14時55分 (50分)	解決策発散	<安心してペットと過ごすには何が必要？> ・困った状態を見かけたことがありますか？ ・通常時から関わりながら出来ることは？	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン	
6 14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン	
7 15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク	
8 15時20分～15時30分 (10分)	クロージング	・閉会挨拶 ・アンケート記入		

注：G=グループ

1回目③（参加者が毎回異なる想定でのプログラム3）

タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

＜狙い/成果＞ 問題の共有と活動のきっかけ作り				
＜対象者/人数＞ 医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度		＜時間/場所＞ 13時30分～15時30分まで（2時間）		
時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定	
1 13時30分～13時35分 (5分間)	導入： 趣旨を理解する	・【1】 趣旨説明 (主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に	
2 13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	【標準資料提示】 プロジェクター	
3 13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング： 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント：隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介) すでに顔見知りの場合短縮可	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料	
4 13時50分～14時05分 (15分間)	インプット：体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域で起きていること> 【2】 昨年度の調査結果概要 (5分) 【4】 医療福祉の現状 (10分) 【5】 動物福祉の現状 (10分)	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン	
5 14時05分～14時55分 (50分)	解決策発散	<安心してペットと過ごすには何が必要?> ・困った状態を見かけたことがありますか? ・通常時から関わりながら出来ることは?	1Gのみ マイク	
6 14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン	
7 15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク	

第2回目

タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

＜狙い/成果＞ 顔の見える関係づくり				
＜対象者/人数＞ 医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度		＜時間/場所＞ 13時30分～15時30分まで（2時間）		
時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定	
1 13時30分～13時35分 (5分間)	導入： 趣旨を理解する	・【1】 趣旨説明 (主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に	
2 13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	【標準資料提示】 プロジェクター	
3 13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング： 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント：隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介)	【標準資料提示】 プロジェクター	
4 13時50分～14時05分 (15分間)	インプット：体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<前回の振り返りとこれから> 前回の振り返り (5分) 【6】 不妊去勢のあれこれ (10分) 【7】 動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者 (10分)	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料	
5 14時05分～14時55分 (50分)	解決策発散	<スライドを見てどう思ったかを話し合う。> ・不適切飼育の背景は? ・普段できること・緊急時できること。	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン	
6 14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン	
7 15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク	

### 第3回目

## タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

＜狙い/成果＞ 共同で活動してみよう				
＜対象者/人数＞ 医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度		＜時間/場所＞ 13時30分～15時30分まで（2時間）		
	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
1	13時30分～13時35分 (5分間)	導入： 趣旨を理解する	・趣旨説明 (主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に
2	13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	【標準資料提示】 プロジェクト
3	13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング： 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント：隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介)	【標準資料提示】 プロジェクト
4	13時50分～14時05分 (15分間)	インプット：体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域社会との接点を維持することが再発防止に効果的> 前回の振り返り (5分) 【8】事例提示 (5分)	【標準資料提示】 プロジェクト 配布資料:使える資源資料
5	14時05分～14時55分 (50分)	解決策発散	<事例検討> ・この方の背景や思いについて ・行政 動物愛護関係者 医療福祉関係者、住民、家族それぞれの役割	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン
6	14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン
7	15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク
8	15時20分～15時30分 (10分)	クロージング	・閉会挨拶 ・アンケート記入	

注：G=グループ

## 研修会教材一覧

本事業のモデル活動(本編第3章：p12～54)においても下記の教材を使用しました。

次のページ以降に各教材の内容を掲載します。

教材番号	教材名	概要・意図
1	趣旨説明	開催の意義と目的を解説
2	2024年度の調査結果概要(5分)	昨年度(2024年度)の研究概要について解説して本年度の研修の位置づけを強化します。多くの小規模自治体では対応に苦慮することがあり、公的な制度も確立しておらず心ある担当者が問題の対応に孤軍奮闘して何とかしている実態がある。
3	飼育のメリットと課題(10分)	東京都健康長寿医療センターの研究結果から犬の飼育者で認知症発症リスクが40%低いことやペット飼育者は介護費が半分に抑制、さらに昨年のヒアリングからのエピソードで生活の張り合いになったり、退院に向けて意欲になったりする効果を示す。一方でペットを理由とした介入拒否や急な入院や入所でペットの処遇が問題になっている。
4	医療福祉の現状(10分)	ペットによる介入拒否や急な入院入所時の処遇の問題。 公的ルールで運営されている介護福祉の現場では本人のケアしかできない現状。
5	動物福祉の現状(10分)	財政的裏付けのないボランティアでできることは限られる。 善意で成り立っており予防が基本。飼い主へのケアがなければ、動物側の取り組みでは限界がある。
6	不妊去勢のあれこれ(10分)	殺処分ゼロの理念のもと譲渡会やTNRなどの取り組み紹介。 猫の繁殖力の高さや不妊去勢による頭数コントロールの大切さについて。
7	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者(10分)	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の増加を背景に、最初は適切に飼育できているが加齢とともに論理的思考力、判断や身体能力の低下に伴う不適切飼育になる可能性がある。 また孤独・孤立など社会的な背景や、精神疾患や障害の存在も踏まえた対応も必要となる可能性について解説。
8	事例提示(5分)	困難事例提示 (医療福祉関係者、動物愛護推進委員、獣医師会、ボランティアの役割)
9	自己紹介と各種問いスライド	自己紹介のアイディアスライドと各プログラムの問いスライド

3. 研修会教材1 趣旨説明



1



2



3



4



5



6

### 3. 研修会教材2 2024年度の調査結果概要



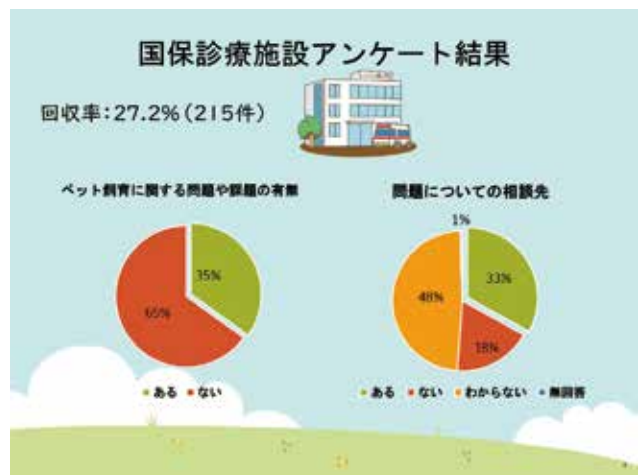
1



2



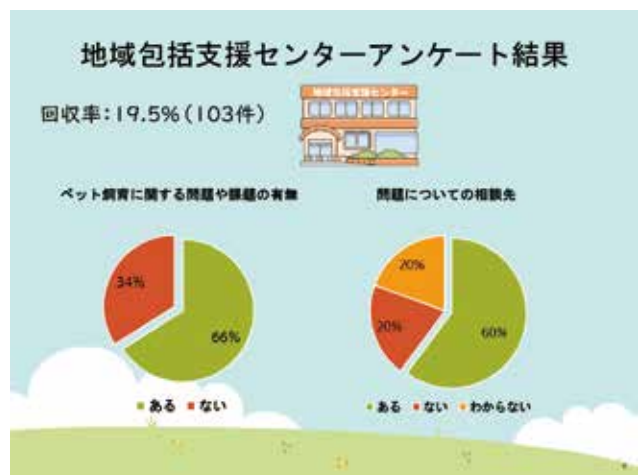
3



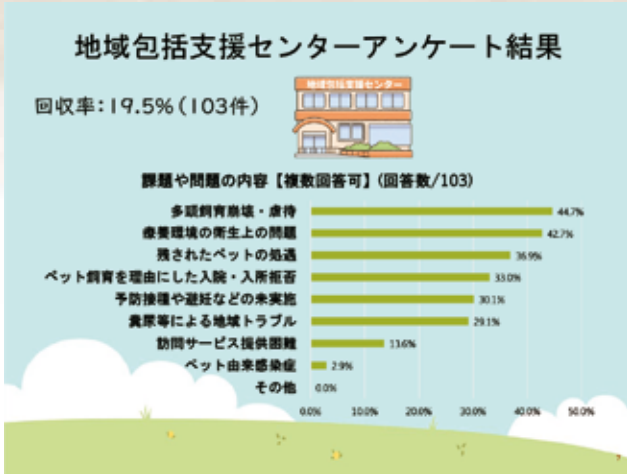
4



5



6



7

### ヒアリング

ペット飼育が高齢者の精神的な支えとなるケースが多く報告。ペットの存在がリハビリの意欲向上や、入院中の患者の笑顔を取り戻すきっかけとなる。

諸問題の発生過程においては、都市部、山間部問わず貧困や孤立、身体的精神的な障害や疾患の存在など複合的な要因があることが各地で指摘。

8

### ヒアリング

一方で相談先がわからない中、各地で心ある担当者が何とか対応しようと孤軍奮闘している。

9

### 考察

地域全体で関わる全ての人  
が関心を持って取り組む必要  
がある。

↓

2025年度  
人間と動物の医療福祉を  
豊かにするための研修事業

10

## 3. 研修会教材3 飼育のメリットと課題

### 飼育のメリットと課題

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業

・人と動物の共生センター・生活困窮者のペット飼育支援事業・災害対策  
・虐待等・人、動物、地域に与える多面的な対応プログラム  
・社会福祉士・動物福祉推進員研修会・動物福祉センター  
・動物福祉推進員研修会・動物福祉推進員研修会  
・ペット飼育の普及と動物福祉の向上

1

### 飼育のメリット

- 精神的支援・生活の質の向上
  - ・孤独やストレスの軽減
  - ・ペットが心の支えとなり、生活に希望をもたらす
  - ・日課の発生（餌やり・散歩など）で、生活リズムが整う

2

## 飼育のメリット

- ② 社会的つながりの創出
- ・ペットを通じて近隣住民と交流が生まれる
  - ・支援者や相談機関との関係構築のきっかけになる
  - ・孤立防止のきっかけ



3

## 飼育のメリット

- ③ ペット飼育が介護費の抑制に影響
- ・ペット飼育は、介護予防に一定の効果。
  - ・ペット非飼育者に比べて飼育者では介護費が約半額に抑制されている。
  - ・ペット飼育者では、利用する介護サービスの利用頻度が低いことや、軽度の介護サービスの利用に繋がっていることが考えられる。



4

## 「ペット飼育が介護費の抑制に影響」

高齢化の進展に伴う介護費の増大に対し、ペット飼育は介護予防効果のみならず介護給付費が約半額に抑制されることが初めて明らかに



地方独立行政法人東京高齢者福祉センター（改定）

5

## 飼育のメリット

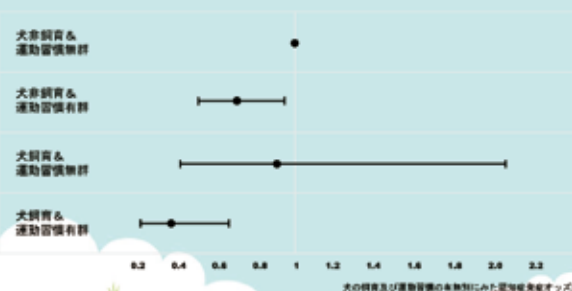
- ④ ペット飼育と認知症発症リスクの低下
- ・犬の飼育者では、非飼育者に比べて認知症が発症するリスクが40%低い。
  - ・犬飼育者のうち、運動習慣を有する人、社会的孤立状態にない人において、認知症発症リスクが低下。



6

## 「ペット飼育と認知症発症リスク」

犬の飼育を通じた運動習慣や社会との繋がりにより認知症の発症リスクが低下することが初めて明らかに



犬の飼育及び運動習慣の有無別にみた認知症発症オッズ比

地方独立行政法人東京高齢者福祉センター（改定）

7

## 課題

- ① 経済的負担
- ・フード・医療費が困難
  - ・ペットホテル費用が払えず入院断念等の事例



8

課題

- ② 多頭飼育と衛生問題
- ・繁殖制限（避妊去勢等）されず繁殖、頭数増加
  - ・衛生状態の悪化
  - ・訪問介護・看護の妨げに



9

課題

- ③ 医療・福祉施設の利用制限
- ・ペットを手放せず入所や入院を断念
  - ・ペットがいるために施設入所や入院を拒まれる
  - ・必要な支援の拒否に繋がる



10

課題

- ④ 孤立と多頭飼育の悪循環
- ・孤独から飼育依存→多頭化→環境悪化
  - ・家庭崩壊や虐待の状況に発展するケース



11

課題

- ⑤ 不十分な公的支援制度
- ・入院・介護施設入所時の、ペット受け皿不足
  - ・飼育困難時の里親制度の法的位置づけの弱さ
  - ・住宅・施設での飼育制限
  - ・介護・福祉制度との連携不足
  - ・動物福祉と人の福祉の制度的乖離



12

まとめ

【メリット】

- ・精神的支援
- ・生活リズム
- ・社会的接点
- ・認知症リスクの低下
- ・介護費の抑制

【課題】

- ・経済的負担
- ・衛生、環境問題
- ・施設利用制限
- ・公的支援制度の整備



13

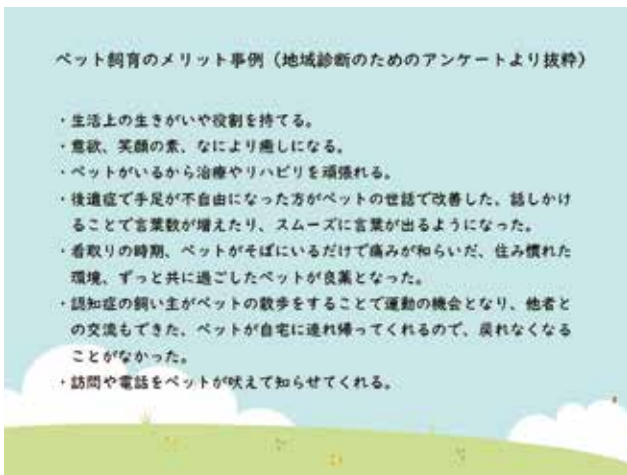
### 3. 研修会教材4 医療福祉の現状



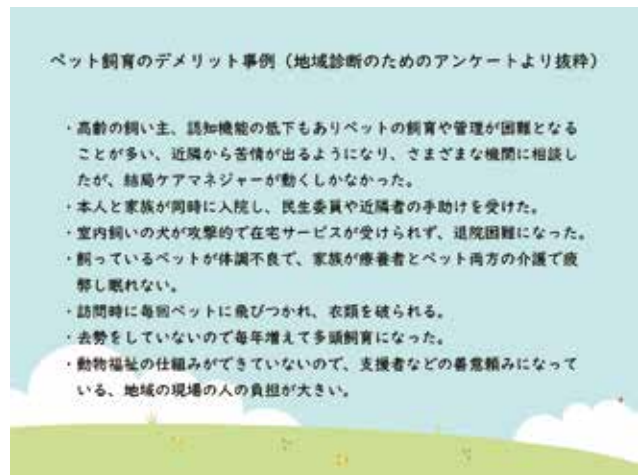
1



2



3



4



5



6

今後への提案（希望）

1. 地域包括ケアに『ペット支援』の視点を導入する  
地域包括支援センターや行政の福祉部門が、ペット支援のNPOや民間団体と連携する仕組みを整える。相談も包括的に受け止められる環境を作る。
2. 『ペット共生型』施設などの拡充  
介護と同時にペット飼育も支援できる、ペット共生が可能な高齢者施設を増やす。
3. 飼育への責任意識の向上、事前契約などの普及  
有事の対応は飼い主が自ら考えておくなど、意識の向上を呼び掛ける。ペット信託などの飼育引継ぎ契約などの普及に努める



7

まとめ

現場で目の当たりにした「ペットがいるから入院できない」という患者や利用者のひとこと、これは私たち医療・福祉側がこれまでに想定していなかった住民のニーズではないでしょうか。  
 現行の制度ではカバーしきれないため、地域連携型の支援が必要不可欠ではないかと考えます。私たち多職種が強みである『連携力』を駆使し、民間の支援との連携の構築にも努める必要があります。  
 『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう』ペットを含む生活環境の支援が求められます。



8

3. 研修会教材5 動物福祉の現状

動物福祉の現状

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



1

動物福祉の概要

定義：「動物が精神的・肉体的に充分健康で、幸福であり、環境とも調和していること」  
 （公益社団法人 日本動物福祉協会）

- 福祉の基本：
  - ①飢えと渇きからの自由
  - ②不快からの自由
  - ③痛み・障害・病気からの自由
  - ④恐怖や抑圧からの自由
  - ⑤正常な行動を表現する自由
- ペットの位置づけの変化  
飼育動物から「家族の一員」へ  
孤独や感しを提供する伴侶としての役割
- 動物福祉への意識向上  
社会的価値観の変化に伴う新たな課題と可能性



2

現状分析 - 日本の動物福祉

主要指標 時系列サマリー  
犬現在飼育率、平均飼育頭数、総飼育頭数（拡大推計）

※犬の飼育頭数は796,796千頭、飼育率は2.7%。世帯別飼育率が下がる。飼育頭数の下り傾向は縮小。



一般社団法人 ペットフード協会 ホームページより  
<https://petfood.or.jp/data-chart/>

3

現状分析 - 日本の動物福祉

主要指標 時系列サマリー  
猫現在飼育率、平均飼育頭数、総飼育頭数（拡大推計）

※猫の飼育頭数は779,135千頭、飼育率は2.7%。飼育率は前年より縮小の記録。



一般社団法人 ペットフード協会 ホームページより  
<https://petfood.or.jp/data-chart/>

4

改正動物愛護管理法が施行



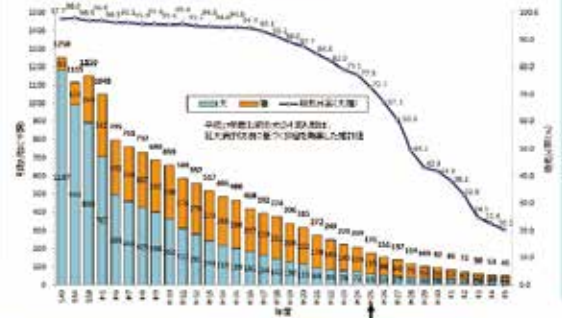
●2013年9月に改正動物愛護管理法が施行

- 以下の点が大きく変わりました。
- ①自治体が犬猫の引き取りを拒否できる規定の新設:
  - ②「殺処分がなくなることを目指す」目標の明記:
  - ③終末飼養の明文化:
  - ④動物取扱業の規制強化:

5

現状分析 - 日本の動物福祉

全国の犬・猫の引取り数の推移

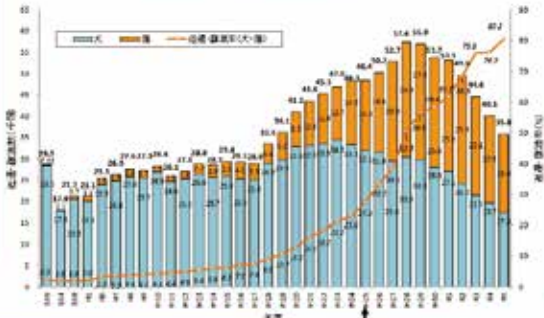


環境省自然環境局 動物部 動物愛護管理室ホームページより  
[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/sgo/2\\_data/statistics/dog\\_cat.html](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/sgo/2_data/statistics/dog_cat.html)

6

現状分析 - 日本の動物福祉

全国の犬・猫の返還・譲渡数の推移



環境省自然環境局 動物部 動物愛護管理室ホームページより  
[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/sgo/2\\_data/statistics/dog\\_cat.html](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/sgo/2_data/statistics/dog_cat.html)

7

現在の課題

ペットが医療福祉の妨げに



課題や問題の内容【複数回答可】(回答数/215)



2024年度に行った全国の国保直診医療施設を対象にした調査では、ペット飼育を理由にした入院・入所の拒否を約2割の施設が経験しています。また、訪問サービス提供困難が約1割ありました。

そして、最も多く問題として指摘されたのは、【残されたペットの処遇】であり、問題が発生した際には心ある担当者が孤軍奮闘していることが明らかになりました。

【調査先】在宅療養者におけるペット飼育に関する課題と対応方法についての調査研究 より  
[https://www.tokai-u.ac.jp/edu/proc/proc/research/proc/csr/research\\_data/tab04/103\\_Default.aspx?itemid=9106&page=1549](https://www.tokai-u.ac.jp/edu/proc/proc/research/proc/csr/research_data/tab04/103_Default.aspx?itemid=9106&page=1549)

8

現在の課題

動物保護ボランティアに負担急増

前項の通り医療や介護サービスの提供として、動物の存在が妨げになっており、動物への対応が不可欠であるにもかかわらず、その対応にあたる動物 NPO は無報酬どころか自己負担をして活動を行っているという現状は、生活困窮者のペット飼育問題において、非常に不健全な状態といえます。

認定NPO法人 人と動物の共生センター 動物相談ホットライン



人と動物の共生センター 生活困窮者のペット飼育問題 調査・活動報告書より  
<https://human-animal.jp/activity/kenkyu/0600.html>

9

改善の方向性

1. 教育と啓発活動  
 教育を通じて動物に対する関心と責任感を育てることが重要です。ペットを飼育する当事者は、何かあった時の対応についての普段から考えて取り組んでいただくことも大切です。  
 また、飼育者を支援する医療福祉介護の専門職や行政をはじめ、その方を取り巻く地域住民やボランティア含めこの課題を社会的な課題ととらえ一緒に取り組んでいくことが大切です。
2. 法律の強化  
 「動物愛護法」の改正では、虐待の早期発見や緊急保護を可能にする制度の導入も議論されています。これにより、動物の権利がより確実に守られる社会を目指せます。
3. 地域社会の協力促進  
 地域ぐるみで動物福祉を支える仕組みづくりも大切です。例えば、地域猫活動の推進や里親会の開催、動物保護団体と地域自治体の連携を深めることが効果的だと思います。  
 また本研修会を通じて深刻化する前に行政、医療福祉介護、動物福祉関係者が連携して対応できるような協力体制が構築できることを期待しています。

10

### 3. 研修会教材6 不妊去勢のあれこれ



1



2



3



4



5



6

## 野良猫問題の現状

### トラブル:

排泄物、ゴミ荒らし、夜間の鳴き声など、住民の生活被害。

### 住民の対立:

無責任な餌やりによる問題発生と、それに対する住民間の対立。

### 課題:

TNR活動・地域猫活動への理解不足、協力者不足。



写真出典: 特定NPO法人 人と動物の共生センター

7

## 多頭飼育崩壊

### 実態:

不妊去勢せず猫が繁殖し、飼育不能な状態に陥る。

### 発生要因:

飼い主の孤立、経済的困窮、精神・身体疾患など。

### 地域への影響:

悪臭、衛生問題、騒音、動物由来の病気リスク

### 行政・団体への負担:

多数の動物の保護・ケア・譲渡に多大な労力

### 本人への影響:

衛生上の理由による医療・介護等サービスの提供が困難病気のリスク



出典: 特定NPO法人 人と動物の共生センター

8

## 深刻化する前に予防



地域全体で関わる全ての人が関心を持つことが大切



9

## 3. 研修会教材7 動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者

## 動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者 ～孤立させないために～

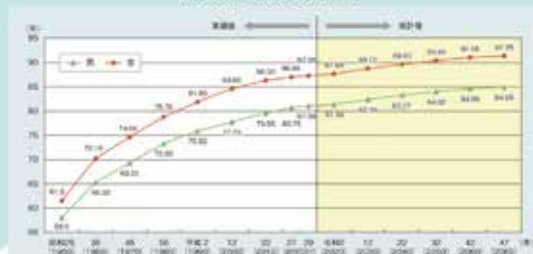
人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



1

## 日本人の平均寿命は伸びています

### 平均寿命の推移と将来推計



資料: 厚生労働省「国民生活基礎調査」(2010年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2010年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2015年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2020年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2025年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2030年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2035年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2040年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2045年)、厚生労働省「平均寿命の推移と将来推計」(2050年)

2

参考資料

### 犬の寿命・猫の寿命も伸びています

	犬の寿命	猫の寿命
1990年代	8〜9歳	5〜6歳
2000年代	10〜11歳	10歳
2010年代	13.5歳	14.0歳
2023年	14.6歳	15.9歳

ペットを家族と考える  
価値観の浸透

獣医師等と犬と猫に関する調査に関わる動物行動学助産院、獣医師雑誌 2001:2:77-87  
アノム、家庭動物看護 2024

3

長寿化が進む中で

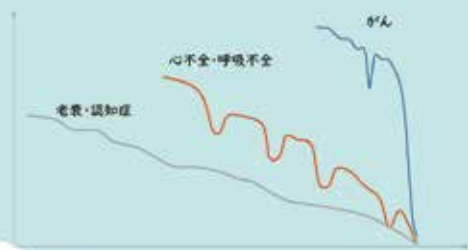
ペットと10年以上の時間を共にすることが当たり前になりました

飼い主自身の加齢に伴う変化を見据え

将来の備えを早めに検討することが求められます

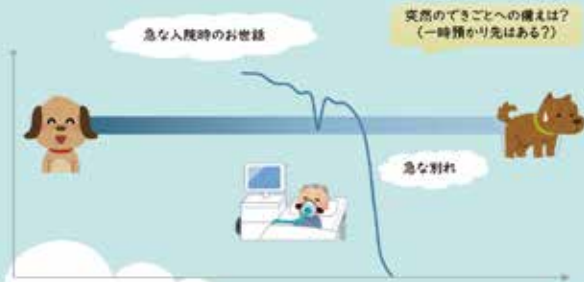
4

### 加齢に伴う疾患の生活能力低下（概念図）



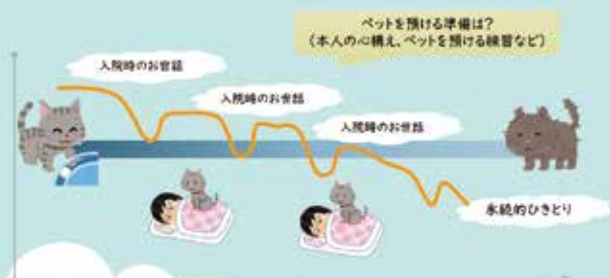
5

### たとえば急にがんと診断され



6

### 慢性心不全で入退院を繰り返すようになって



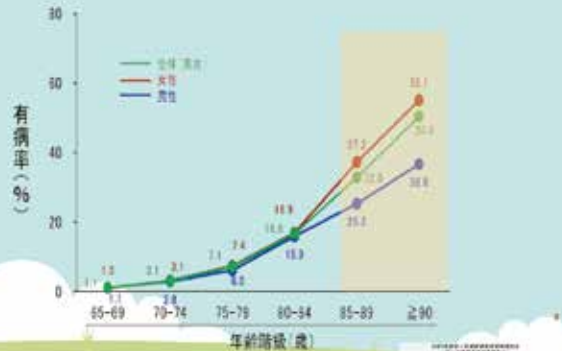
7

### 大病はしなかったけど徐々に認知症が表面化



8

## 高齢化と認知症の有病率



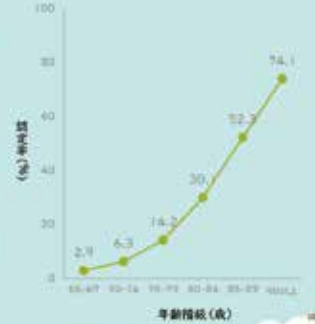
2022-2023年度における認知症の有病率推定値  
調査年度: 令和5年 調査先: 全国 調査方法: 横断調査

9

## 介護保険の現状

高齢者の生活を支える介護保険サービスは重要であり多くの方が利用しています

ただし  
原則として「要介護・要支援の本人に対する自立支援・生活援助」が利用対象であり  
ペットの散歩・餌やり・トイレの清掃などは介護保険の適用外です



2022年度介護保険サービス利用状況調査報告書(介護保険利用者) 1頁4行目  
(調査対象: 介護保険利用者)

10

## 在宅で利用できる介護保険サービス

利用系	訪問系	通所系	短期入所系	その他	
訪問系	訪問介護(ホームヘルプ) ホームヘルパーが自宅を訪問し、身体介護(入浴、排泄、食事)や生活援助(掃除、買い物など)を行う	訪問看護 看護師等が訪問し、病気療養、圧瘡のケア、療養上の相談支援を提供	訪問入浴介護 専用浴槽を持ち込み、自宅で入浴介護を行う	訪問リハビリテーション 理学療法士・作業療法士などが自宅でリハビリを実施	24時間対応・随時対応型訪問介護看護 24時間対応可能な訪問介護・看護を組み合わせたサービス
通所系	通所介護(デイサービス) 昼間だけ食事、入浴、レクリエーション、機能訓練などを提供	通所リハビリテーション(デイケア) 医療機関や民間などで専門的なリハビリを日中だけ受ける	認知症対応型通所介護 認知症の人を対象とした専門的なデイサービス	短期入所生活介護(ショートステイ) 介護施設に短期間入所して生活介護を受ける	短期入所療養介護 医療的ケアのための短期入所
その他	在宅訪問 かかりつけ、緊急対応、トイレ研修などの費用補助(上限20万円まで)	在宅介護支援(ケアマネジメント) ケアマネジャーがケアプランを作成し、サービス調整を行う	小規模多機能型居宅介護 訪問、通所、宿泊を組み合わせて提供	看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス) 小規模多機能型訪問看護を組み合わせたサービス	福祉用具貸与・販売 介護ベッド、車いす、手すりなどのレンタル(上限20万円まで)

11

## ペットがいることでサービスを利用しにくいことも

利用系	訪問系	通所系	短期入所系	その他
訪問系	訪問看護 様々な多機能型、攻撃的なペット、不衛生な住居にはサービスが入りづらい	訪問入浴介護 サービス利用者の生活支援が目的であるため利用者やペットの状況は対象にならない	訪問リハビリテーション 理学療法士・作業療法士などが自宅でリハビリを実施	24時間対応・随時対応型訪問介護看護 24時間対応可能な訪問介護・看護を組み合わせたサービス
通所系	通所介護(デイサービス) 昼間だけ食事、入浴、レクリエーション、機能訓練などを提供	通所リハビリテーション(デイケア) 医療機関や民間などで専門的なリハビリを日中だけ受ける	認知症対応型通所介護 認知症の人を対象とした専門的なデイサービス	短期入所生活介護(ショートステイ) 介護施設に短期間入所して生活介護を受ける
その他	在宅訪問 かかりつけ、緊急対応、トイレ研修などの費用補助(上限20万円まで)	在宅介護支援(ケアマネジメント) ケアマネジャーがケアプランを作成し、サービス調整を行う	小規模多機能型居宅介護 訪問、通所、宿泊を組み合わせて提供	看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス) 小規模多機能型訪問看護を組み合わせたサービス

12

## 多面的な支え

		強み	弱み
自助	自分の方で解決	自己決定を尊重できる 孤独に対応 多様なニーズに対応	高齢者では自力が低下 生活格差を反映しやすい 孤立を招く恐れ
公助	国や自治体など 公的機関が支援	最低限度の生活は保障 公平・中立 持続性がある	画一的な対応 財源の制約 対応が遅くなりがち
共助	地域や団体など 組織的な相互援助	地域に根ざしたきめ細かい対応 連携を醸成 公助を補完	地域別格差 人間関係の脆弱 少子高齢化で若い手不足
互助	個人間・友人・近所 家族などの非公式支援 ボランティア・NPO	信頼感に基づき柔軟 迅速で格差を コミュニティの形成促進	統廃や負担の偏りによる疲労 近所・家族関係が希薄化しつつある プライバシー問題

13

## 孤立の問題

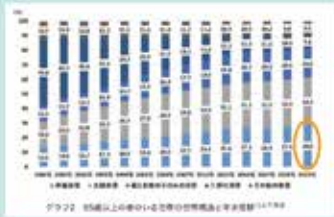
様々な孤立がペット飼育の問題を深めています

独居高齢者の増加もそうですし

精神障がいも要因も孤立につながります

14

### 65歳以上世帯の約3割が独居



共に暮らすパートナー  
がいない高齢者は  
孤立しやすい

近所の人との付き合いや社会活動の少ない高齢者は地域とのつながりが持てず  
頼れる家族・親族が近くに居なくなった場合に孤立しやすい

15

### 精神障害があると孤立しやすい理由

- ストレスに弱く、疲れやすく、対人関係やコミュニケーションが苦手な方が多い
- 外見からは分かりにくく、障害について理解されずに孤立している方もいる
- 病気のことを他人に知られたくないと思っている方も多い
- 周囲の言動を被害的に受け止め、恐怖感を持ってしまう方もいる
- 学生時代の発病や長期入院のために、社会生活に慣れていない方もいる
- 気が動転して声の大きさの調整が適切にできない場合もある
- 障害のために、何度も同じ質問を繰り返したり、つじつまの合わないことを一方的に話す方もいる

障害者の差別解消の観点から  
孤立しやすい理由

16

### それぞれの地域で

- 地域により強みや弱みがあるはずです
- 強みを活かし、弱みは連携などでカバーし
- 少しづつでも対応力を高めていくことが大切だと考えます



17

## 3. 研修会教材8 事例提示

### 困難事例（事例検討）

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



1

### 事例紹介

患者：A氏、男性

- ・年齢 70歳後半
- ・病名 中枢性副腎機能低下症・慢性心不全・COPD
- ・既往歴 脳梗塞、高血圧症
- ・訪問看護サービス利用までの経過  
30年以上前に、副腎機能不全症と診断され、ステロイドの服用が開始となった。高齢となり、慢性心不全・COPD・高血圧などの既往もあり、確実な服用ができておらず入院を繰り返すようになった。包括支援センターの担当者より確実な服薬管理目的で訪問看護の依頼あり、訪問看護が開始となった。

2

## 事例紹介

- ・ADL 自立・室外では一本杖使用・車を運転する
- ・家族構成 本人（独居）、妻（50歳代で他界）  
長女（市外）、長男夫婦（市内）
- ・生活歴 製造業の会社を立ち上げ社長をしていた。妻を若くして病気で亡くした後は、会社を長男に譲って隠居生活をしている。元来、動物好きで、妻が亡くなったさみしさもあり、室内犬4頭を飼って、暮らしている。

3

## 事例紹介

- ・介護保険 介護認定無し
- ・フォーマルサービス  
訪問看護（医療保険 週1回）  
訪問介護（総合事業 週2回）  
在宅薬剤指導（居宅療養管理指導 週1回）
- ・インフォーマルサービス  
長女（仕事に余裕があれば週に1~2回帰宅）  
長男夫婦（最近は、仲違いして連絡を取っていない）

4

## A氏の犬への思い

犬が大好きで、室内犬を4頭飼っている。

犬の世話があるから入院はできん。



寝るときは一緒に寝るんじや。

こんなん（犬たち）がいるから、自分も生きていけるんじや。

5

## A氏の目標とする生活

犬の世話ができて、犬に囲まれながら自宅での生活が継続できる。



6

## 普段のペット飼育状況

犬の世話をするのが生きがい。犬に対する愛情はあるが、自己流の飼い方をしている。犬の食事は、A氏が食べるものと同じものを与えるのでよく太っている（生活習慣病？）。犬の体、特に口や歯、肛門あたりの状態から世話ができていないことが見て取れる状況であった。室内も衛生的ではない状況。また、犬が病气やけがをしても、受診行動はとらず、A氏自身で治療させることができていると思っている。そのため、1頭は骨折で動けず寝たきりになっていた。もう1頭は、口から泡をだし、呼吸が荒く末期状態であった。

7

## ある日、訪問看護に行ってみたら

玄関で声掛けをするが、犬の鳴き声だけでA氏からの返事がない。居間まで上がってみると、A氏はソファに裸で横たわっており、意識朦朧状態。A氏と犬は排泄物で汚れてしまっており、部屋中も便や尿で足の踏み場がない状況。救急要請し診察の結果、慢性硬膜下血腫の診断で入院となった。

8

## この事例をもとに、 すこし考えてみましょう!!

このような状況になる  
まで、A氏が受診しな  
かったのはなぜ??

A氏入院後、  
犬たちの行方は??



どのような支援があれば  
このような事態にならな  
かったのだろうか??

9

## A氏のその後

- A氏は、急性期の治療を終え、現在は回復期リハビリ病棟で、自宅退院をしたいとの一心で、リハビリにがんばっている。
- 回復期リハビリ病棟で、A氏・長女さんを交えて今後の方針についてカンファレンスを行った。
- A氏は、今すぐにも犬が持っている自宅に帰りたいという気持ちが強い。しかし、転倒の危険性や、認知機能の低下から、独居生活は困難であるという事で、長女さんは、介護保険の申請をおこない、施設入所を希望された。(A氏の同意は得られていない状況)
- 回復期リハビリ病院を退院後、入所を予定している有料老人ホームについての情報⇒A氏の自宅と同じ市内にあり、犬1匹であれば本人が世話をすることを条件に、飼うことが出来るという話がきている。

10

## ワンちゃん達のその後

・犬種:4匹ともヨークシャー・テリア

ラテ(コーヒーのラテ):メス 10歳 骨折(よく吠える)

ラブ :メス 8歳

ドル :オス 7歳

ラン(花の蘭) :メス 2歳 心不全

・A氏の入院後、長男さん夫婦・長女さんが交代で実家に帰り、犬のお世話をしている。誰か飼い主が見つければ譲りたい気持ちはやまやまだけど、「お父さんが帰った時に悲しむといけなから」とお世話を続けられている。

・残念ながら、A氏入院後、ラテとランは、亡くなったそうです。

11

## 3. 研修会教材9 自己紹介と各種問いスライド

### アイスブレイク

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



1

### アイスブレイクとは

アイスブレイクとはその名の通り、緊張した固い空気や心を氷にたとえてそれを壊す、溶かすというもの。会議や研修をはじめめる前に簡単なゲームや自己紹介を行い、初対面の人同士のぎこちない雰囲気を和ませるための方法です。



2

13時50分まで

### 他己紹介リレー

- ペア作り:まずグループ内で2人から3人で1組のペアを作ります。
- 自己紹介:各ペアで、それぞれ1分ずつ自己紹介をします(名前、所属、簡単な趣味など)。相手の話をしっかりと聞くことが重要です。
- 他己紹介リレー:ペアの片方が、もう片方の相手のことを他の参加者に紹介します。例えば、「〇〇さんは、〇〇部の〇〇さんで、週末はよく〇〇をされているそうです」といった形です。これを順番にリレー形式で行っていきます。
- まとめ:全員が紹介し終わったら、お互いの紹介で気付いたことなどを簡単に共有します。

3

13時50分まで

### 妄想自己紹介

妄想自己紹介はただの自己紹介ではなく、妄想しながら自己紹介をしていくアイスブレイクです。  
まずお名前と所属や職種を自己紹介してください。そして下記の中から一つ選んで、やりたいことや趣味、こうだったらいいのになと思うことを自由に妄想してください。

- ①もし宝くじが当たったら～
- ②もし魔法が使えるなら～
- ③もし王様だったら～
- ④もし( )だったら～

※④番目は自由に考えてください

4

## プログラム 1回目①～③

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業

### 安心してペットと過ごすには何が必要?

- ①困った状態を見かけたことがありますか?  
(現状や思いを共有しましょう)
- ②通常時から関わりながらできることは?

5

6

## プログラム 2回目

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業

### スライドを見てどう思ったかを話し合う

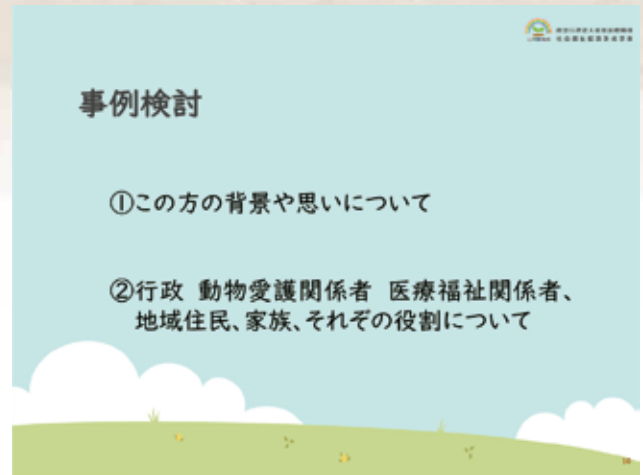
- ①不適切飼育の背景は?
- ②普段できること・緊急時できること。

7

8

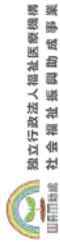


9



10

※国診協ホームページに、上掲の教材の重複部分を除いた「統合版教材」もご用意しています。  
裏表紙の二次元バーコードからご覧ください。



# 2025年 人間と動物の医療福祉を 豊かにするための研修会 解決に向けた参考資料

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会  
JNICA・Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association

## 4. 解決に向けた参考資料

### (1) 本書の使い方

高齢者がペットの飼育を継続困難になる問題に対し、単に「手放す」のではなく、「地域全体で支えて共生する」方向への解決策が進められています。主な解決策は、1) 外部支援サービスの活用、2) ボランティアネットワークの構築、そして3) 法的・制度的な準備です。

各地域で資源が偏在していることから解決策毎に内容をまとめ、キーワード検索してご利用いただけるよう構成しています。ご自身の地域で活用できる制度や方法について参考にしていただければ幸いです。

### 1) 外部サービス・外部サポートの活用

飼い主だけで世話を抱え込まず、外部の力を借ります。

① ペットシッター・訪問介護サービスの利用  
服薬や体力低下でエサやりやトイレ掃除が難しい場合、専門スタッフが自宅を訪問して世話を代行するサービスがあります（一部では無償ボランティア活動も行われている）。

② ペットの一時預かり（フォスター制度）  
入院や施設入所時に、里親が見つかるまでボランティアの自宅でペットを一時的に預かる制度。

③ 終生飼育・ペット信託の利用  
万が一の際、代わりに飼育をしてくれる施設や団体にペットを託す「ペット信託」や「終生飼育サービス」を活用する。

④ 高齢者向け・新たなマッチング  
高齢者がペットを飼い続ける、あるいは新たな高齢者世代がペットを引き取る仕組みも生まれています。

・シニアドッグ・サポーター制度（シニア犬の譲渡）  
高齢者のペット手放しが増えている現状を受け、シニア犬を高齢者にマッチングさせ、お互いに寄り添う譲渡プログラム。

・成人・高齢のペットの引き取り  
若いペットではなく、既に落ち着いている高齢ペットを飼うことで、世話の負担を減らす。

⑤ 飼育が完全に困難になった場合の譲渡・施設利用  
やむを得ず手放す必要がある場合の選択肢です。

・老犬・老猫ホーム  
高齢になったペットを終生、または一時的に預かってくれる民間施設です。  
里親探し・譲渡会；保護団体を通じて新しい主を探します。最近では、高齢者同士でペットを譲り受ける「シニア枠」を設けている団体もあります。

2) 地域連携・ボランティアの活用

行政と民間が連携し、孤立を防ぐ体制づくりが進んでいます。

- ① 地域包括支援センターへの相談：介護の相談と共にペットの世話が困難になったことを相談し、地域のケアマネジャー等と連携して対応する。
- ② 「動物愛護推進委員」との連携：都道府県が委嘱する動物愛護推進委員が、地域包括ケアの枠組みと連携し、支援を行う。
- ③ 地域のボランティア・専門家による訪問支援：近所の人や地域の保護団体が協力し、散歩や掃除をサポートする。散歩の代行、ペット用品の買い出し、清掃、健康チェックなどを無償または低価格で提供する団体があります。
- ④ 獣医師会によるサポート：東京都獣医師会のように、高齢飼い主向けの相談窓口や支援の仕組みを構築している地域があります。

3) 法的・制度的な準備（終活）

- ① 「後見人」や「死後事務委任契約」の活用：飼い主が認知症や死した際、ペットの世話を誰が引き継ぐか、費用はどうするかを、法的な「成年後見制度」や「死後事務委任契約」で決めておく。
- ② 「ペットの遺言書」の作成：誰に預けるか、どこへ譲渡するかを明記した文書を残す。
- ③ 万が一に備えた法的・経済的な準備（事前対策）：飼い主が突然倒れた際に、ペットの行き先をあらかじめ確保しておく対策です。
  - ・ ペット 信託・死後事務委任契約：自分の死後や入院後にペットを飼育・管理してもらうための資金と預け先を、法的に確保しておく契約です。
  - ・ 緊急連絡先・引継ぎ票の作成：緊急時に誰がペットを保護するかを記したカードやノート（「ペットのもしもメモ」など：埼玉県）を準備しておくことが、多くの自治体で推奨されています。（社会福祉協議会実施の「命のバトン」を活用）

(2) 人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン

環境省が2021年（令和3年）3月に策定した「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」は、多頭飼育問題の背景にある「飼い主の困窮（人の問題）」に着目し、福祉部局と動物愛護部局が連携して解決を図るための指針です。

多頭飼育問題（いわゆる多頭飼育崩壊）は、単なる動物の飼いすぎではなく、飼い主の社会的孤立、経済的困窮、精神的な疾患や認知症などが複雑に絡み合っています。

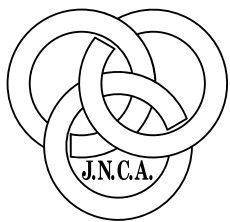
- 1) 目的：
  - 動物への対処だけでなく、飼い主への福祉的支援を並行して行うことで、問題の根本解決と再発防止を目指します。
  - 対象：地方公共団体の動物愛護管理部局、社会福祉部局、民間団体、地域住民など。
- 2) 多頭飼育問題が与える「3つの影響」
  - ガイドラインでは、解決すべき課題を以下の3つの視点で整理しています。
    - ・ 飼い主の生活状態の悪化：セルフ・ネグレクトや経済的破綻、健康被害。
    - ・ 動物の状態の悪化：不適切な飼育環境による病気、怪我、異常繁殖、虐待状態。
    - ・ 周辺の生活環境の悪化：悪臭、騒音、害虫の発生などによる近隣住民への被害。
- 3) 対策の4つのステップ
  - 自治体や関係機関が取るべき対応プロセスは以下の通りです。
    - ・ 認知・探知：住民からの苦情や福祉部局の訪問時に兆候を早期発見する。
    - ・ 状況把握・アセスメント：飼い主の生活状況と動物の飼育状況を多角的に把握する。
    - ・ 対応の実施：
      - 不妊去勢手術の実施、譲渡の検討、飼い主への福祉サービス（介護・生活保護等）の提供。
    - ・ 再発防止（アフターフォロー）：
      - 解決後も地域で見守りを行い、再び頭数が増えないよう支援する。
- 4) 連携の重要性
  - ・ ガイドラインの最大の特徴は、「多機関連携」の仕組み作りです。
  - ・ 動物愛護部局：動物の健康管理、不妊去勢の指導、譲渡先探し。
  - ・ 社会福祉部局：
    - 地域包括支援センターや保健福祉センターによる飼い主の生活再建支援。
    - ・ 民間団体・ボランティア：動物の保護、一時預かり、清掃などの実働支援。

- ・捕獲と搬送の困難さ：  
多数の動物を病院へ連れて行くにはキャリヤーや車両、人手が必要ですが、社会的孤立状態にある飼い主にはこれらを用意するのが困難です。

### (3) まとめ

重要なのは、「高齢者だからペットを飼ってはいけない」ではなく、「高齢者がペットと暮らせる環境を地域で整える」という考え方です。早めに入院や緊急時の体制（誰に頼むか、どこに相談するか）を確認し、地域のペットシッターやボランティア等のサービスを積極的に活用してください。





事業内容は、いつでも電子媒体で見られます！  
二次元バーコードでアクセスください。

独立行政法人福祉医療機構 2025(令和7)年度社会福祉振興助成事業

## 人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業 活動報告書

実施団体

**公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会** (略称:国診協)  
Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association (JNCA)

〒105-0012 東京都港区芝大門2-6-6 VORT芝大門4F

URL <https://www.kokushinkyo.or.jp/>

(発行 2026年3月)